

平成 26 年

兵庫県感染症発生動向調査事業

年 報

兵庫県立健康生活科学研究所

健康科学研究センター

(兵庫県感染症情報センター)

はじめに

平成 26 年に西アフリカで発生したエボラ出血熱の流行を受けて、兵庫県内でも患者の発生を想定した基本的な対応が整備されました。また 8 月に、デング熱に国内で感染した患者が約 70 年ぶりに報告されたことから、平成 27 年 4 月には「蚊媒介感染症に関する特定予防指針」が策定され、予防に向けた対策が強化されています。

われわれ地方衛生研究所では、患者サーベイランスに加えて、病原体サーベイランスを実施しております。その成果が報われ、適切なサーベイランス制度の下、わが国の土着株（麻しんウイルス D5 型）による麻しんの感染が 3 年間確認されないことが認められ、平成 27 年 3 月 27 日、世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が麻しんの排除状態にあることが認定されました。

兵庫県における感染症の患者発生に関する調査は、昭和 52 年から県独自の監視体制を発足させて以来、約 38 年にわたる歴史があります。この調査は、兵庫県医師会、郡市医師会、定点医療機関をはじめとする関係機関各位のひとかたならぬご理解とご尽力で成り立っております。

今後もの確な感染症対策のための適切な情報提供を迅速に行えるよう、より一層努力してまいりますので、関係各機関の皆様方には引き続きご協力いただきますようお願い申し上げます。

ここに平成 26 年の事業年報をとりまとめました。本書が感染症対策の資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

平成 28 年 1 月

兵庫県立健康生活科学研究所
健康科学研究センター
所長 前田 盛

平成 26 年報告週対応表

報告週	期 間	報告週	期 間
1	平成 25 年 12 月 30 日～1 月 5 日	27	6 月 30 日 ～ 7 月 6 日
2	1 月 6 日 ～ 1 月 12 日	28	7 月 7 日 ～ 7 月 13 日
3	1 月 13 日 ～ 1 月 19 日	29	7 月 14 日 ～ 7 月 20 日
4	1 月 20 日 ～ 1 月 26 日	30	7 月 21 日 ～ 7 月 27 日
5	1 月 27 日 ～ 2 月 2 日	31	7 月 28 日 ～ 8 月 3 日
6	2 月 3 日 ～ 2 月 9 日	32	8 月 4 日 ～ 8 月 10 日
7	2 月 10 日 ～ 2 月 16 日	33	8 月 11 日 ～ 8 月 17 日
8	2 月 17 日 ～ 2 月 23 日	34	8 月 18 日 ～ 8 月 24 日
9	2 月 24 日 ～ 3 月 2 日	35	8 月 25 日 ～ 8 月 31 日
10	3 月 3 日 ～ 3 月 9 日	36	9 月 1 日 ～ 9 月 7 日
11	3 月 10 日 ～ 3 月 16 日	37	9 月 8 日 ～ 9 月 14 日
12	3 月 17 日 ～ 3 月 23 日	38	9 月 15 日 ～ 9 月 21 日
13	3 月 24 日 ～ 3 月 30 日	39	9 月 22 日 ～ 9 月 28 日
14	3 月 31 日 ～ 4 月 6 日	40	9 月 29 日 ～ 10 月 5 日
15	4 月 7 日 ～ 4 月 13 日	41	10 月 6 日 ～ 10 月 12 日
16	4 月 14 日 ～ 4 月 20 日	42	10 月 13 日 ～ 10 月 19 日
17	4 月 21 日 ～ 4 月 27 日	43	10 月 20 日 ～ 10 月 26 日
18	4 月 28 日 ～ 5 月 4 日	44	10 月 27 日 ～ 11 月 2 日
19	5 月 5 日 ～ 5 月 11 日	45	11 月 3 日 ～ 11 月 9 日
20	5 月 12 日 ～ 5 月 18 日	46	11 月 10 日 ～ 11 月 16 日
21	5 月 19 日 ～ 5 月 25 日	47	11 月 17 日 ～ 11 月 23 日
22	5 月 26 日 ～ 6 月 1 日	48	11 月 24 日 ～ 11 月 30 日
23	6 月 2 日 ～ 6 月 8 日	49	12 月 1 日 ～ 12 月 7 日
24	6 月 9 日 ～ 6 月 15 日	50	12 月 8 日 ～ 12 月 14 日
25	6 月 16 日 ～ 6 月 22 日	51	12 月 15 日 ～ 12 月 21 日
26	6 月 23 日 ～ 6 月 29 日	52	12 月 22 日 ～ 12 月 28 日

目 次

1. 事業の概要

- 1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム 1
- 1. 2 地域の区分と地域別定点数 4

2. 患者発生状況

- 2. 1 概要 6
- 2. 2 腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症及び定点把握対象疾病の動向 .. 8
 - (1) 腸管出血性大腸菌感染症 9
 - (2) 侵襲性肺炎球菌感染症 10
 - (3) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く） .. 11
 - (4) RS ウイルス感染症 12
 - (5) 咽頭結膜熱 13
 - (6) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 14
 - (7) 感染性胃腸炎 15
 - (8) 水痘 16
 - (9) 手足口病 17
 - (10) 伝染性紅斑 18
 - (11) 突発性発しん 19
 - (12) 百日咳 20
 - (13) ヘルパンギーナ 21
 - (14) 流行性耳下腺炎 22
 - (15) 急性出血性結膜炎 23
 - (16) 流行性角結膜炎 24
 - (17) 細菌性髄膜炎
(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く) .. 25
 - (18) 無菌性髄膜炎 26
 - (19) マイコプラズマ肺炎 27
 - (20) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る） 28
 - (21) 性器クラミジア感染症 29
 - (22) 性器ヘルペスウイルス感染症 31
 - (23) 尖圭コンジローマ 33
 - (24) 淋菌感染症 35
 - (25) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 37
 - (26) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 38
 - (27) 薬剤耐性緑膿菌感染症 39

3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例	4 0
(2) 細菌による食中毒（疑）事例	4 1
(3) その他の細菌検査	4 1
(4) クドア（ヒラメ寄生虫）の検査	4 1
(5) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査	4 1
(6) 結核 QFT 検査	4 3
(7) インフルエンザ流行予測調査検査成績	4 4
(8) 日本脳炎流行予測調査結果	4 4
(9) リケッチア等の検査	4 4
(10) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等検出結果	4 5
(11) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数	4 6

4. 資料

(1) 全数把握対象疾病の患者数	4 9
(2) 定点把握対象疾病の週（月）別患者数	5 3
(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数	5 6
(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数	5 9
(5) 定点把握対象疾病（月報）の性別患者数	6 1

兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

1. 事業の概要

1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム

図1に患者情報に関する兵庫県感染症発生動向調査システムを示す。コンピュータ・オンライン・システムは、結核およびその他の感染症の患者情報を迅速に収集、解析、還元することにより、適切な予防措置を講じ、流行を未然に防止することを目的として、昭和62年に結核・感染症サーベイランスシステムとして導入された。平成4年以降は厚生行政総合情報システム（WISH）上での運用となり、平成10年に対象疾病の若干の増加と一部疾病名の変更および患者の年齢階級区分の変更が行われた。同時にシステムの名称も兵庫県結核・感染症発生動向調査システムと改められた。

平成11年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」が施行された。これに伴い、当研究センター内に基幹地方感染症情報センターが設置され、政令市を含む兵庫県全域の感染症情報の集計・解析・情報還元の中核を担うこととなった。

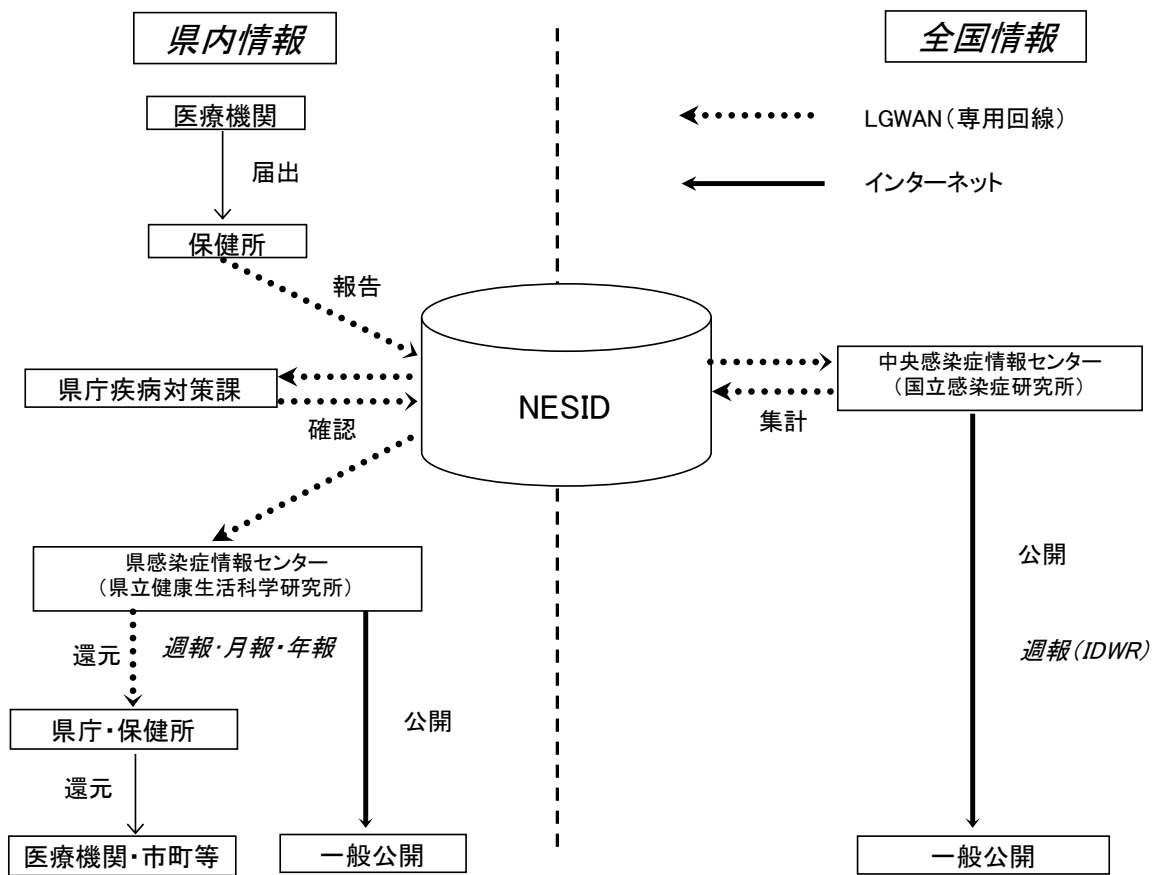
なお、この時点では結核予防法は感染症法に一元化されず、結核は感染症発生動向調査の対象疾病とはならなかった。平成15年11月5日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律」の施行に伴い感染症発生動向調査も一部変更された。

平成18年4月からは感染症発生動向調査システムが全面的に新しくなった。従来、収集された情報は全国の保健所、都道府県及び政令市、国の各レベルで集積され、そのためのデータベースプログラムが各組織に配布されていたが、新システム（NESID）では、これらの情報はブラウザで取り扱われて、国レベルで一元管理されることになった。ネットワークは従来どおりWISHを用い、インターネットからは隔離されたクローズドなイントラネットとなっている。回線は国と全国の地方自治体を相互接続した広域ネットワークであるLGWAN（総合行政ネットワーク）を用いている。新システムにより、情報伝達の迅速化、セキュリティ向上、対象疾病等に変更があった場合の迅速対応（全国にプログラムを配布し、インストールする必要がないため）が図られた。

平成19年4月の感染症法の改正では、発生動向調査対象疾病の類型分けの変更や結核予防法の統合等がなされた。感染症法の改正がその後も行われた結果、平成26年12月31日現在の対象疾病は疑似症を含めて113疾病（表1、表2）となっている。

当感染症情報センターでは、表1、表2に示す感染症発生動向調査システムの対象疾病である1類～5類感染症、新型インフルエンザ等及び指定感染症の合計111疾病（疑似症を除く）のうち、全数把握対象疾病（86疾病）については県内すべての医療機関からの患者発生届出を、定点把握対象疾病（25疾病）については県内に指定された医療機関（全294定点）からの報告を、保健所を通じて集計・解析し、感染症の動向に関するコメント・グラフを付し週報、月報及び年報として保健所、市町、医師会、医療機関等に還元するとともに、ホームページを通じて広く県民に公開している。

図1 兵庫県感染症発生動向調査システム



NESID : National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases 厚生労働省感染症サーベイランスシステム

表1 全数把握の対象疾病（86疾病）

（平成26年12月31日現在）

	対象疾病
1類感染症(7疾病)	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
2類感染症(5疾病)	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群 ^A 、(12)鳥インフルエンザ(H5N1)
3類感染症(5疾病)	(13)コレラ、(14)細菌性赤痢、(15)腸管出血性大腸菌感染症、(16)腸チフス、(17)パラチフス
4類感染症(43疾病)	(18)E型肝炎、(19)ウエストナイル熱 ^B 、(20)A型肝炎、(21)エキノコックス症、(22)黄熱、(23)オウム病、(24)オムスク出血熱、(25)回帰熱、(26)キャサヌル森林病、(27)Q熱、(28)狂犬病、(29)コクシジオイデス症、(30)サル痘、(31)重症熱性血小板減少症候群 ^C 、(32)腎症候性出血熱、(33)西部ウマ脳炎、(34)ダニ媒介脳炎、(35)炭疽、(36)チクングニア熱、(37)つつが虫病、(38)デング熱、(39)東部ウマ脳炎、(40)鳥インフルエンザ ^D 、(41)ニパウイルス感染症、(42)日本紅斑熱、(43)日本脳炎、(44)ハンタウイルス肺症候群、(45)Bウイルス病、(46)鼻疽、(47)ブルセラ症、(48)ベネズエラウマ脳炎、(49)ヘンドラウイルス感染症、(50)発しんチフス、(51)ポツリヌス症、(52)マラリア、(53)野兎病、(54)ライム病、(55)リッサウイルス感染症、(56)リフトバレー熱、(57)類鼻疽、(58)レジオネラ症、(59)レプトスピラ症、(60)ロッキー山紅斑熱
5類感染症(22疾病)	(61)アメーバ赤痢、(62)ウイルス性肝炎 ^E 、(63)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ² 、(64)急性脳炎 ^F 、(65)クリプトスポリジウム症、(66)クロイツフェルト・ヤコブ病、(67)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(68)後天性免疫不全症候群、(69)ジアルジア症、(70)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(71)侵襲性髄膜炎菌感染症、(72)侵襲性肺炎球菌感染症、(73)水痘(入院例に限る) ² 、(74)先天性風しん症候群、(75)梅毒、(76)播種性クリプトコックス症 ² 、(77)破傷風、(78)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(79)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(80)風しん、(81)麻しん、(82)薬剤耐性アシネトバクター感染症 ²
新型インフルエンザ等感染症(2疾病)	(108)新型インフルエンザ、(109)再興型インフルエンザ
指定感染症(2疾病)	(110)中東呼吸器症候群 ^{G、1} 、(111)鳥インフルエンザ(H7N9)

^A 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^B ウエストナイル脳炎を含む。^C 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^D H5N1及びH7N9を除く。^E E型肝炎及びA型肝炎を除く。^F ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。^G 病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。¹ 平成26年7月26日より追加。² 平成26年9月19日より追加。

表2 定点把握対象疾病（5類感染症、疑似症）

（平成26年12月31日現在）

患者定点	対象疾病
小児科定点(週報) 129定点、11疾病	(83)RSウイルス感染症、(84)咽頭結膜熱、(85)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(86)感染性胃腸炎、(87)水痘、(88)手足口病、(89)伝染性紅斑、(90)突発性発しん、(91)百日咳、(92)ヘルパンギーナ、(93)流行性耳下腺炎
インフルエンザ定点(週報) 199定点、1疾病	(94)インフルエンザ ^H
眼科定点(週報) 35定点、2疾病	(95)急性出血性結膜炎、(96)流行性角結膜炎
STD定点(月報) 46定点、4疾病	(97)性器クラミジア感染症、(98)性器ヘルペスウイルス感染症、(99)尖圭コンジローマ、(100)淋菌感染症
基幹定点(週報) 14定点、6疾病	(94)インフルエンザ ^H ※ただし、入院患者に限定する。 (86)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(101)クラミジア肺炎(オウム病を除く)、(102)細菌性髄膜炎 ¹ 、(103)マイコプラズマ肺炎、(104)無菌性髄膜炎
基幹定点(月報) 14定点、4疾病	(105)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(106)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(82)薬剤耐性アシネトバクター感染症 ³ 、(107)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症 ⁴ 298定点	法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (112)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、(113)発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該感染症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

^H 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。¹ インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。³ 平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。⁴ 症候群サーベイランスシステムで実施。

1. 2 地域の区分と地域別定点数

図2に、二次医療圏を単位とする地域の区分を示す。表3に、5類感染症の地域別定点数と人口の関係を示す。平成26年の定点医療機関は本誌の62～67ページに示している。

平成26年の定点数は、インフルエンザ199定点、小児科129定点、眼科35定点、STD46定点、基幹14定点である。

図2 地域の区分

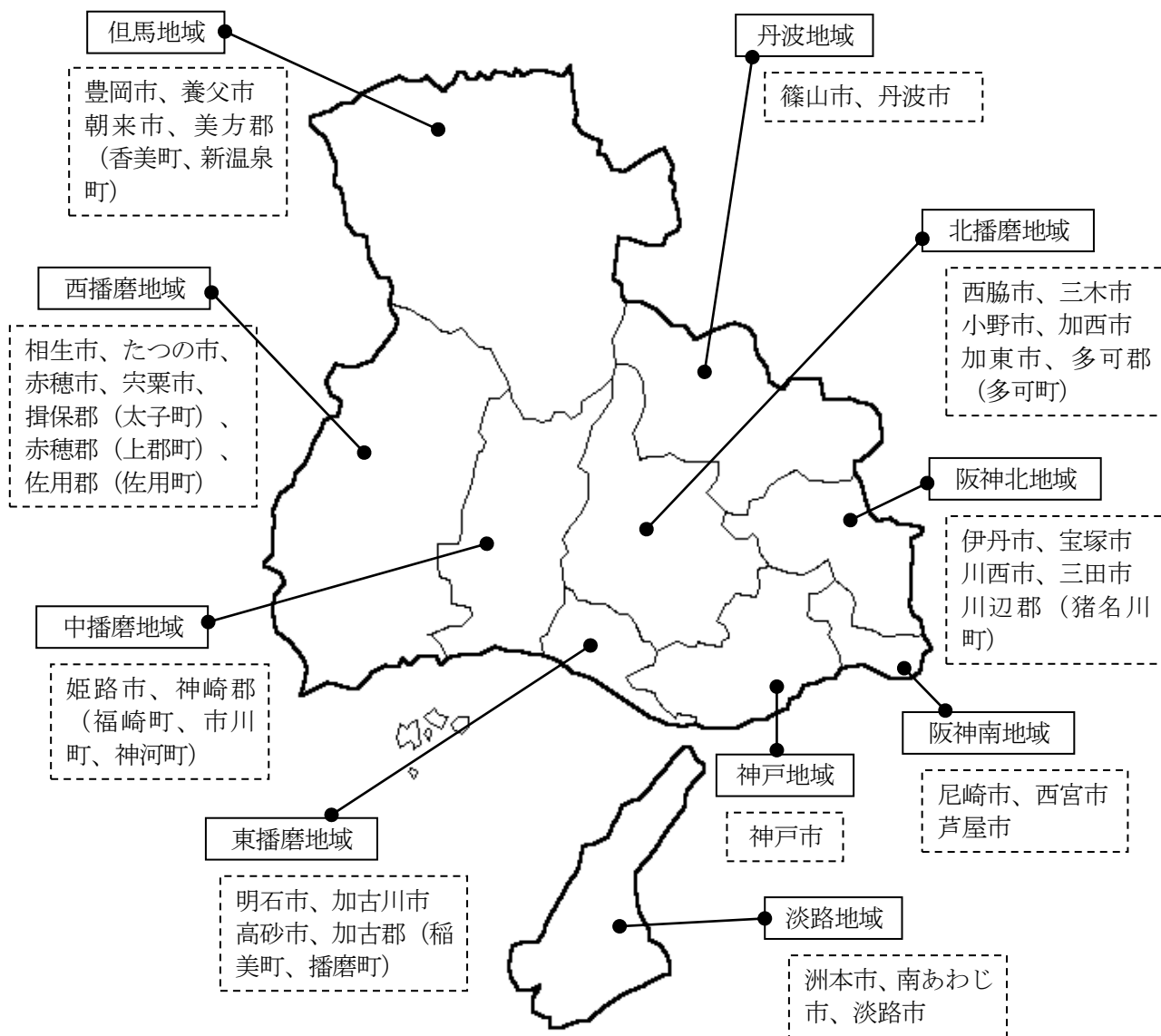


表3 地域別定点数と人口の関係

区 分	人 口 (万人)	人口比 (%)	インフルエンザ定点		小児科定点		眼科定点		STD定点		基幹定点	
			定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)
神戸地域	153.8	27.8	48	3.2	31	5.0	10	15.4	12	12.8	3	51.3
阪神南地域	103.0	18.6	32	3.2	21	4.9	7	14.7	8	12.9	2	51.5
阪神北地域	72.7	13.1	21	3.5	14	5.2	4	18.2	5	14.5	0	—
東播磨地域	71.5	12.9	25	2.9	16	4.5	5	14.3	6	11.9	1	71.5
北播磨地域	27.6	5.0	13	2.1	8	3.5	2	13.8	3	9.2	1	27.6
中播磨地域	57.9	10.4	21	2.8	14	4.1	4	14.5	5	11.6	1	57.9
西播磨地域	26.4	4.8	14	1.9	9	2.9	1	26.4	2	13.2	2	13.2
但馬地域	17.2	3.1	11	1.6	7	2.5	1	17.2	2	8.6	2	8.6
丹波地域	10.7	1.9	6	1.8	4	2.7	0	—	1	10.7	1	10.7
淡路地域	13.7	2.5	8	1.7	5	2.7	1	13.7	2	6.9	1	13.7
合 計	554.3	100.0	199	2.8	129	4.3	35	15.8	46	12.1	14	39.6

(人口:平成26年7月1日推計人口)

2. 患者発生状況

2. 1 概要

2. 1. 1 全数把握対象疾病

表4に全数把握対象疾病の年間患者数を示す。平成26年は、1類感染症は報告がなく、2類感染症は結核1,312人であった。患者数の多い疾病は、3類感染症では腸管出血性大腸菌感染症114人、4類感染症ではA型肝炎25人、レジオネラ症50人、5類感染症ではアメーバ赤痢44人、後天性免疫不全症候群35人、侵襲性肺炎球菌感染症98人、梅毒42人であった。

表4 全数把握対象疾病の年間患者数（届出のあった疾病）

（平成27年10月26日現在の当情報センターにおける把握）

疾 病 名	患者数 (H24)	患者数 (H25)	患者数 (H26)
結核	1,415	1,451	1,312
コレラ	0	1	0
細菌性赤痢	5	1	4
腸管出血性大腸菌感染症	95	161	114
腸チフス	2	3	1
パラチフス	0	1	0
E型肝炎	1	0	3
A型肝炎	5	5	25
エキノкокクス症	0	1	0
重症熱性血小板減少症候群 ^{*A*}	—	2	0
チクングニア熱	0	1	0
つつが虫病	2	2	3
デング熱	8	9	7
日本紅斑熱	1	5	11
日本脳炎	0	1	1
マラリア	3	0	2
野兔病	0	0	1
ライム病	0	2	0
レジオネラ症	49	42	50
アメーバ赤痢	29	43	44
ウイルス性肝炎 ^{*B}	15	12	11
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*4}	—	—	12
急性脳炎 ^{*C}	10	2	16
クロイツフェルト・ヤコブ病	6	12	5
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	15	12
後天性免疫不全症候群	46	52	35
ジアルジア症	7	6	3
侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*3}	—	8	13
侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*3}	—	0	2
侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*3}	—	52	98
水痘（入院例） ^{*4}	—	—	7
髄膜炎菌性髄膜炎 ^{*2}	1	0	—
先天性風しん症候群	2	0	1
播種性クリプトкокクス症 ^{*4}	—	—	1
梅毒	18	36	42
破傷風	2	3	1
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	0	3
風しん	281	1174	7
麻疹	16	7	19

^{*A}病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。^{*B}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*C}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトパレー熱を除く。

^{*1}平成25年3月4日より追加。^{*2}平成25年3月31日までの届出対象。^{*3}平成25年4月1日より追加。^{*4}平成26年9月19日より追加。

平成 25 年と比較すると、平成 26 年は A 型肝炎、日本紅斑熱、急性脳炎、梅毒、麻しん等の患者数が増加し、腸管出血性大腸菌感染症、後天性免疫不全症候群、風しん等の患者数が減少した。特に、風しんは、平成 25 年に 1,174 人と全数把握対象疾病になった平成 20 年以降で最大の患者数を示したが、平成 26 年には 7 人にまで激減した。

平成 25 年 4 月 1 日に全数把握対象疾病に追加された侵襲性肺炎球菌感染症は年間患者数が 99 人に達し、また、平成 26 年 9 月 19 日より追加されたカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、3 カ月あまりで 12 人の報告があり、今後の患者数の増加が注目される。

全国的な動向として、A 型肝炎は、平成 26 年 2～3 月に、東北地方での限局的な流行に続き、西日本を中心に患者数の増加が報告された。感染経路として約 80%の事例で経口感染が届出されており、兵庫県を含む 21 府県の患者から、解析領域の遺伝子配列がほぼ完全に一致する A 型肝炎ウイルス IA（広域型）が検出された。このことから、広域に流通した共通の感染源によるものである可能性が考えられたが、感染源は同定されていない。

デング熱は、平成 26 年 8 月に国内で感染した患者が約 70 年ぶりに報告され、東京都内公園周辺等で感染したと考えられる症例の検出が相次いだ。兵庫県内でも西宮市内での感染が否定できない事例が 1 件発生した。厚生労働省は、平成 27 年 4 月 28 日に「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」を策定し、発生の予防に取り組んでいる。

麻しんは、フィリピン等のアジア諸国からの輸入例を発端として、平成 26 年は全国的に患者数の増加がみられたが、適切なサーベイランス体制の下で、土着株（麻しんウイルス D5 型）による麻しんの感染が 3 年間確認されないことが認められ、平成 27 年 3 月 27 日、世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が麻しんの排除状態にあることが認定された。

2. 1. 2 定点把握対象疾病

表 5 に週報疾病別年間患者数を、表 6 に月報疾病別年間患者数を示す。

週報対象疾病のうち、インフルエンザ定点及び小児科定点対象疾病で平成 26 年の患者数が多い疾病は、インフルエンザ 63,157 人、感染性胃腸炎 49,331 人、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 8,320 人、水痘 6,713 人、ヘルパンギーナ 5,899 人、の順であった。平成 25 年と比較すると、インフルエンザ [43,302 人→63,157 人] と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 [5,672 人→8,320 人] は患者数が増加し、手足口病 [9,839 人→1,623 人] は患者数が顕著に減少した。基幹定点対象疾病では、マイコプラズマ肺炎の患者数が [258 人→86 人] と減少した。クラミジア肺炎（オウム病を除く）の患者は、平成 26 年は 1 年を通して報告がなかった。また、感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるもの）は、平成 25 年 10 月 24 日より基幹定点対象疾病に追加され、平成 26 年から 1 年間を通して患者数が集計された。

月報対象疾病のうち性感染症では、平成 25 年と比べて平成 26 年に顕著な変動はみられなかった。薬剤耐性菌感染症では、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の患者数が [136 人→75 人] と減少した。薬剤耐性アシネトバクター感染症は、定点把握対象疾病となった平成 23 年 2 月 1 日から平成 25 年までに県内で患者は 1 人も報告されていなかったが、平成 26 年 9 月 19 日に全数把握対象疾病に変更される直前の 8 月に患者（女性、65 歳以上）2 名が報告された。

なお、症候群サーベイランスシステムで実施している疑似症については、平成 26 年は報告がなかった。

表5 疾病別年間患者数（週報）

疾 病 名	患者数	定点あたり (H24)	患者数	定点あたり (H25)	患者数	定点あたり (H26)
インフルエンザ ^{*A}	67,789	340.65	43,302	217.60	63,157	319.58
RSウイルス感染症	3,917	30.36	4,145	32.13	4,078	31.86
咽頭結膜熱	1,613	12.50	2,677	20.75	2,975	23.16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7,023	54.44	5,672	43.97	8,320	64.88
感染性胃腸炎	56,577	438.58	51,604	400.03	49,331	384.75
水痘	8,175	63.37	7,353	57.00	6,713	52.37
手足口病	686	5.32	9,839	76.27	1,623	12.63
伝染性紅斑	805	6.24	313	2.43	665	5.18
突発性発しん	3,642	28.23	3,324	25.77	3,350	26.11
百日咳	136	1.05	86	0.67	72	0.56
ヘルパンギーナ	4,804	37.24	4,693	36.38	5,899	45.75
流行性耳下腺炎	1,965	15.23	919	7.12	1,179	9.19
急性出血性結膜炎	21	0.60	20	0.57	11	0.31
流行性角結膜炎	656	18.74	1,104	31.54	1,283	36.66
細菌性髄膜炎 ^{*B}	17	1.21	19	1.58	32	2.47
無菌性髄膜炎	61	4.36	41	3.42	29	2.23
マイコプラズマ肺炎	484	34.57	258	21.50	86	6.69
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	25	1.79	8	0.67	0	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルス) ^{*1}	—	—	1	0.08	81	6.33

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

^{*1}平成25年10月14日より追加。

表6 疾病別年間患者数（月報）

疾 病 名	患者数	定点あたり (H24)	患者数	定点あたり (H25)	患者数	定点あたり (H26)
性器クラミジア感染症	854	18.57	912	19.83	873	18.98
性器ヘルペスウイルス感染症	264	5.74	288	6.26	317	6.89
尖圭コンジローマ	145	3.15	160	3.48	144	3.13
淋菌感染症	379	8.24	350	7.61	374	8.13
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	424	30.29	475	36.54	525	37.50
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	31	2.21	136	10.46	75	5.36
薬剤耐性緑膿菌感染症	6	0.43	4	0.31	10	0.71
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0	0.00	0	0.00	2	0.14

^{*1}平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

2. 2 腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症及び定点把握対象疾病の動向

平成26年の感染症発生動向調査事業における週報及び月報の患者情報を解析し、週（月）別患者数、保健所別患者数、及び年齢階級別患者数を求めた。STD対象疾病では性別・年齢階級別患者数を求めた。これらの統計表は付表として本誌49～61ページに掲載した。

全数把握対象疾病のうち患者数の多い腸管出血性大腸菌感染症と侵襲性肺炎球菌感染症、及び定点把握対象疾病について、各疾病の動向を以下に示す。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の年間患者数は114人で、昨年の161人より減少した。26週（6月下旬）から33週（8月中旬）までが患者発生が多い時期となっていた。菌陽性者が10人以上の集団発生は、7～8月に姫路市内の保育所でO157:H7による事例が1件報告されている。

年齢階級別患者発生割合は10歳未満38%、10歳代14%、20歳代15%、30歳代8%、40歳代3%、50歳代12%、60歳代4%、70歳以上6%であった。

原因となる菌株の広域性を迅速把握する目的で、国立感染症研究所で行われている遺伝子解析の結果、MLVA型14c007に含まれる菌が6～7月を中心に17都府県から179株分離され、兵庫県内でも1株検出されたが、疫学的な共通性は見いだせていない。

図3-1 腸管出血性大腸菌感染症の患者発生状況

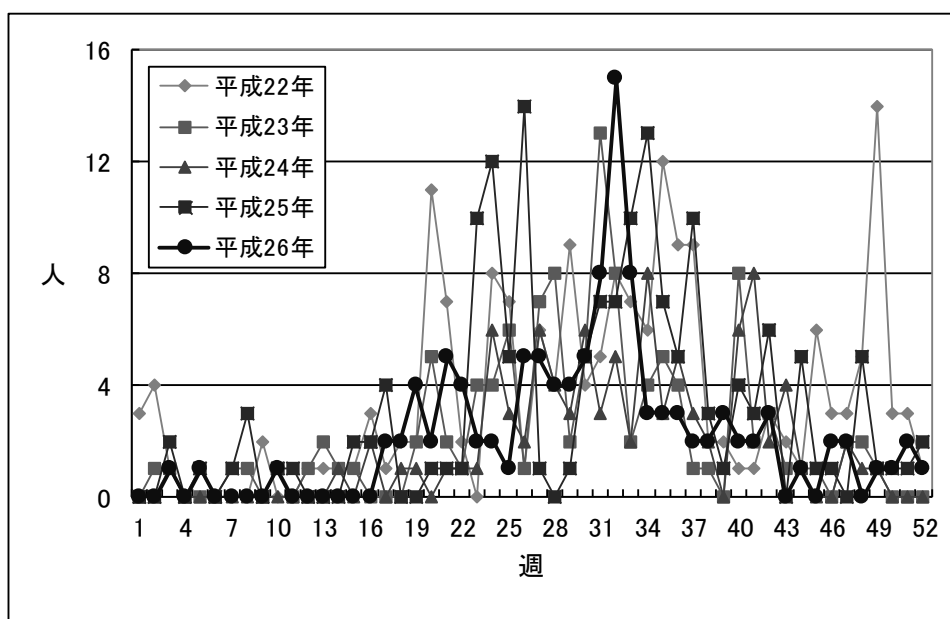
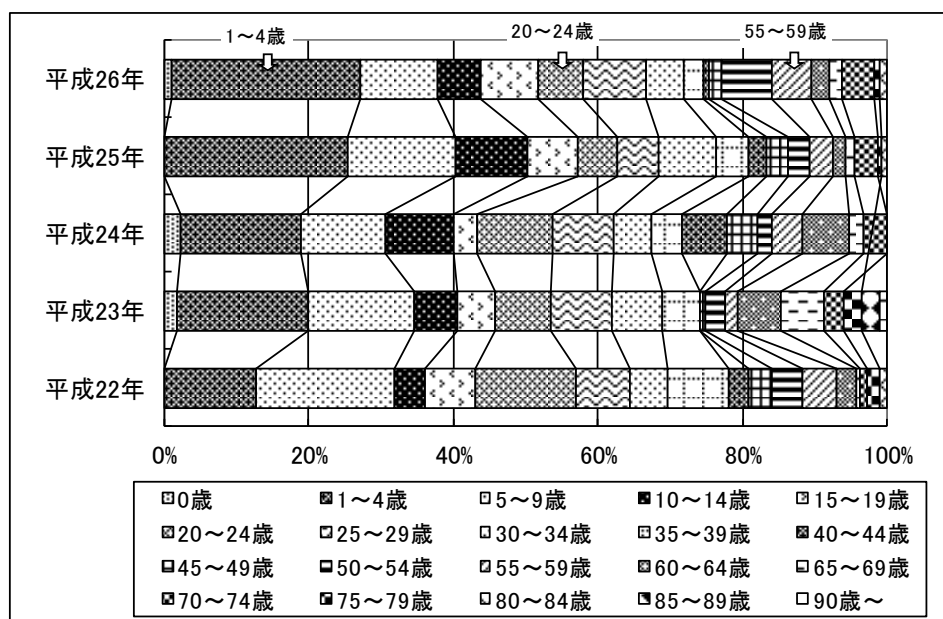


図3-2 腸管出血性大腸菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(2) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症の年間患者数は 98 人となり、冬から初夏にかけて患者発生が増加する傾向が見られた。性別分布は男性 57 人、女性 41 人であった。

年齢階級別患者発生割合は 10 歳未満 31%、10 歳代 3%、20 歳代 1%、30 歳代 4%、40 歳代 2%、50 歳代 7%、60 歳代 13%、70 歳代 18%、80 歳代 15%、90 歳以上 5% となり、4 歳以下の乳幼児と 60 歳以上の高齢者として全体の 82% を占めていた。

図 4-1 侵襲性肺炎球菌感染症の患者発生状況

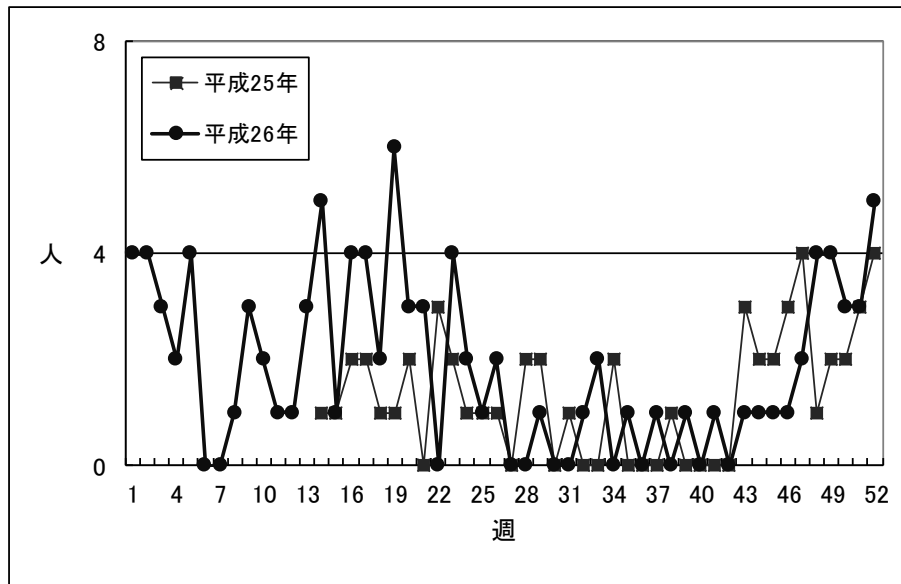
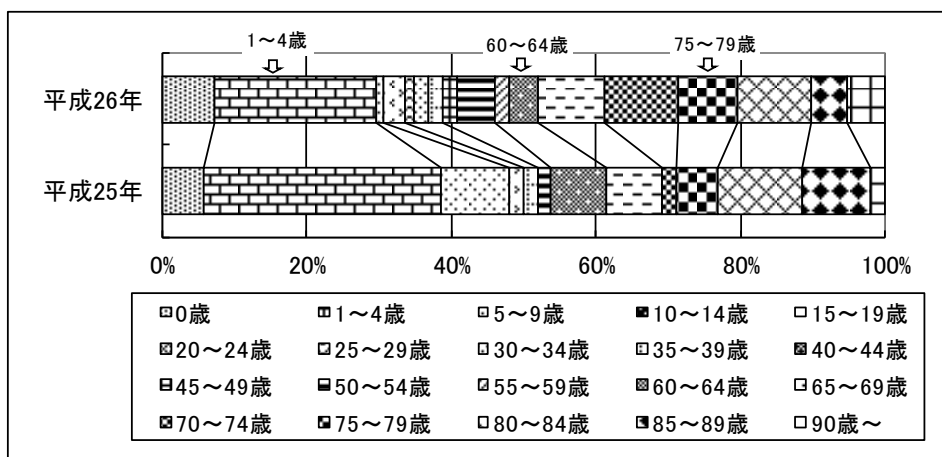


図 4-2 侵襲性肺炎球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(3) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

年間患者数は63,157人（定点あたり319.58人）で、昨年の43,302人（217.60人）より増加した。週別定点あたり患者数は5週（1月下旬）に最大のピーク（32.07人）を示した後、9週（2月下旬）及び11週（3月中旬）に小ピークを形成しながら減少し、19週（5月上旬）に定点あたり1.0人を下回った。また、年末は49週（12月上旬）から流行開始の目安とされる定点あたり1.0人を超えて流行期に入り、51週（12月中旬）には注意報レベル基準値（定点あたり患者数10人）を、52週（12月下旬）には警報レベル開始基準値（定点あたり患者数30人）を超えた。

当研究所で行った検査ではA(H1N1)pdm09、A(H3N2)型及びB型のインフルエンザウイルスを291件検出した。年初から5週（1月下旬）にかけては、主にA(H1N1)pdm09、次いでA(H3N2)型を検出した。6週（2月上旬）以降はB型の検出が増えたが、A(H1N1)pdm09も引き続き検出した。また、46週（11月中旬）以降の年末には、A(H3N2)型を検出した。

年齢階級別患者発生割合では、9歳以下の患者が全体の55%、14歳以下の患者が全体の75%を占めていた。

図5-1 インフルエンザの週別定点あたり患者発生状況

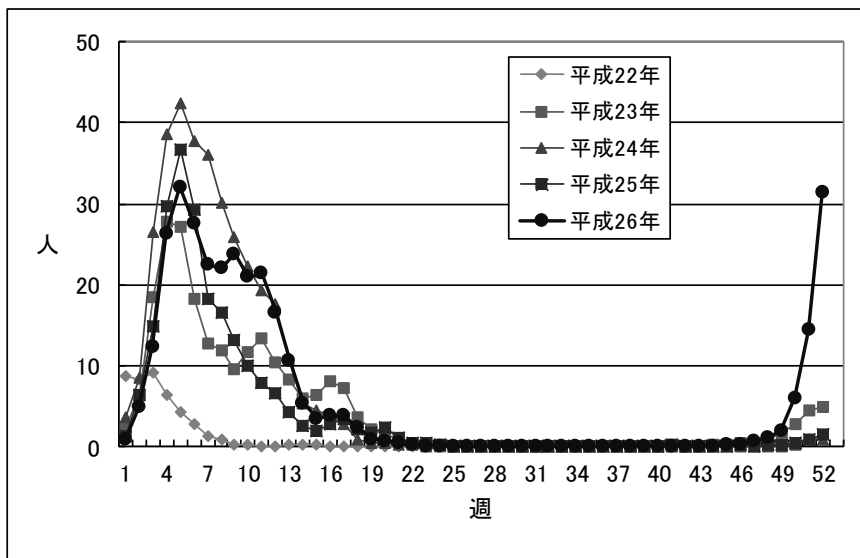
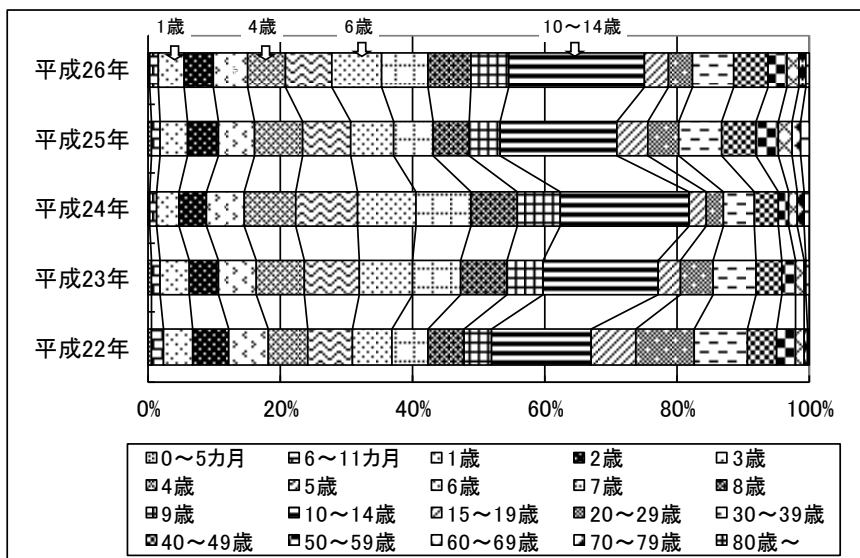


図5-2 インフルエンザの年齢階級別患者発生割合



(4) RS ウイルス感染症

本疾病は平成 15 年 11 月に小児科定点対象疾病となった。患者報告には検査診断が必要だが、平成 23 年 10 月より迅速診断キットによる抗原検査の保険適用が拡大され、従来入院患者に加えて外来患者の乳児（1 歳未満）等にも適用可能となっている。

平成 26 年の年間患者数 4,078 人（定点あたり 31.86 人）は、観測開始以降で最大の患者数となった平成 25 年の 4,145 人（32.13 人）に次ぐ値となった。

週別定点あたり患者数は 36 週（9 月上旬）から増加し、46 週（11 月中旬）以降年末まで例年より多い患者数で推移した。

年齢階級別患者発生割合では、0 歳の患者が全体の 37%、1 歳以下の患者が 69%、2 歳以下の患者が 85%を占めていた。

図 6-1 RS ウイルス感染症の週別定点あたり患者発生状況

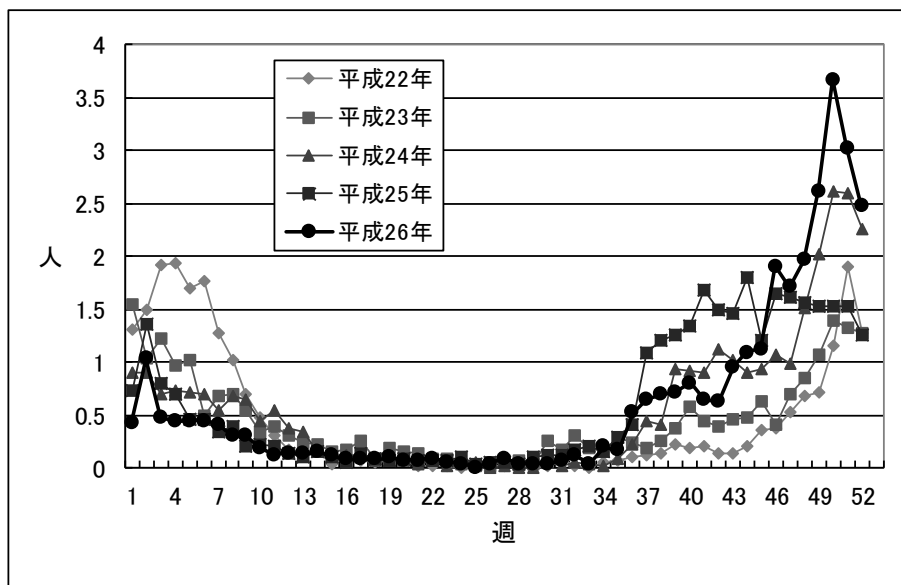
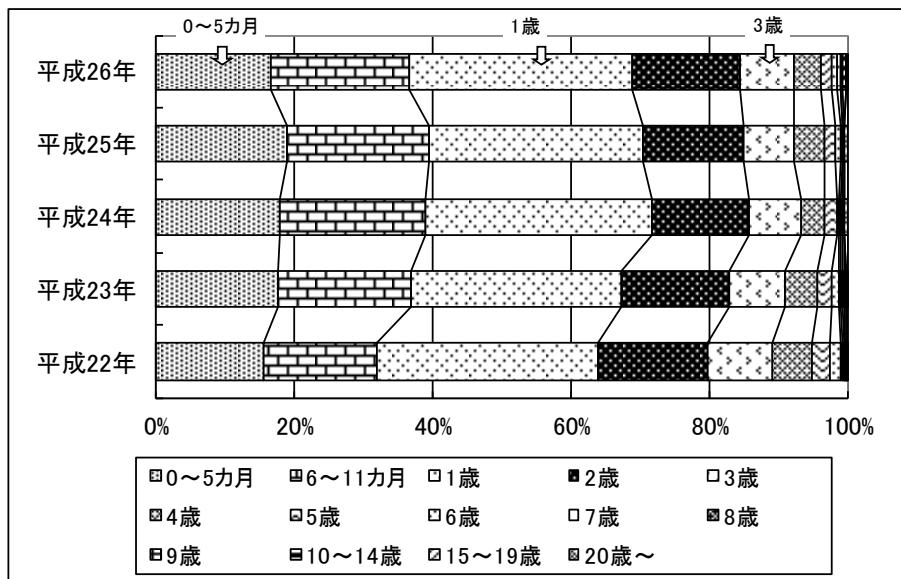


図 6-2 RS ウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合



(5) 咽頭結膜熱

年間患者数は2,975人(定点あたり23.16人)で、昨年の2,677人(20.75人)より増加した。

週別定点あたり患者数は23週(6月上旬)をピーク(1.15人)に、20週(5月中旬)から28週(7月中旬)まで0.7人以上の状態が続いた。

年齢階級別患者発生割合は1歳19%、4歳15%、2歳13%、3歳12%、5歳11%の順で多く、0~5歳の患者が全体の77%、0~9歳の患者が全体の93%を占めていた。

図7-1 咽頭結膜熱の週別定点あたり患者発生状況

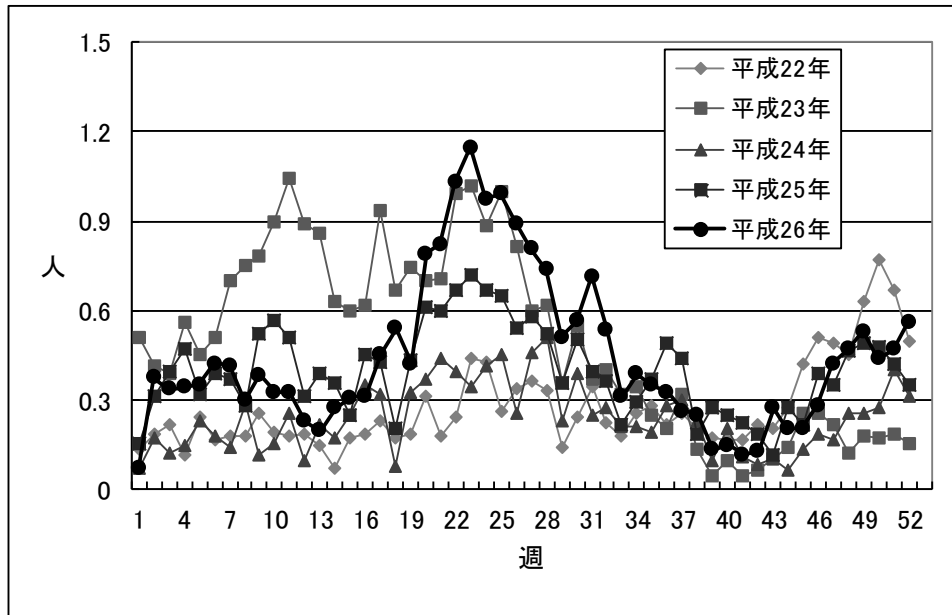
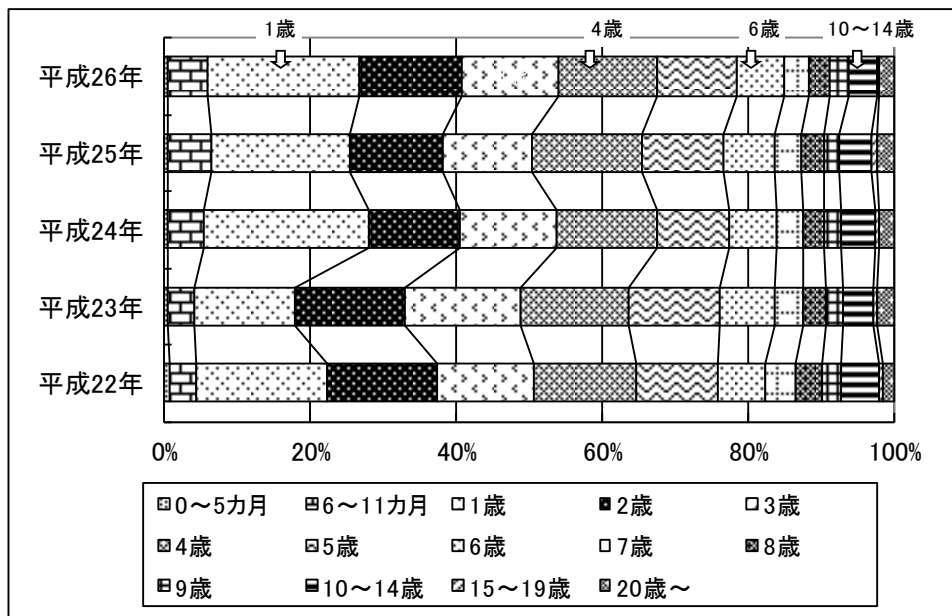


図7-2 咽頭結膜熱の年齢階級別患者発生割合



(6) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年間患者数は8,320人(定点あたり64.88人)で、昨年の5,672人(43.97人)より増加した。

例年冬期から初夏に患者数の多い疾病である。平成26年の週別定点あたり患者数は、20週(5月中旬)から29週(7月中旬)までと46週(11月中旬)以降に増加し、51週(12月中旬)にピーク(2.57人)を示した。

年齢階級別患者発生割合は5歳15%、4歳14%、6歳13%、3歳9%、7歳9%の順で多く、1~9歳の患者が全体の84%、1~14歳の患者が全体の94%を占めていた。

図8-1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別定点あたり患者発生状況

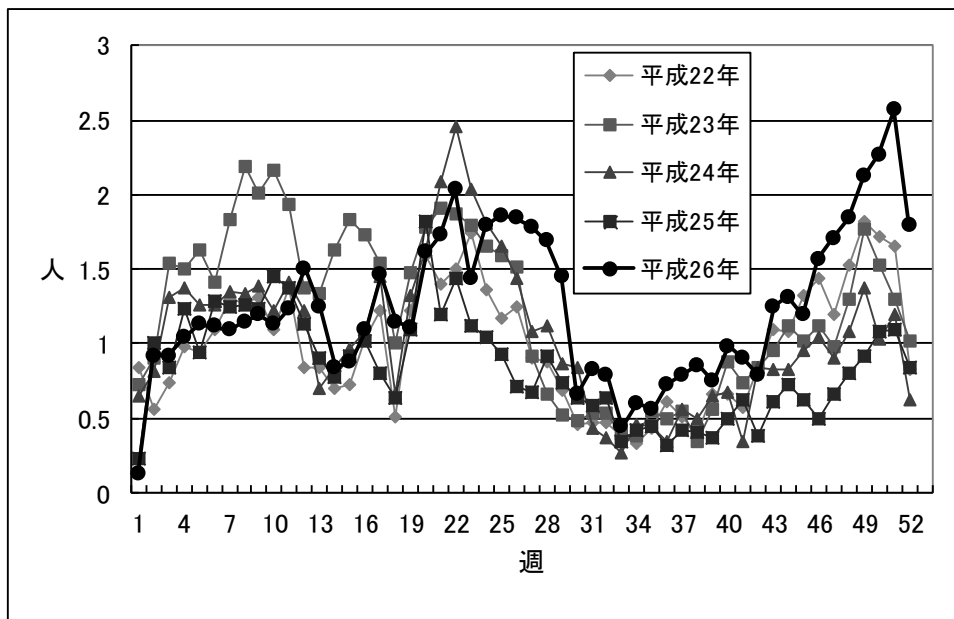
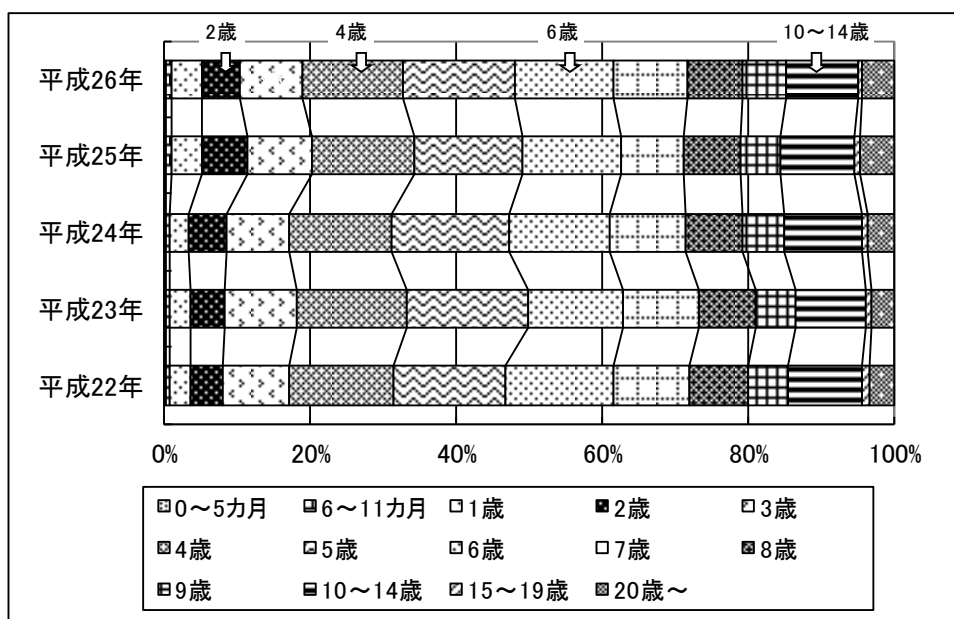


図8-2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢階級別患者発生割合



(7) 感染性胃腸炎

年間患者数は49,331人（定点あたり384.75人）で、昨年の51,604人（400.03人）より減少した。週別定点あたり患者数は2週（1月上旬）から6週（2月上旬）までと16週（4月中旬）から25週（6月中旬）にかけて増加し、秋期に向けて減少を続けた後、46週（11月中旬）以降に再び増加した。18週（4月下旬）と19週（5月上旬）の患者数の落ち込みは大型連休期間に該当している。週別定点あたり患者数のピークは21週（5月下旬）の12.95人であった。

年齢階級別患者発生割合は1歳15%、2歳12%、3歳10%、4歳10%、5歳8%の順で多く、0～5歳の患者が全体の61%、0～9歳の患者が全体の80%を占めていた。

図 9-1 感染性胃腸炎の週別定点あたり患者発生状況

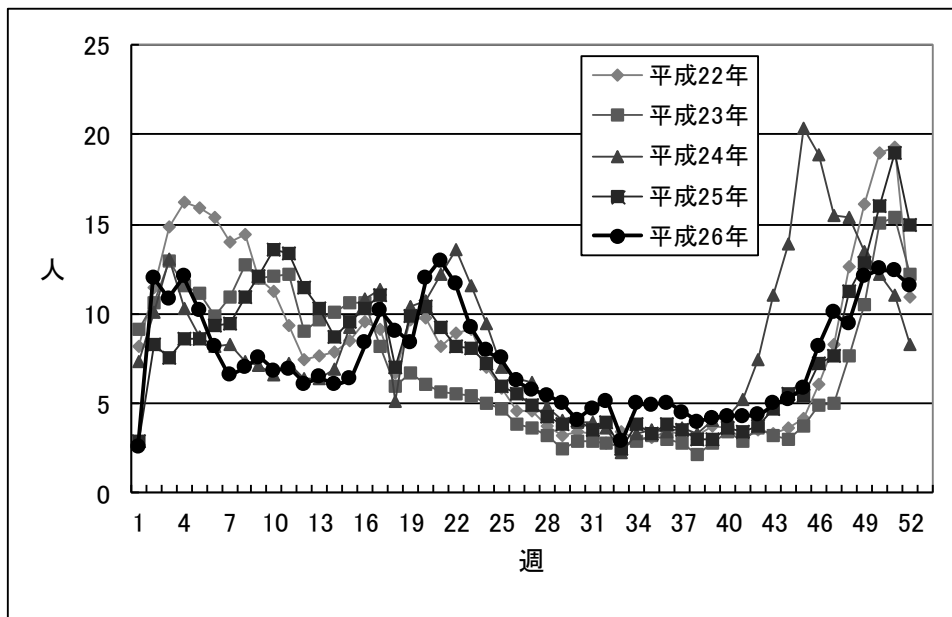
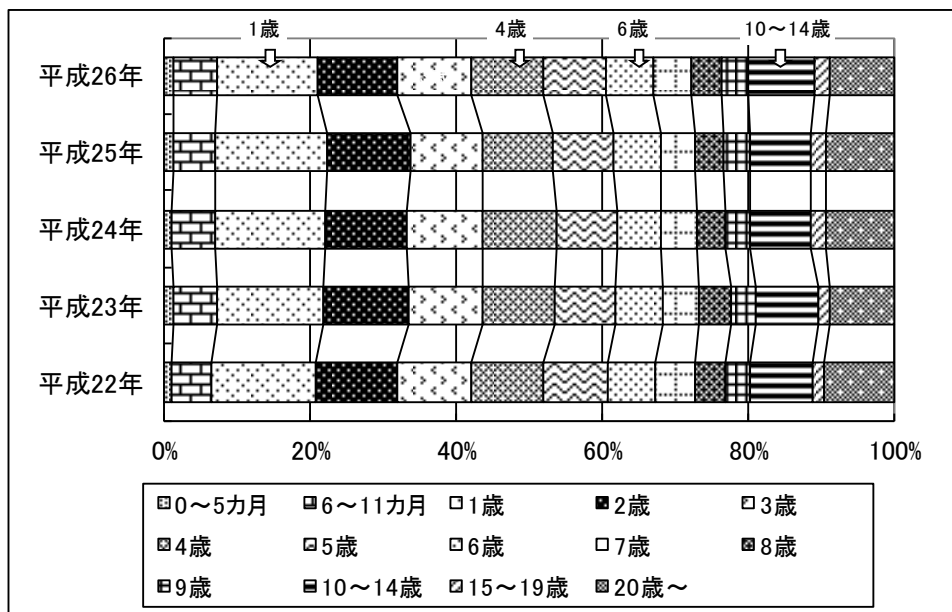


図 9-2 感染性胃腸炎の年齢階級別患者発生割合



(8) 水痘

年間患者数は6,713人(定点あたり52.37人)で、昨年の7,353人(57.00人)より減少した。

週別定点あたり患者数は例年明けから5月末頃まで多い状態が続き、夏から秋にかけて減少した後、10月下旬から年末にかけて再び増加するパターンを示す。平成26年は2週(1月上旬)にピーク(2.57人)を示した後、例年に比べて変動の小さい少ない患者数で推移した。

年齢階級別患者発生割合は3歳17%、2歳16%、1歳16%、4歳15%、5歳12%の順で多く、0~5歳の患者が全体の80%、0~7歳の患者が全体の93%を占めていた。

平成26年10月1日から水痘ワクチンが定期接種化され、これに先立って、平成26年9月19日から24時間以上の入院を要した水痘症例が全数届出対象となった。

図10-1 水痘の週別定点あたり患者発生状況

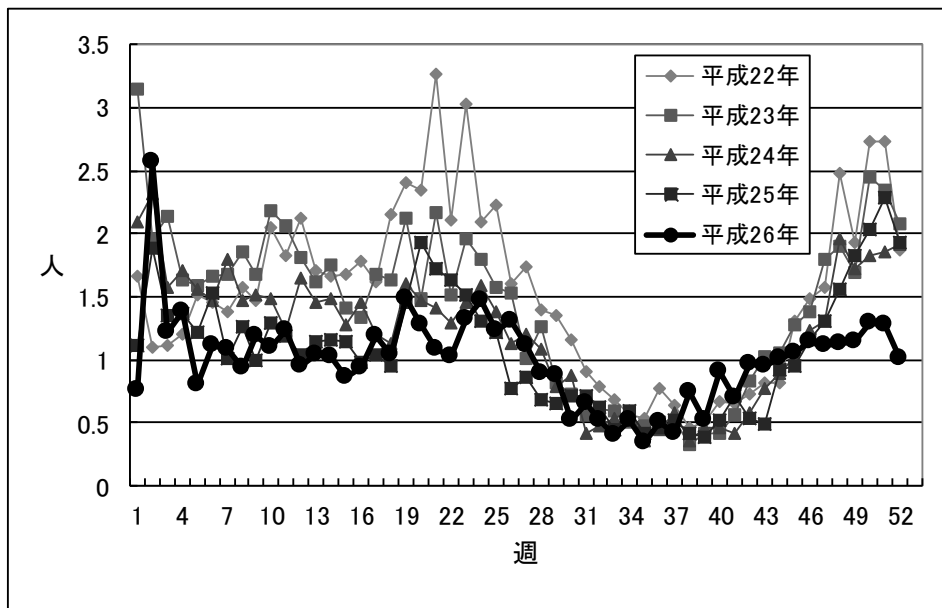
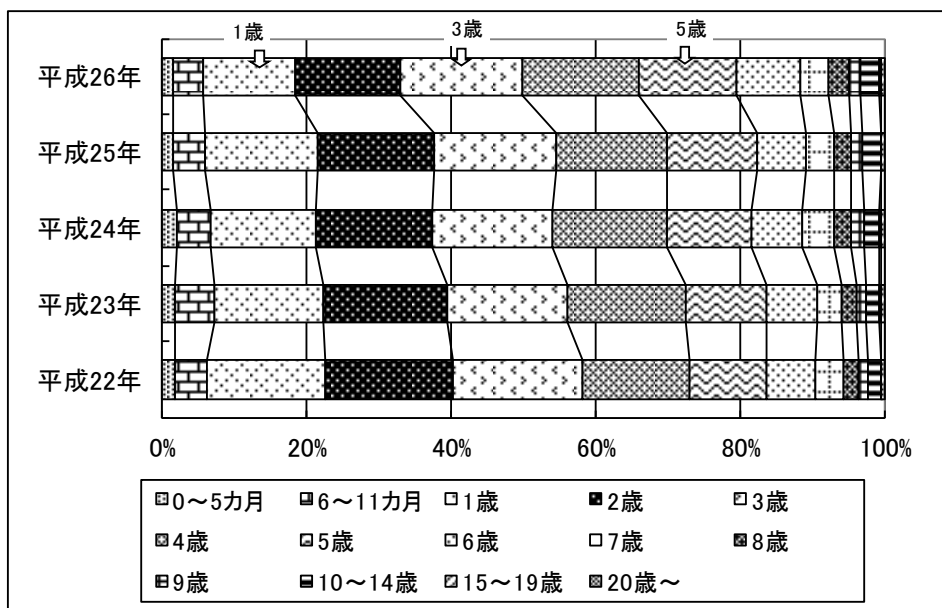


図10-2 水痘の年齢階級別患者発生割合



(9) 手足口病

年間患者数は1,623人（定点あたり12.63人）で、昨年の患者数9,839人（76.27人）の6分の1以下にまで減少した。本疾病は、ほぼ1年おきに大きな流行が起きている。

週別定点あたり患者数は29週（7月中旬）の0.70人が最高で、1年を通して患者数が少ない状態で推移したが、44週（10月下旬）以降年末にかけて、やや増加傾向がみられた。

年齢階級別患者発生割合は1歳26%、2歳23%、3歳16%、4歳11%、5歳8%の順で多く、0～5歳の患者が全体の90%を占めていた。

図 11-1 手足口病の週別定点あたり患者発生状況

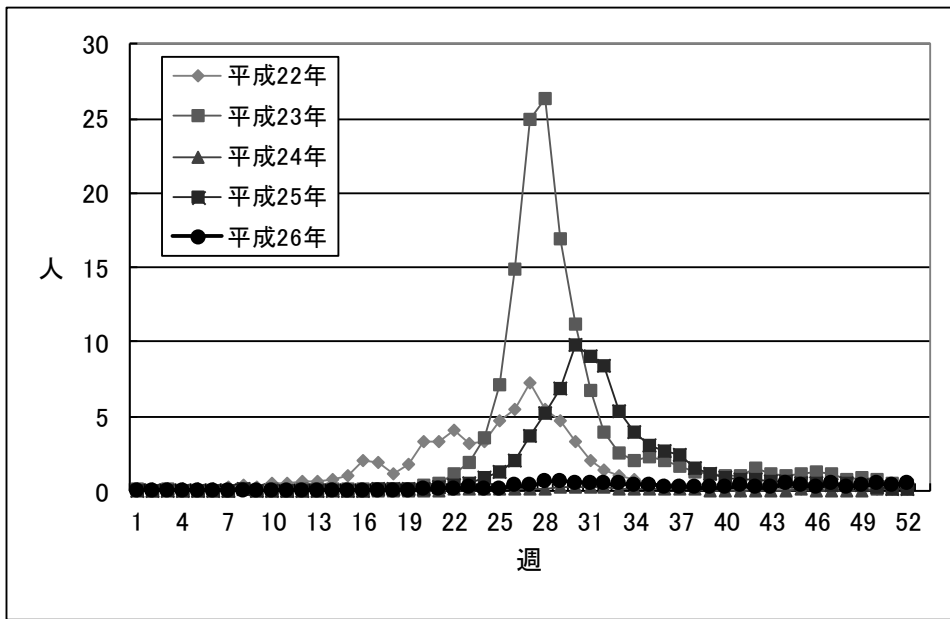
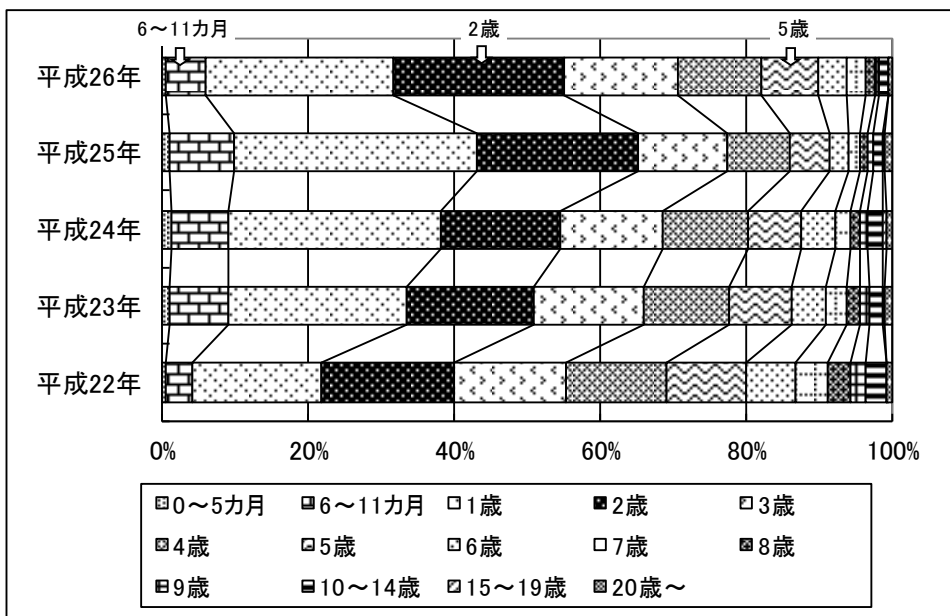


図 11-2 手足口病の年齢階級別患者発生割合



(10) 伝染性紅斑

年間患者数は665人（定点あたり5.18人）で、昨年の313人（2.43人）より増加した。

週別定点あたり患者数は26週（6月下旬）にピーク（0.24人）を示したが、43週（10月下旬）以降年末にかけても増加がみられた。

年齢階級別患者発生割合は4歳17%、5歳17%、3歳13%、6歳11%、7歳9%の順で多く、0～9歳の患者が全体の94%を占めていた。

図 12-1 伝染性紅斑の週別定点あたり患者発生状況

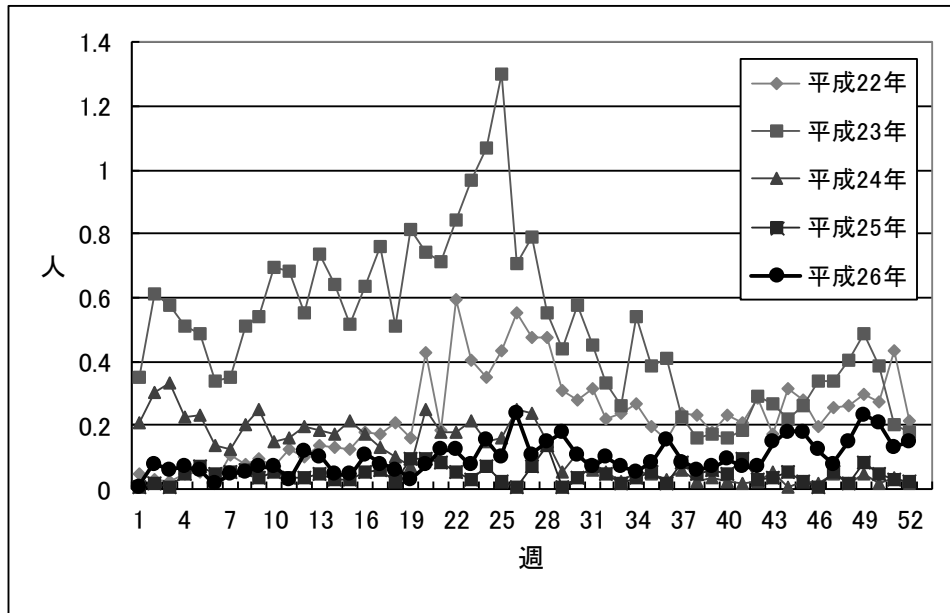
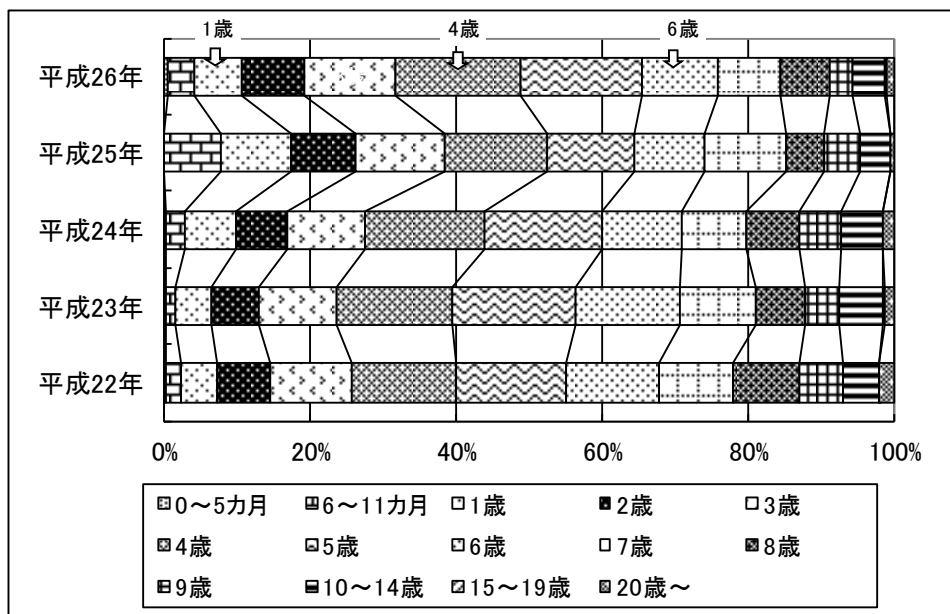


図 12-2 伝染性紅斑の年齢階級別患者発生割合



(11) 突発性発しん

年間患者数は3,350人（定点あたり26.11人）で、昨年の3,324人（25.77人）よりわずかに増加した。年間患者数の経年的推移に多少のバラツキはみられるが、平成12年以降緩やかな減少傾向を続けている。

本疾病は1年を通じて患者が発生し、季節性が明瞭でない。週別定点あたり患者数は、年始の1週を除くと0.27～0.70人の中で推移した。

年齢階級別患者発生割合の経年変化では、0歳の割合が年々減少し、1～2歳の割合が増加している。本年は、0歳が43%、1歳が47%、2歳が8%を占めていた。

図 13-1 突発性発しんの週別定点あたり患者発生状況

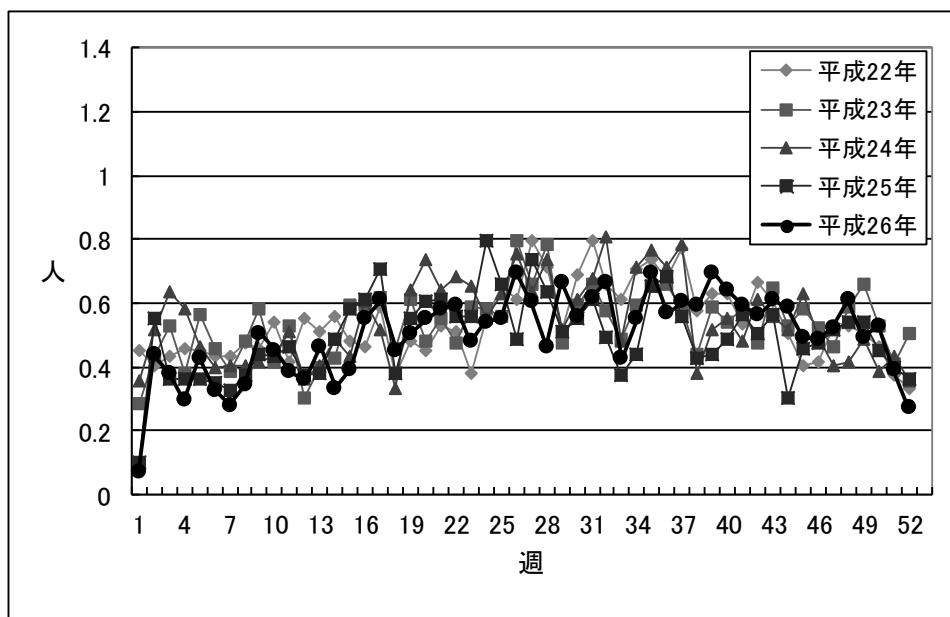
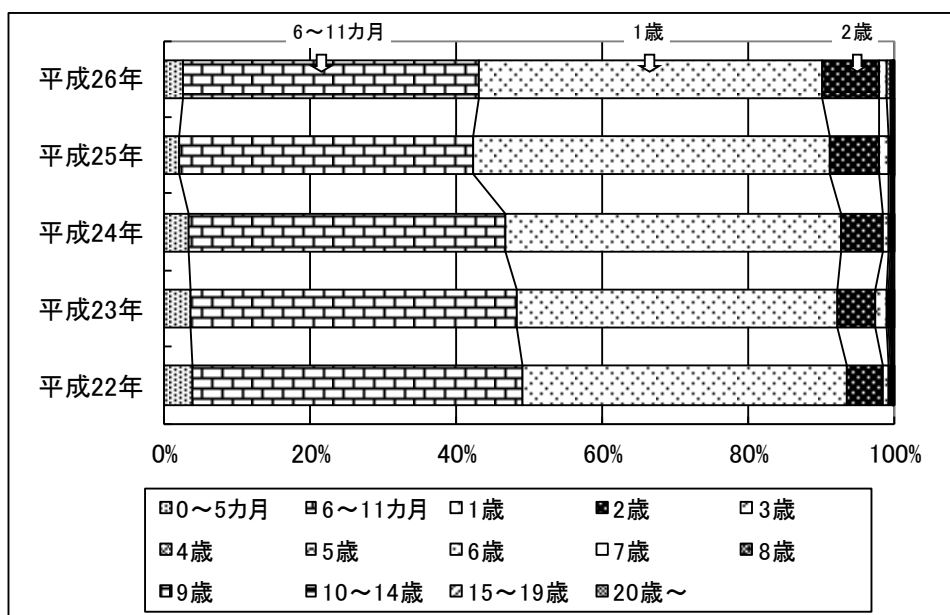


図 13-2 突発性発しんの年齢階級別患者発生割合



(12) 百日咳

本疾病は患者発生数が比較的少ない疾病である。平成26年の年間患者数は72人(定点あたり0.56人)で、昨年の86人(0.67人)より減少した。

定点あたり患者数の週別変化に季節性は認められず、0.00~0.05人の間で推移した。

年齢階級別患者発生割合は、0歳22%、1~4歳25%、5~9歳14%、10歳代31%、20歳以上8%となっていた。小児科定点からの報告にもかかわらず成人患者の発生割合も多くなっているが、平成26年は10~14歳の割合が顕著に増加した。

図 14-1 百日咳の週別定点あたり患者発生状況

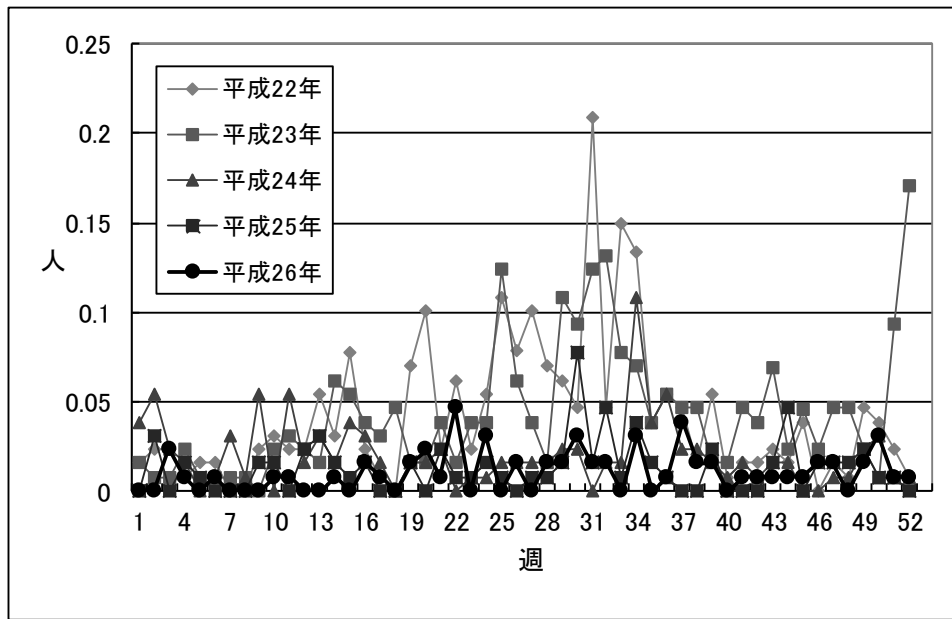
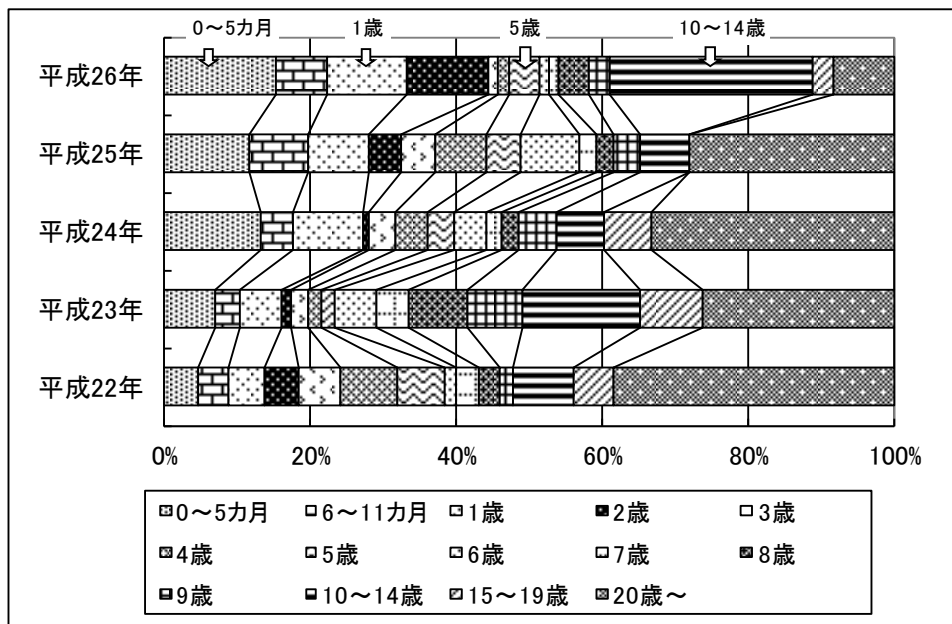


図 14-2 百日咳の年齢階級別患者発生割合



(13) ヘルパンギーナ

年間患者数は5,899人（定点あたり45.75人）で、昨年の4,693人（36.38人）より増加した。週別定点あたり患者数は21週（5月下旬）頃から増加が始まり、29週（7月中旬）にピーク（7.35人）を示した後減少に転じ、41週（10月上旬）頃に終息した。

年齢階級別患者発生割合は1歳26%、2歳20%、3歳15%、4歳11%、0歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の89%を占めていた。

図 15-1 ヘルパンギーナの週別定点あたり患者発生状況

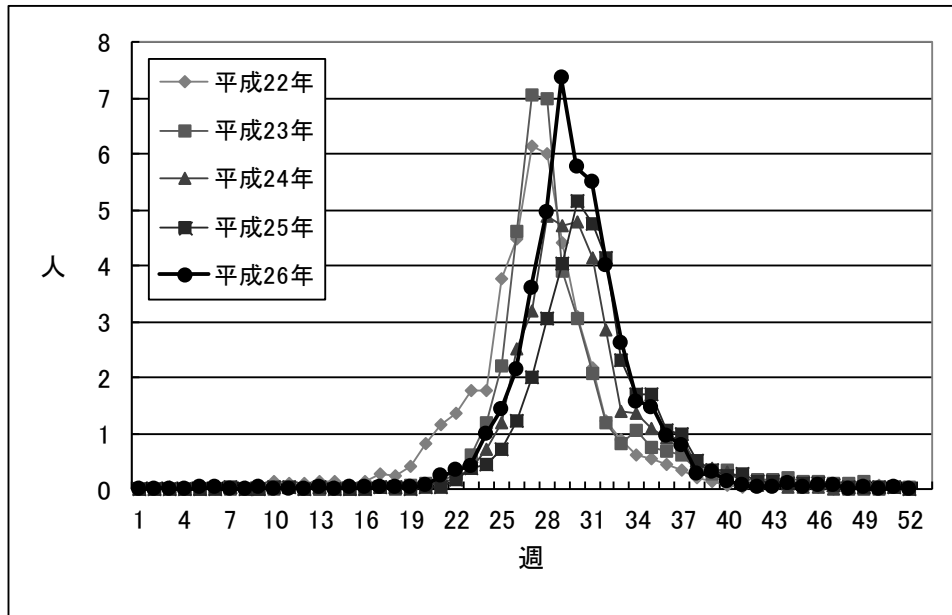
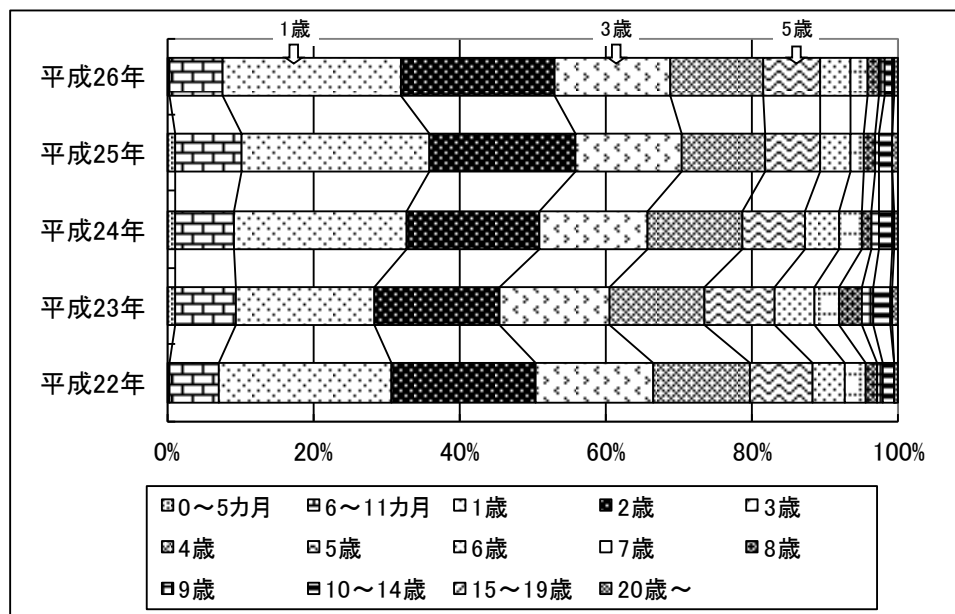


図 15-2 ヘルパンギーナの年齢階級別患者発生割合



(14) 流行性耳下腺炎

年間患者数は1,179人（定点あたり9.19人）で、昨年の919人（7.12人）より増加した。

流行性耳下腺炎の流行にはしばしば3～4年周期の変動がみられる。週別定点あたり患者発生状況をみると、平成22年後半にピークに達した後、平成23年以降は減少傾向を示していたが、患者数は少ないながらも、平成26年はわずかに増加に転じた模様である。

年齢階級別患者発生割合は5歳17%、4歳14%、6歳14%、3歳11%、7歳10%の順で多く、2～9歳の患者が全体の85%を占めていた。

図 16-1 流行性耳下腺炎の週別定点あたり患者発生状況

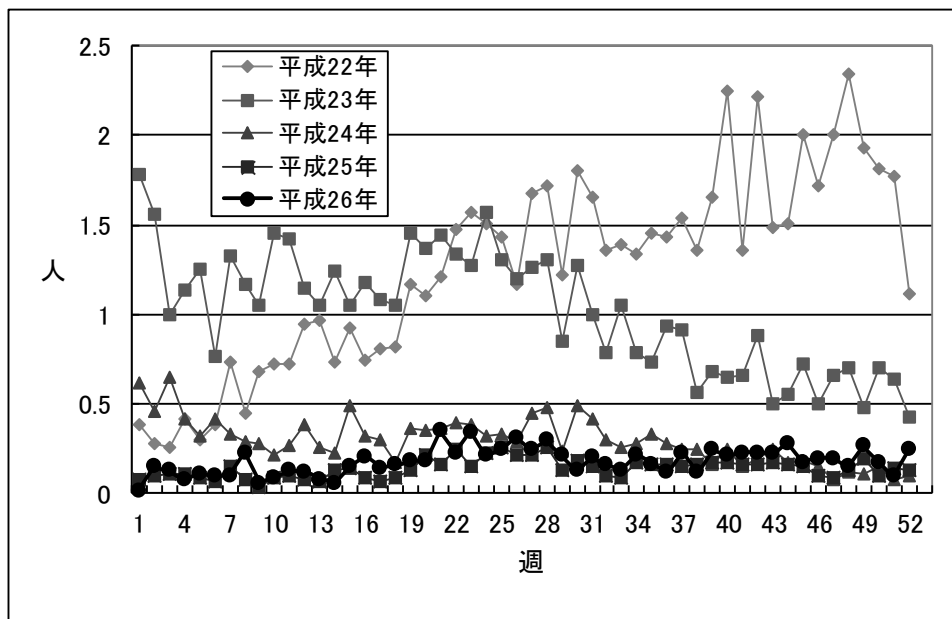
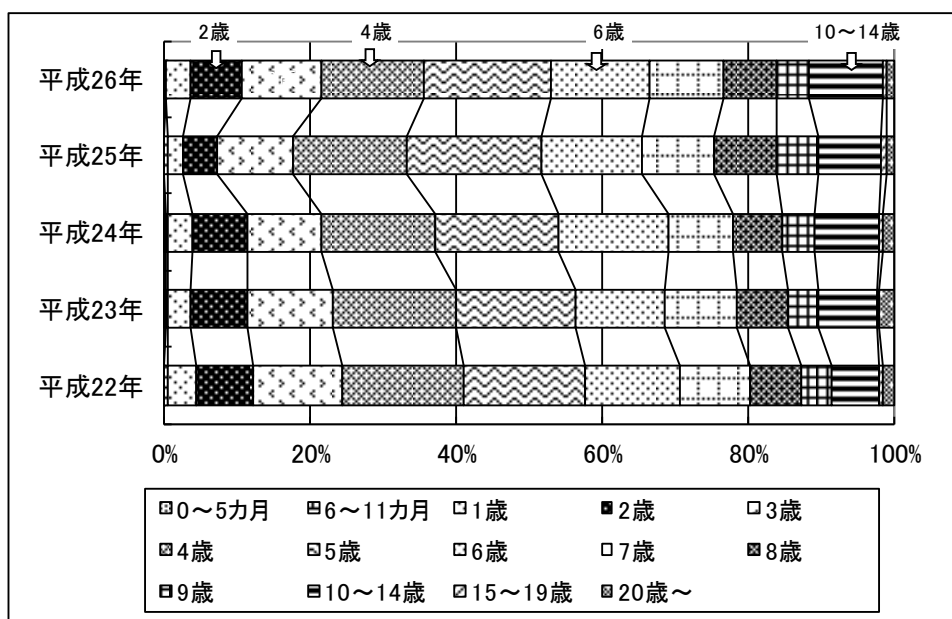


図 16-2 流行性耳下腺炎の年齢階級別患者発生割合



(15) 急性出血性結膜炎

本疾病は、平成 19 年以降患者数の少ない状態で推移している。平成 26 年の年間患者数は 11 人（定点あたり 0.31 人）で、昨年（平成 25 年）の 20 人（0.57 人）より減少した。

年齢階級別患者発生割合は 50 歳代が 45%と最も多くなり、20 歳以上の患者が全体の 82%を占めていた。

図 17-1 急性出血性結膜炎の週別定点あたり患者発生状況

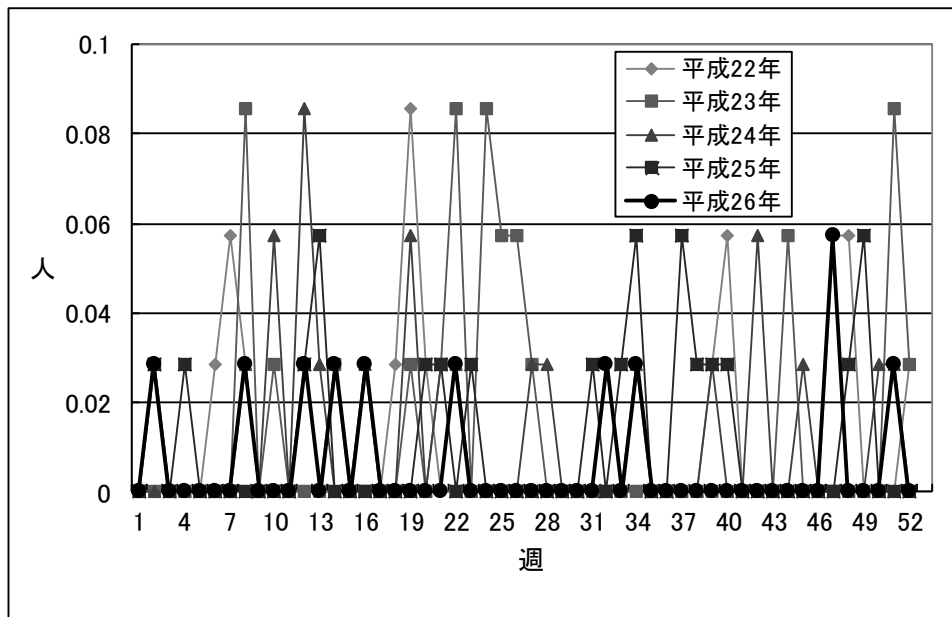
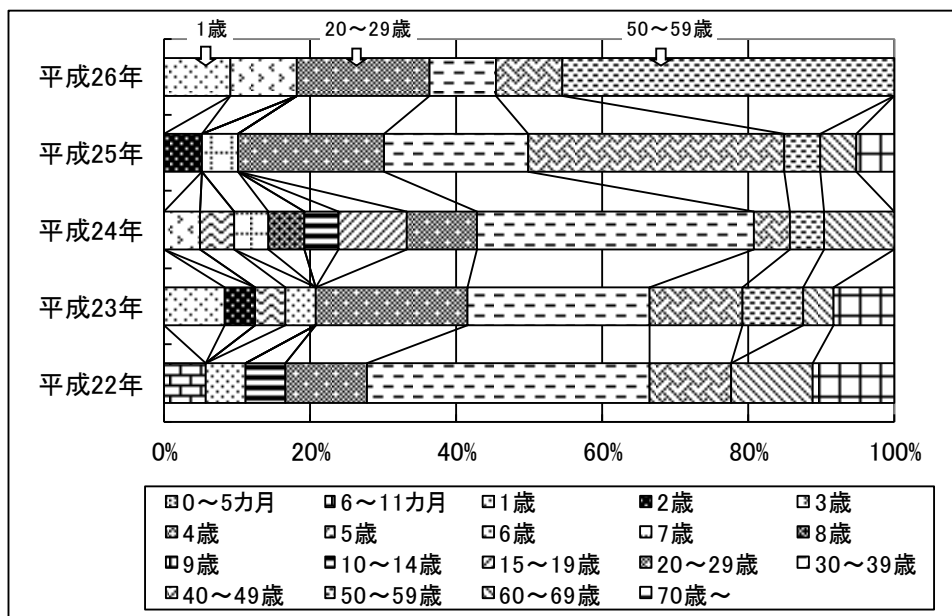


図 17-2 急性出血性結膜炎の年齢階級別患者発生割合



(16) 流行性角結膜炎

年間患者数は1,283人（定点あたり36.66人）で、昨年の1,104人（31.54人）より増加した。週別定点あたり患者数は28週（7月上旬）をピーク（1.60人）に、22週（5月下旬）から35週（8月下旬）までの夏期に多くなった。

年齢階級別患者発生割合は0～9歳32%、30歳代21%がやや多いが、各年齢層で患者が発生していた。

図 18-1 流行性角結膜炎の週別定点あたり患者発生状況

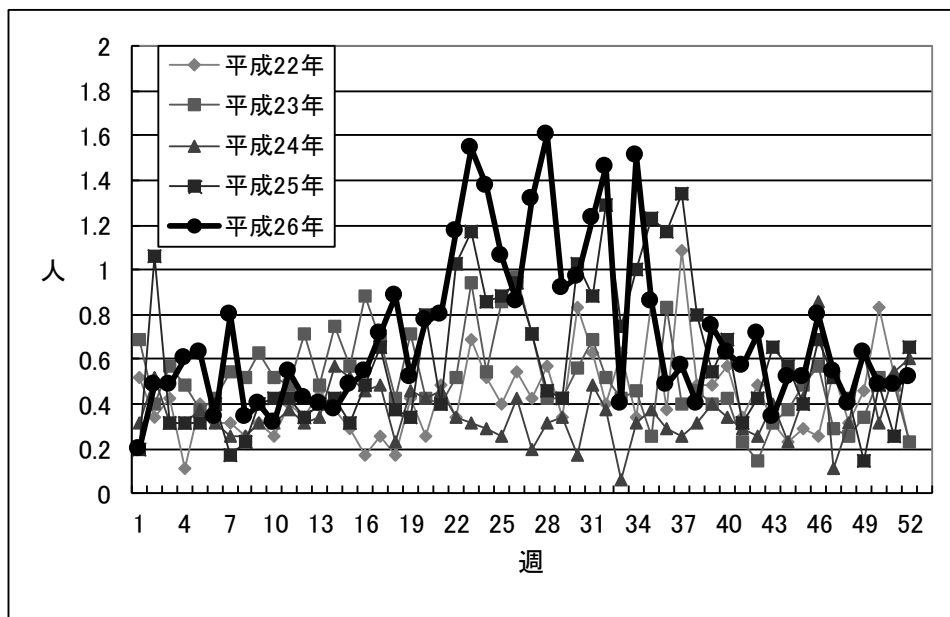
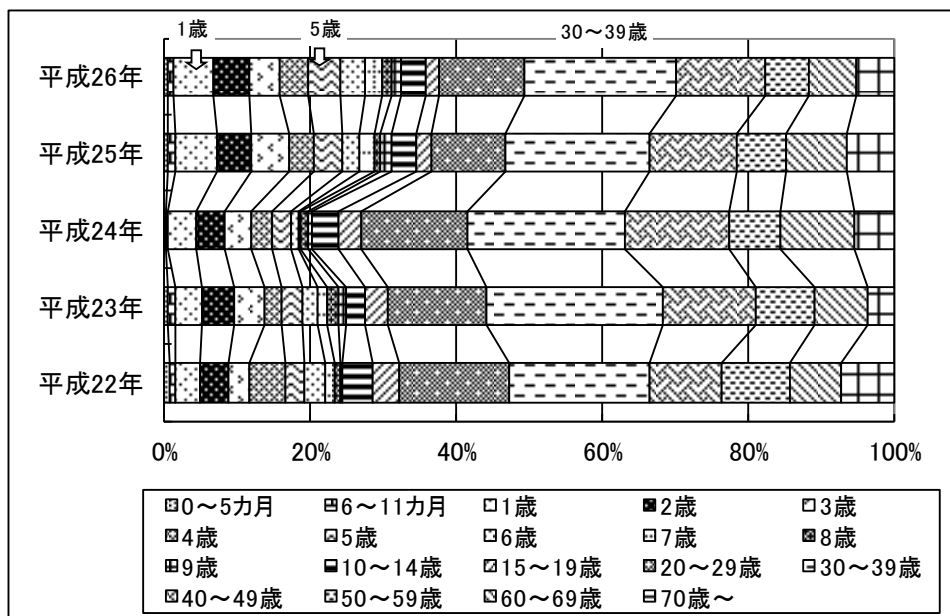


図 18-2 流行性角結膜炎の年齢階級別患者発生割合



(17) 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）
 年間患者数は平成20年以降12～19人と少ない状況が続いていたが、平成26年は32人と約2倍に増加した。

患者の年齢分布は0歳9人（28%）、1～4歳、5～9歳及び70歳以上が各5人（16%）の順となっていた。

図 19-1 細菌性髄膜炎の週別定点あたり患者発生状況

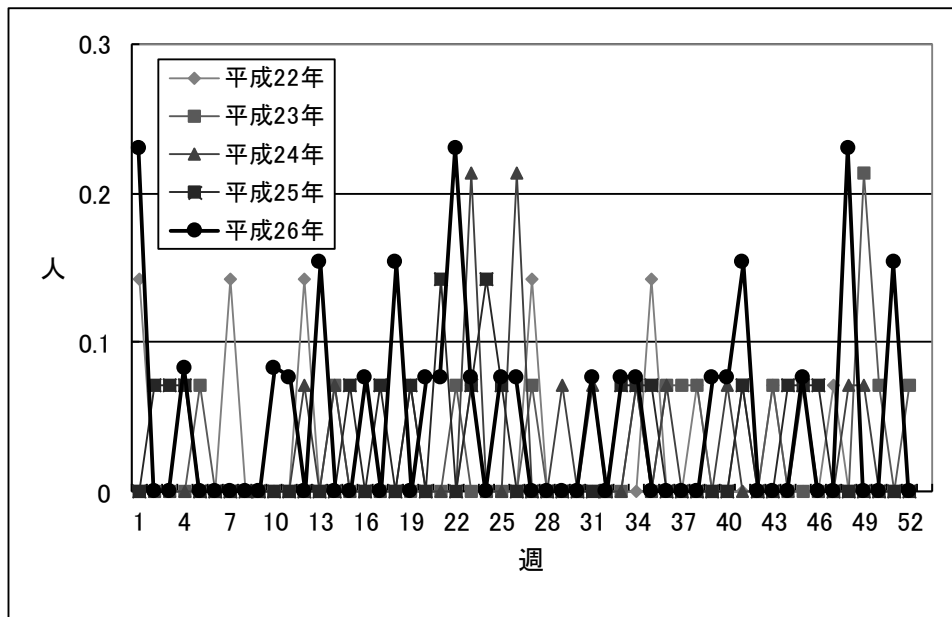
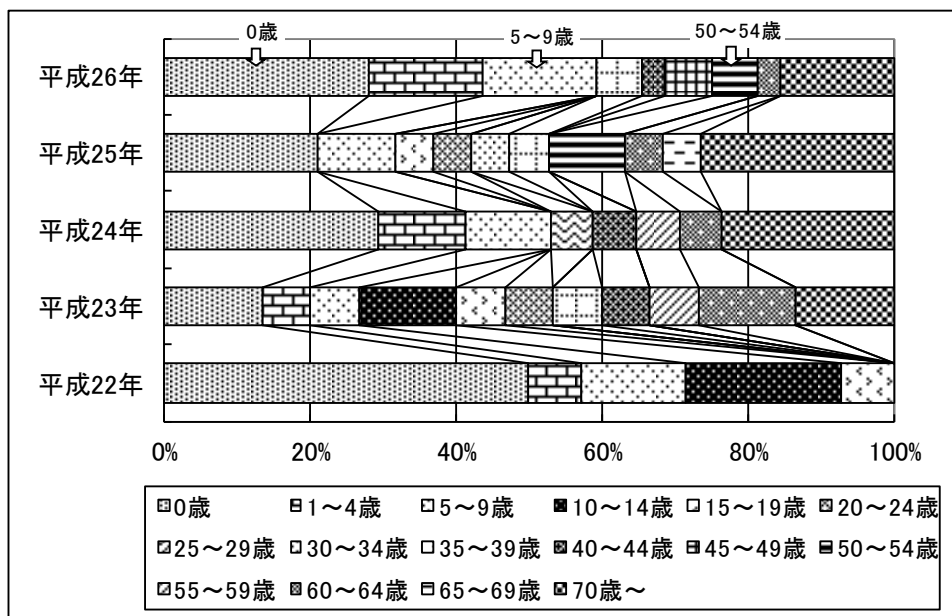


図 19-2 細菌性髄膜炎の年齢階級別患者発生割合



(18) 無菌性髄膜炎

年間患者数は、平成16年以降20～61人の範囲で増減を繰り返しており、平成26年は29人であった。

年齢分布は40歳代6人(21%)、20歳代5人(17%)の順で成人患者が多くなり、20歳以上が全体の76%を占めていた。平成22～25年に20%以上を占めていた0歳の患者は、平成26年は1名(3%)となった。

図 20-1 無菌性髄膜炎の週別定点あたり患者発生状況

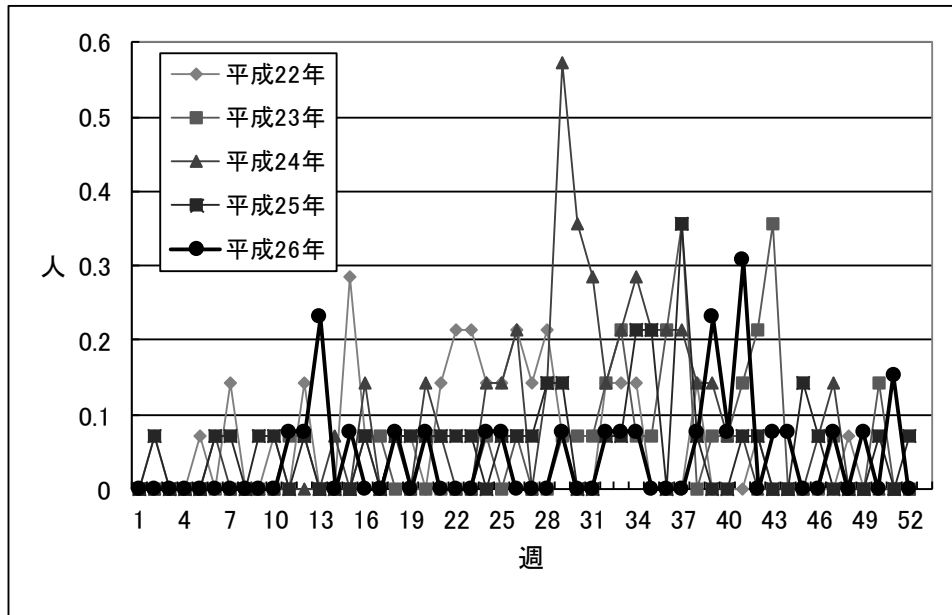
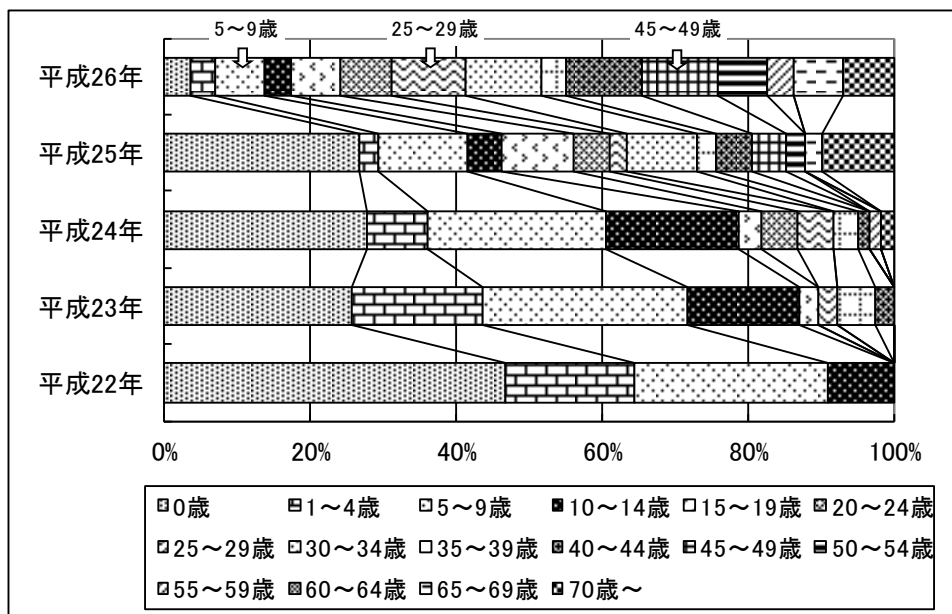


図 20-2 無菌性髄膜炎の年齢階級別患者発生割合



(19) マイコプラズマ肺炎

平成22年から増加が始まった年間患者数は平成24年をピーク（484人）に減少に転じ、平成26年は86人（定点あたり6.69人）であった。

年齢階級別患者発生割合は1～4歳26%、5～9歳17%、10～14歳12%の順で多く、1～14歳の患者が全体の55%を占めていた。

図 21-1 マイコプラズマ肺炎の週別定点あたり患者発生状況

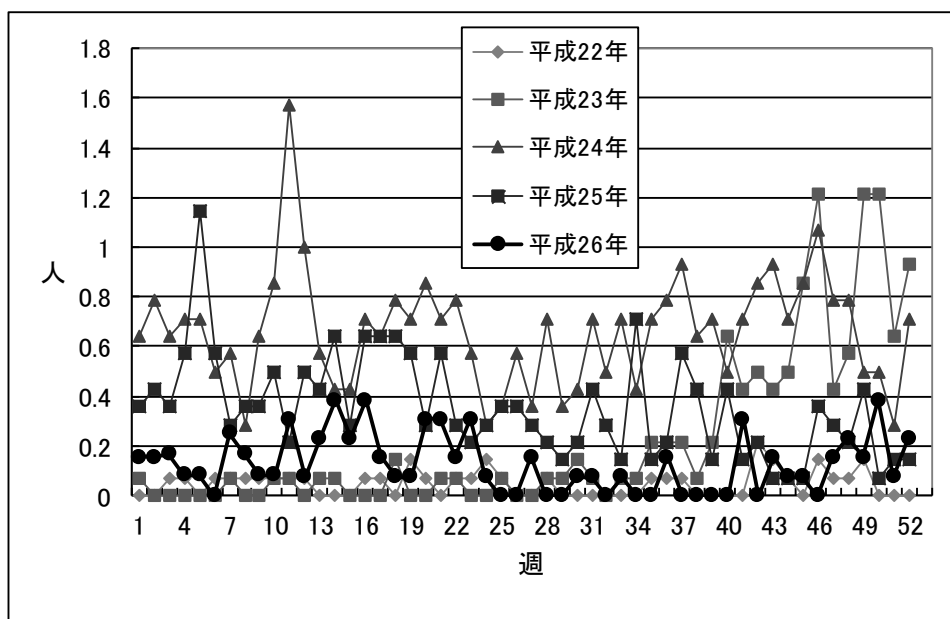
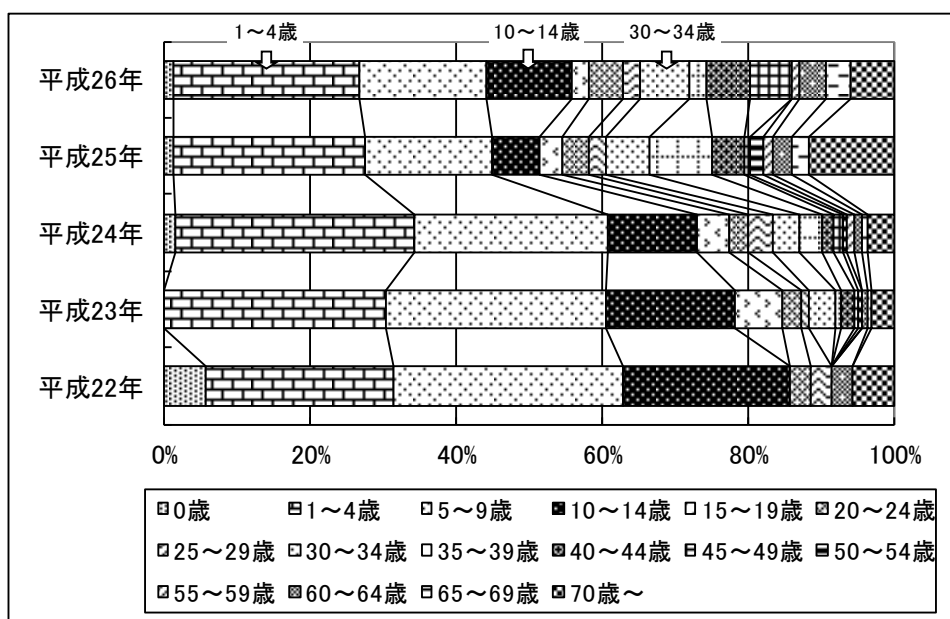


図 21-2 マイコプラズマ肺炎の年齢階級別患者発生割合



(20) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）

本疾病は平成 25 年 10 月 24 日より基幹定点対象疾病に追加され、平成 26 年の年間患者数は 81 人（定点あたり 6.33 人）であった。

週別定点あたり患者数は 18 週（4 月下旬から 5 月上旬）をピーク（1.00 人）に、15 週（4 月中旬）から 21 週（5 月下旬）に多くなった。

年齢階級別患者発生割合は 1～4 歳 67%、0 歳 17%、5～9 歳 6%の順で多く、0～9 歳の患者が全体の 90%を占めていた。

図 22-1 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）の週別定点あたり患者発生状況

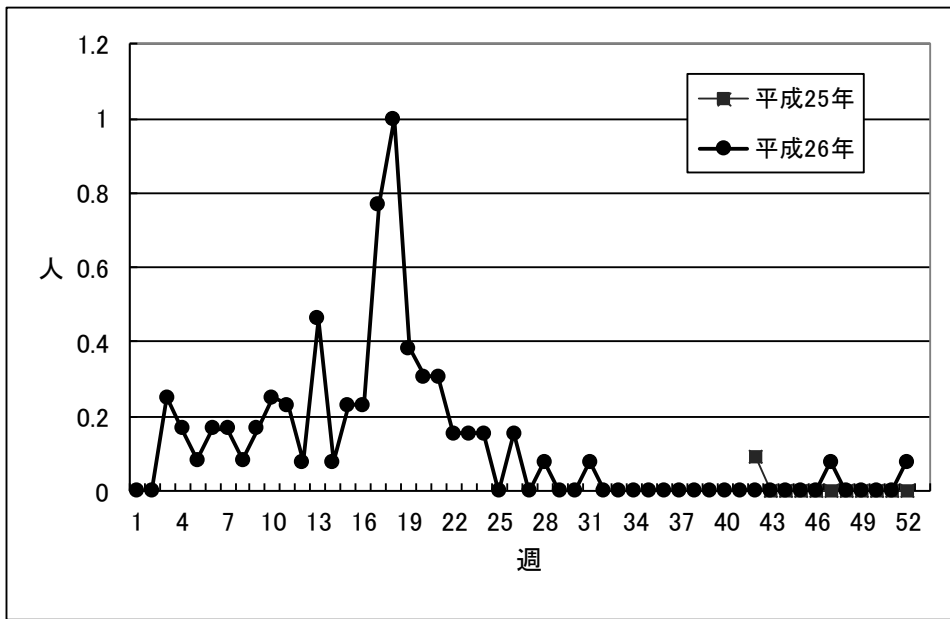
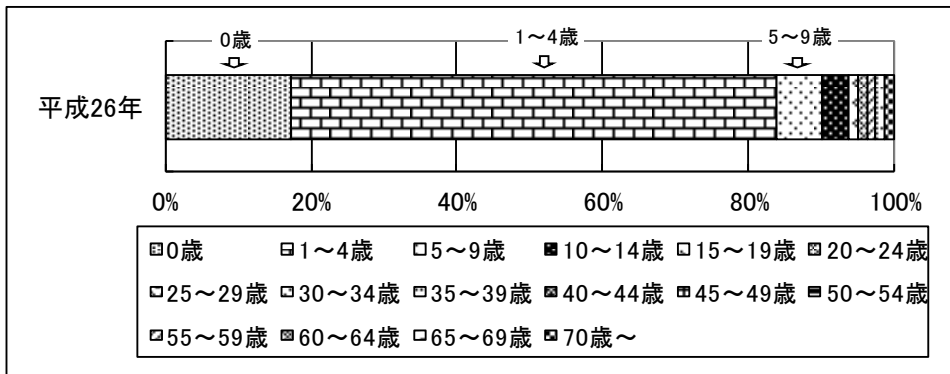


図 22-2 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）の年齢階級別患者発生割合



(21) 性器クラミジア感染症

年間患者数は873人（定点あたり18.98人）で、昨年の912人（19.83人）よりわずかに減少した。性別患者発生割合は、男性55%、女性45%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は25～29歳22%、20～24歳20%、30～34歳と35～39歳13%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の77%を占めていた。女性は20～24歳34%、25～29歳20%、15～19歳18%、30～34歳14%の順で多く、15～34歳の患者が女性患者の87%を占めていた。

図 23-1 性器クラミジア感染症の月別定点あたり患者発生状況

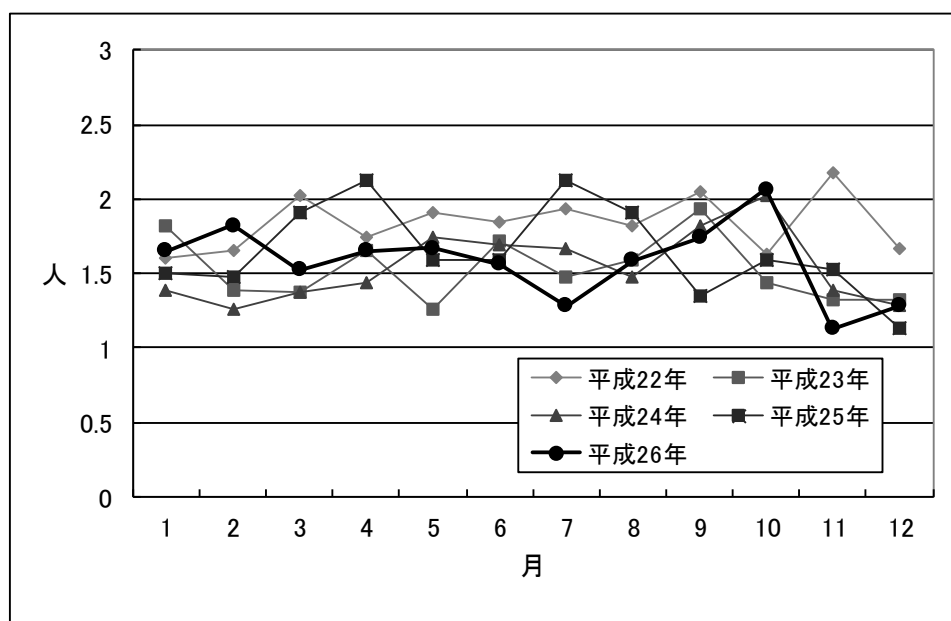


図 23-2 性器クラミジア感染症の性別患者発生割合

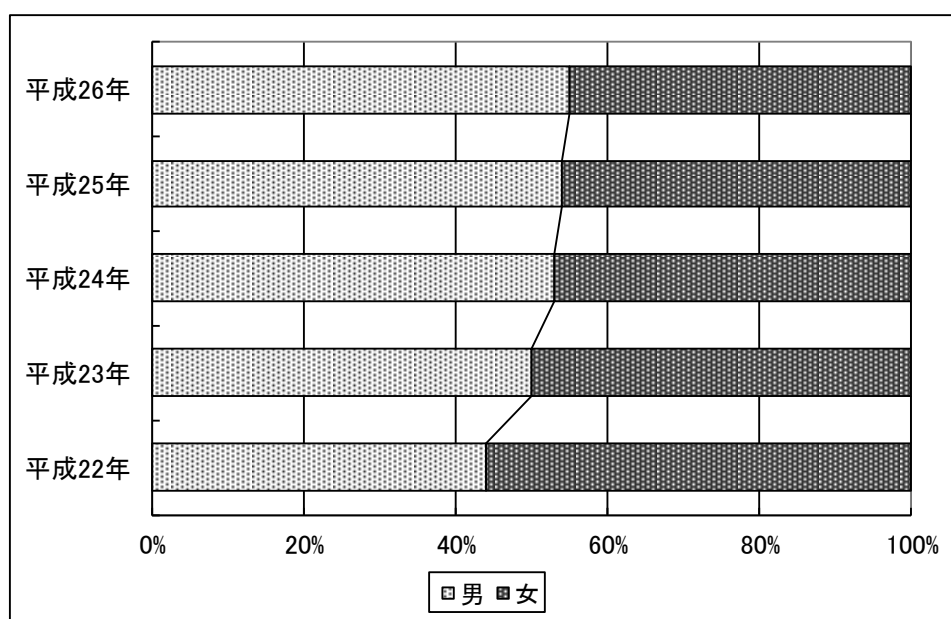


図 23-3 性器クラミジア感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

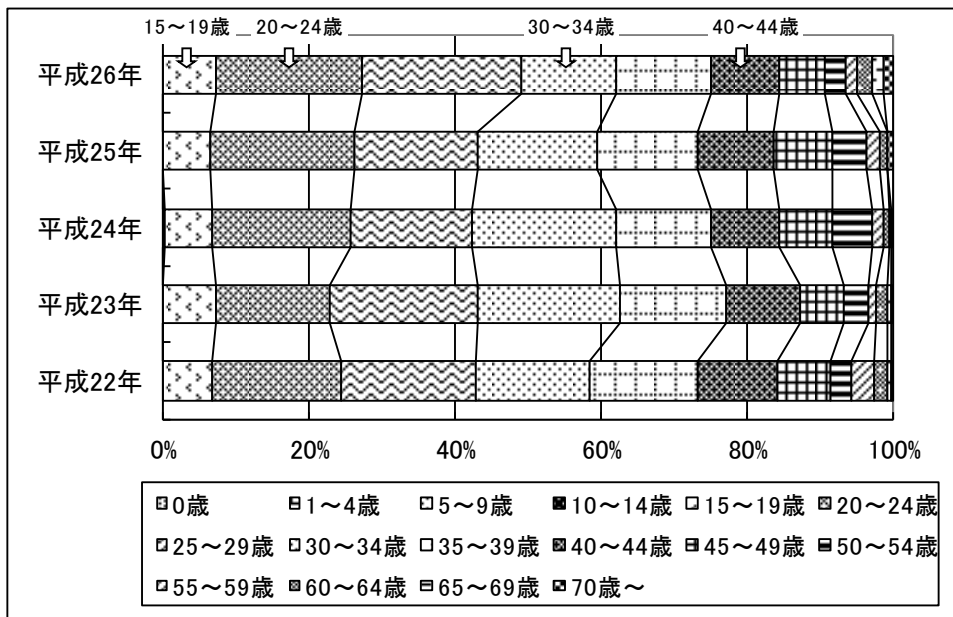
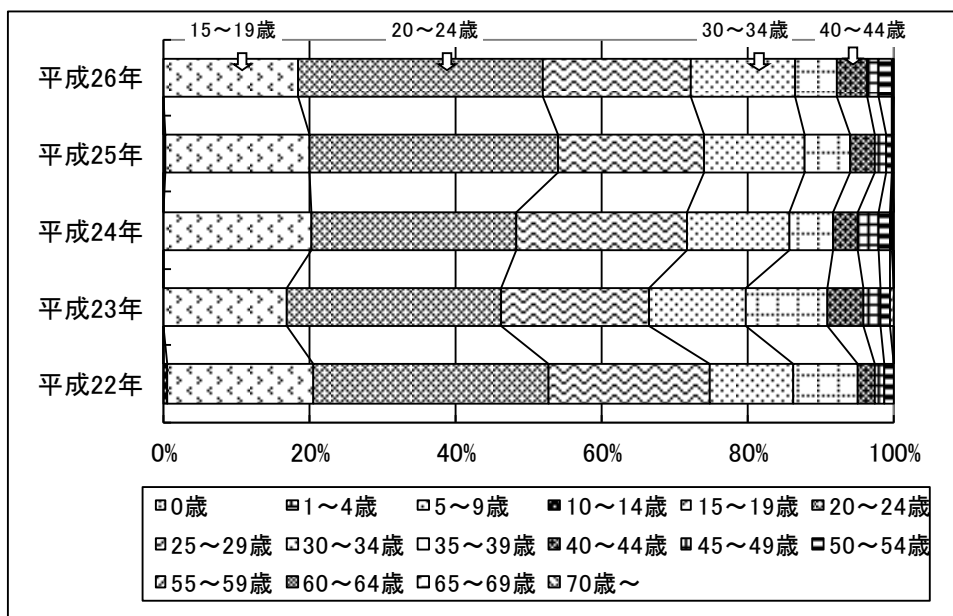


図 23-4 性器クラミジア感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(22) 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者数は317人（定点あたり6.89人）で、昨年の288人（6.26人）よりわずかに増加した。性別患者発生割合は、男性24%、女性76%と女性の割合が大きくなった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は35～39歳20%、30～34歳と40～44歳17%、20～24歳11%の順で多く、20～49歳の患者が男性患者の78%を占めていた。女性は70歳以上18%、20～24歳12%、50～54歳10%、45～49歳10%の順で多く、高齢者の占める割合が増加した。

図 24-1 性器ヘルペスウイルス感染症の月別定点あたり患者発生状況

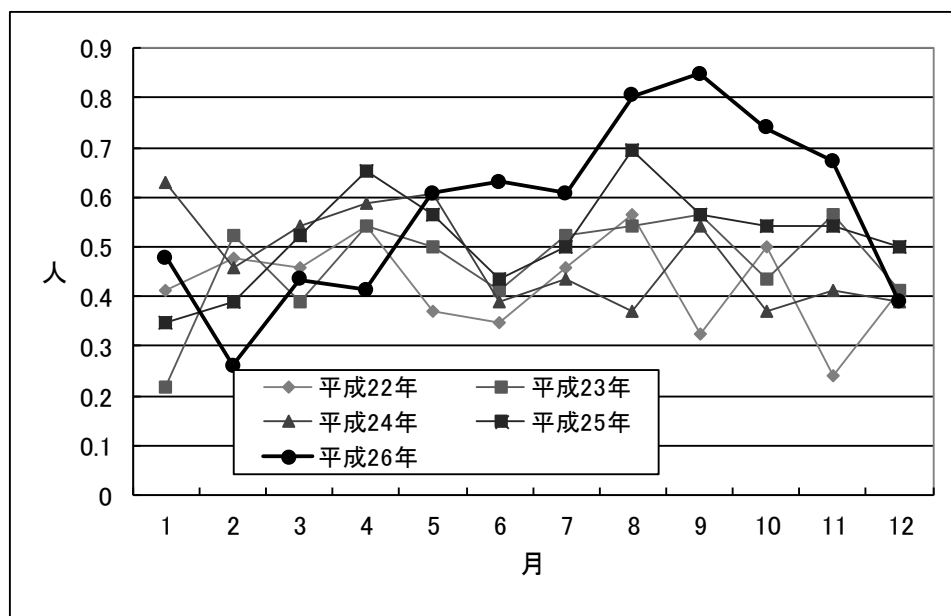


図 24-2 性器ヘルペスウイルス感染症の性別患者発生割合

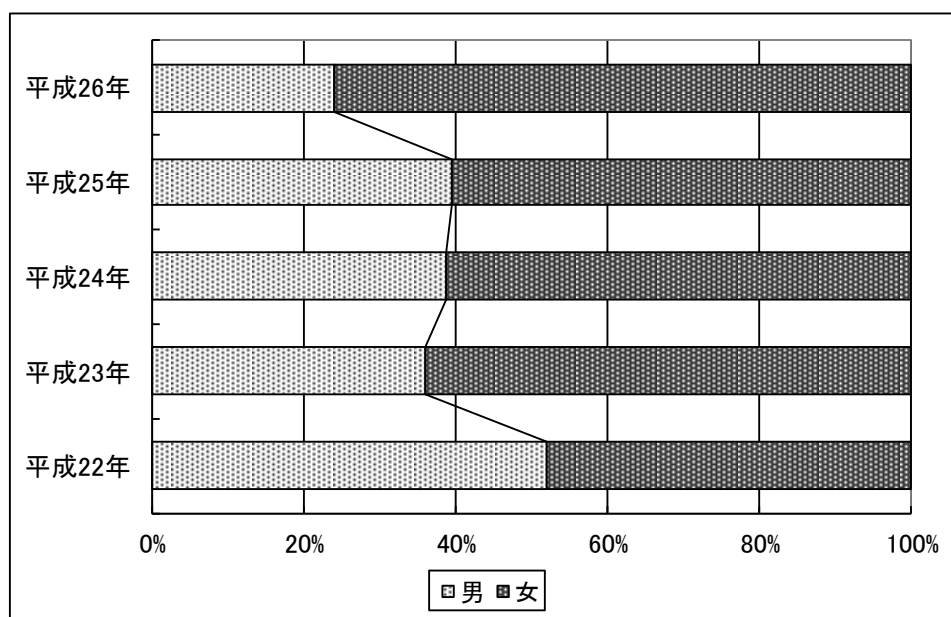


図 24-3 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

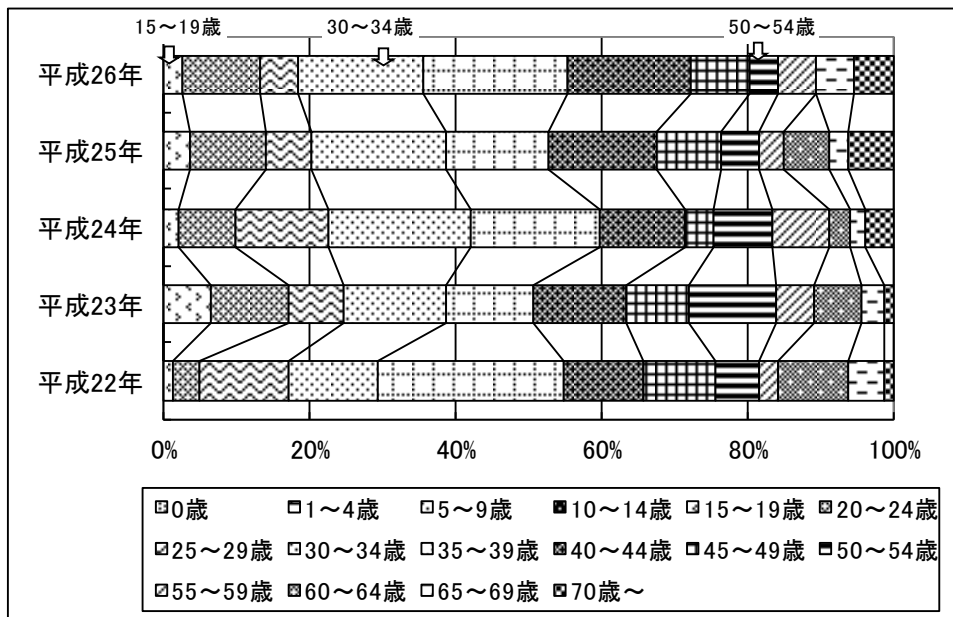
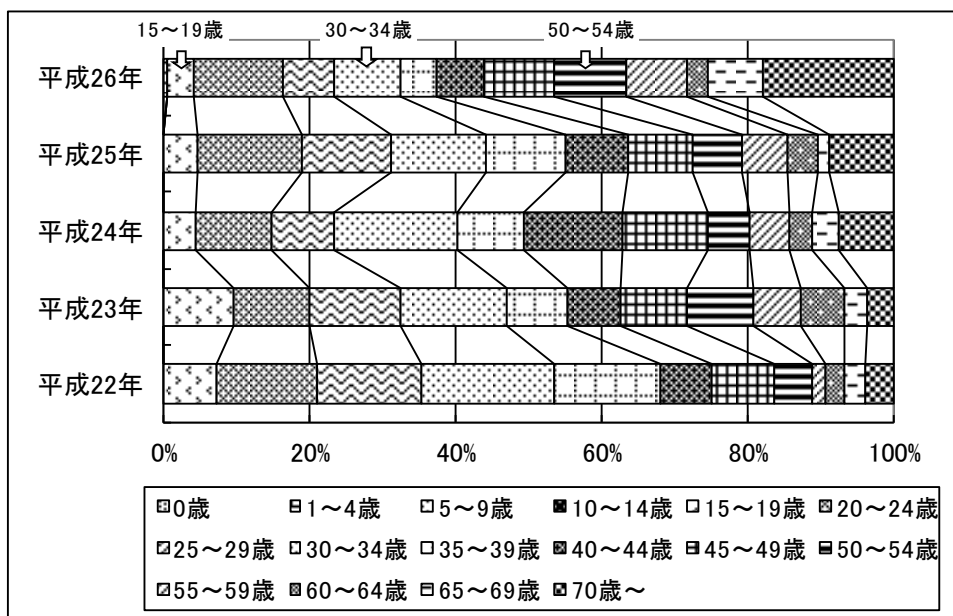


図 24-3 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(23) 尖圭コンジローマ

年間患者数は144人（定点あたり3.13人）で、昨年の160人（3.48人）よりわずかに減少した。性別患者発生割合は例年と同様で、男性78%、女性22%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は35～39歳19%、20～24歳17%、30～34歳16%、25～29歳10%の順で多く、20～54歳の患者が男性患者の85%を占めていた。女性は20～24歳38%、15～19歳19%、25～29歳16%、35～39歳9%の順で多く、15～39歳の患者が女性患者の88%を占めていた。

図 25-1 尖圭コンジローマの月別定点あたり患者発生状況

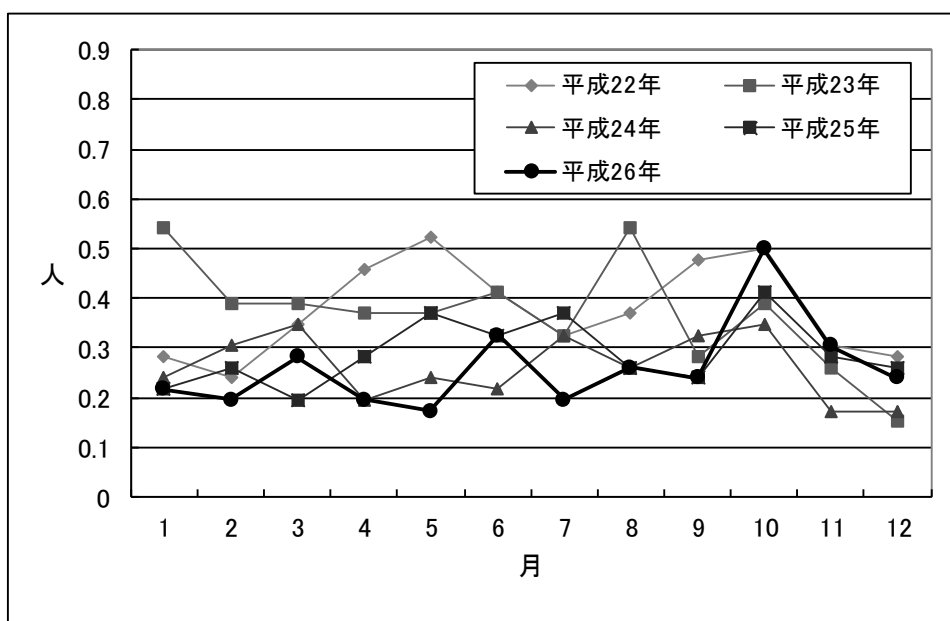


図 25-2 尖圭コンジローマの性別患者発生割合

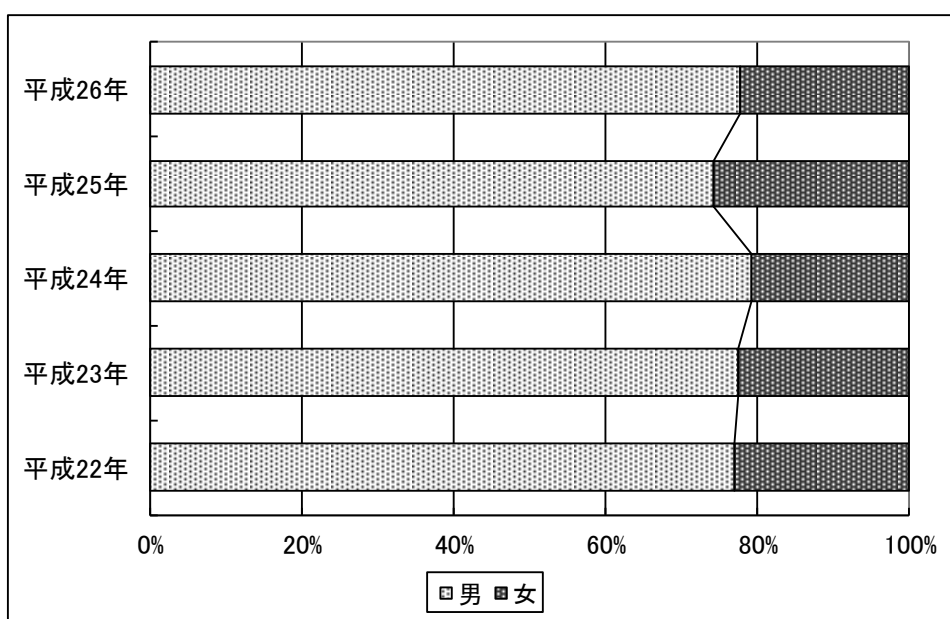


図 25-3 尖圭コンジローマの年齢階級別患者発生割合（男性）

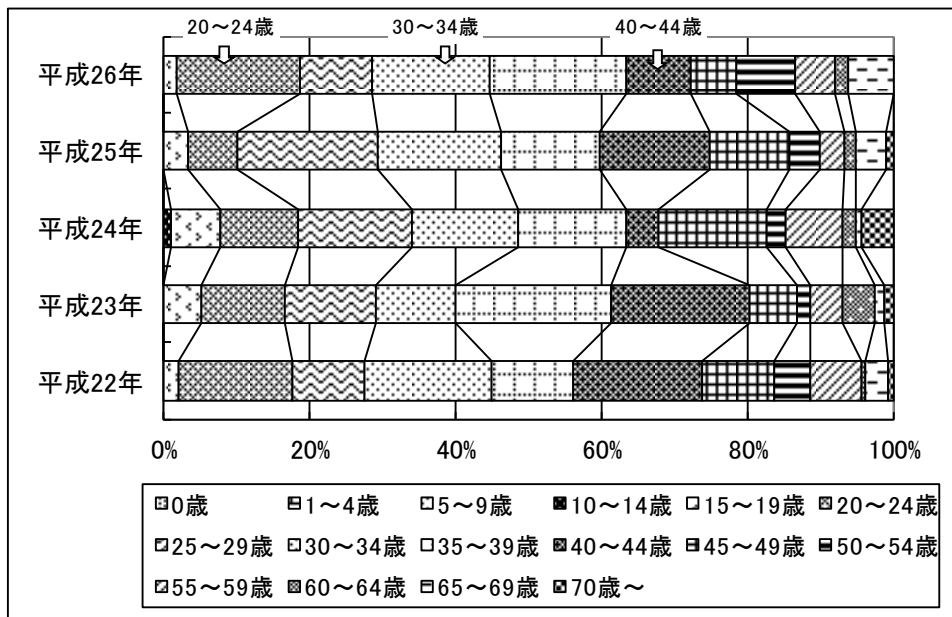
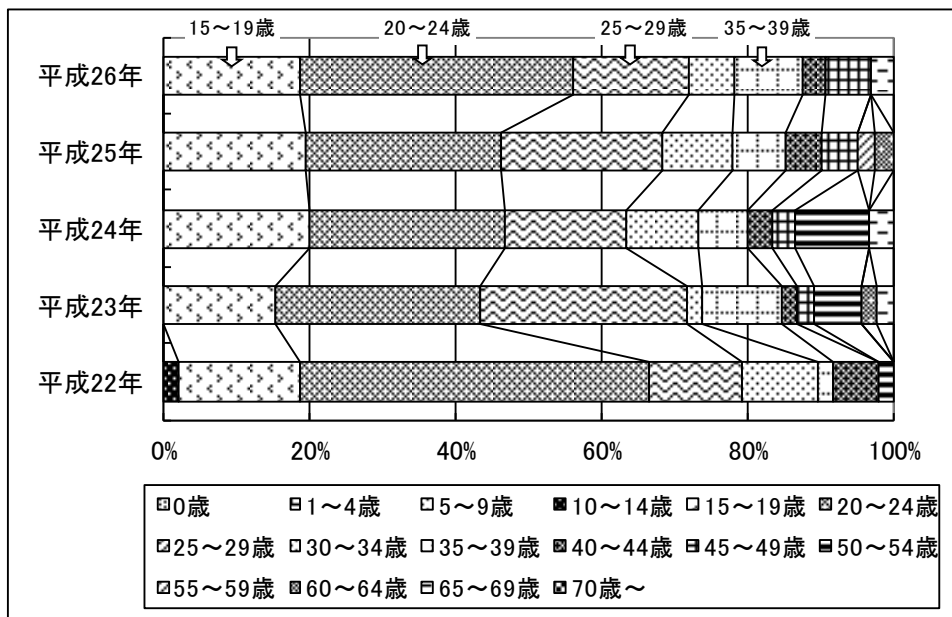


図 25-3 尖圭コンジローマの年齢階級別患者発生割合（女性）



(24) 淋菌感染症

年間患者数は374人（定点あたり8.13人）で、昨年の350人（7.61人）よりわずかに増加した。性別患者発生割合は例年と同様で、男性87%、女性13%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は20～24歳26%、25～29歳19%、30～34歳14%、35～39歳13%の順で多く、15～44歳の患者が男性患者の89%を占めていた。女性は15～19歳と20～24歳32%、25～29歳17%、30～34歳9%の順で多く、15～34歳の患者が女性患者の89%を占めていた。

図 26-1 淋菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

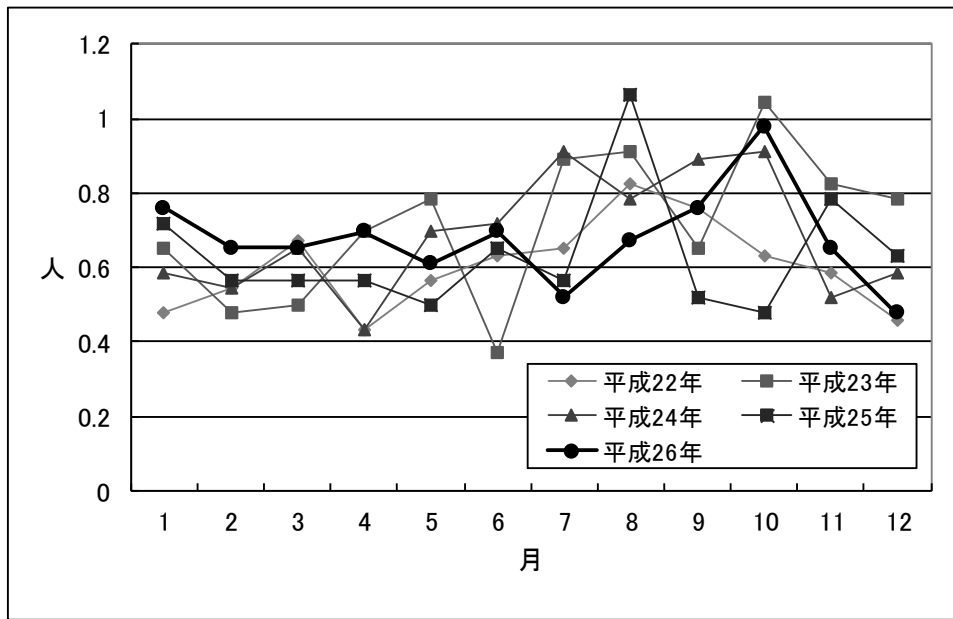


図 26-2 淋菌感染症の性別患者発生割合

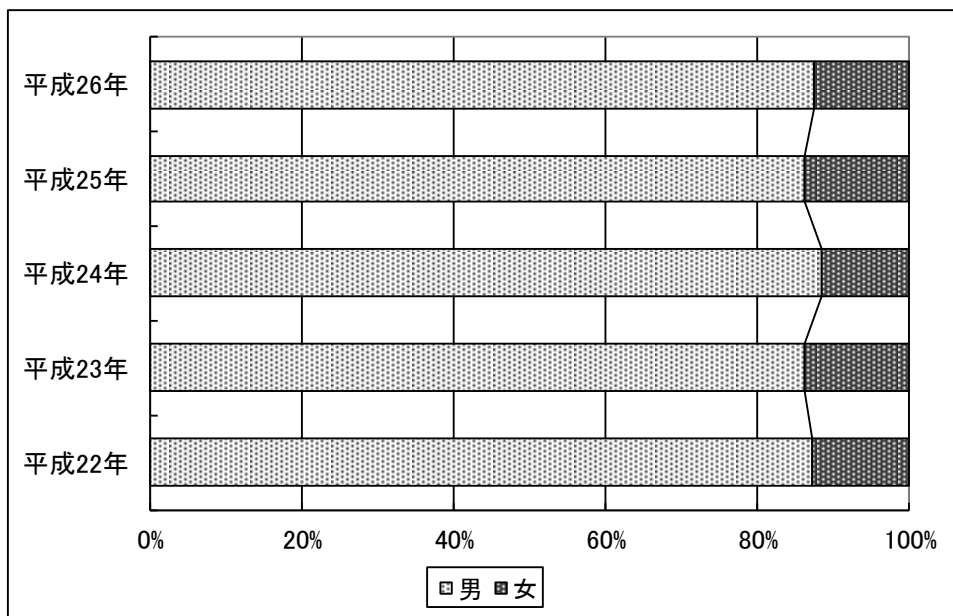


図 26-3 淋菌感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

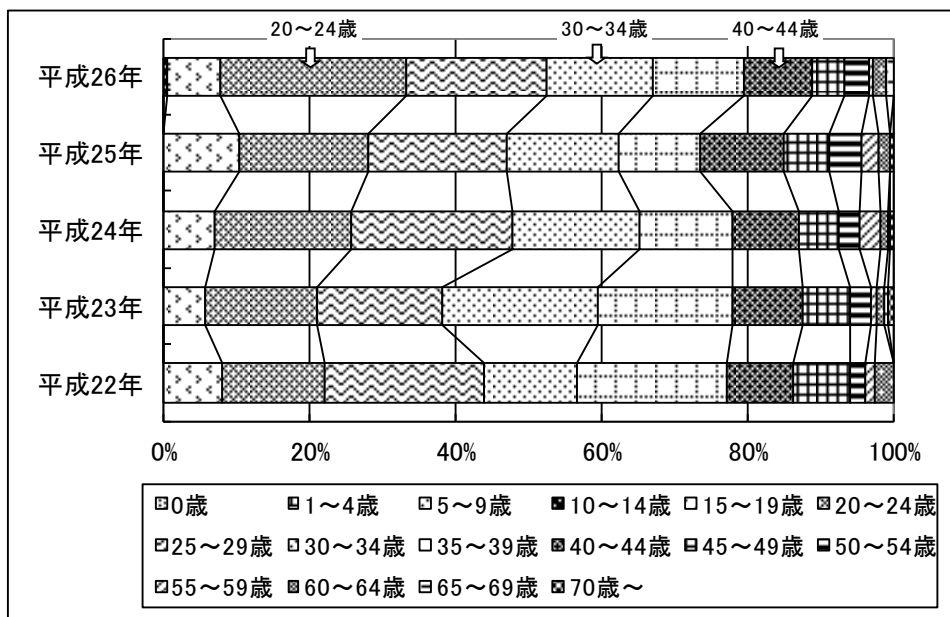
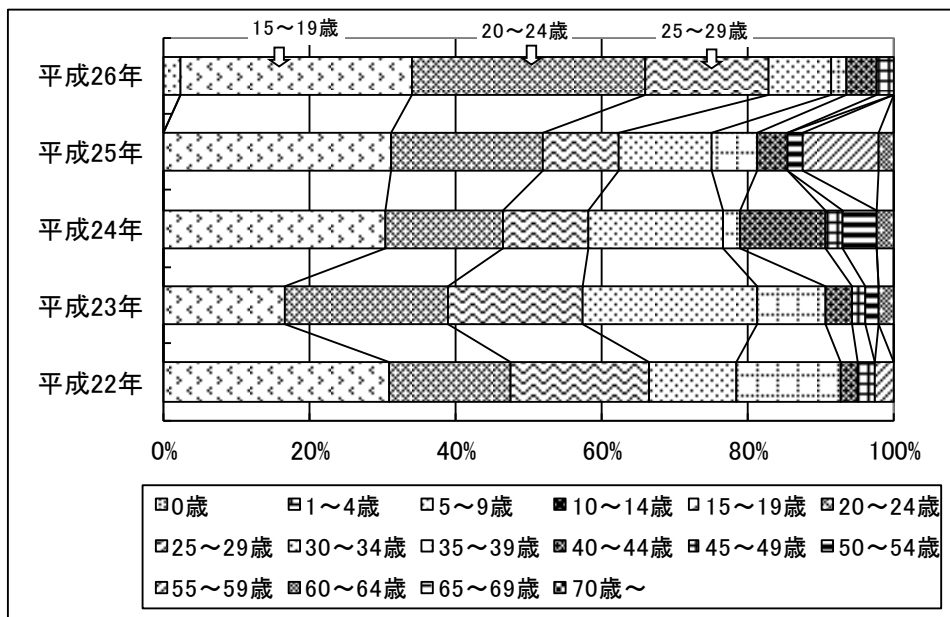


図 26-4 淋菌感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(25) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間患者数は525人（定点あたり37.50人）で、昨年の475人（36.54人）より増加した。
 年齢階級別患者発生割合は例年と同様で、70歳以上の患者が全体の65%、60歳以上が全体の81%を占めていた。

図 27-1 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

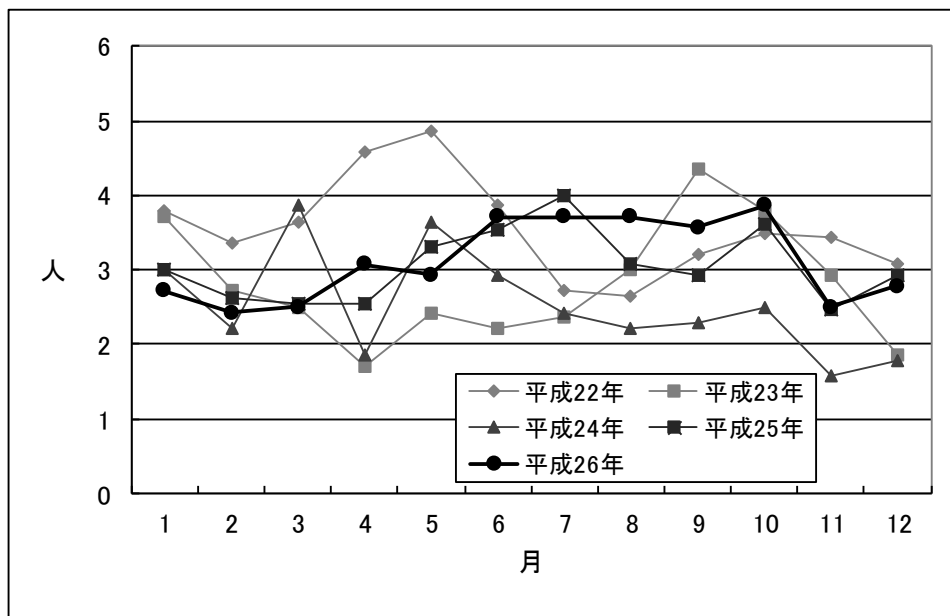
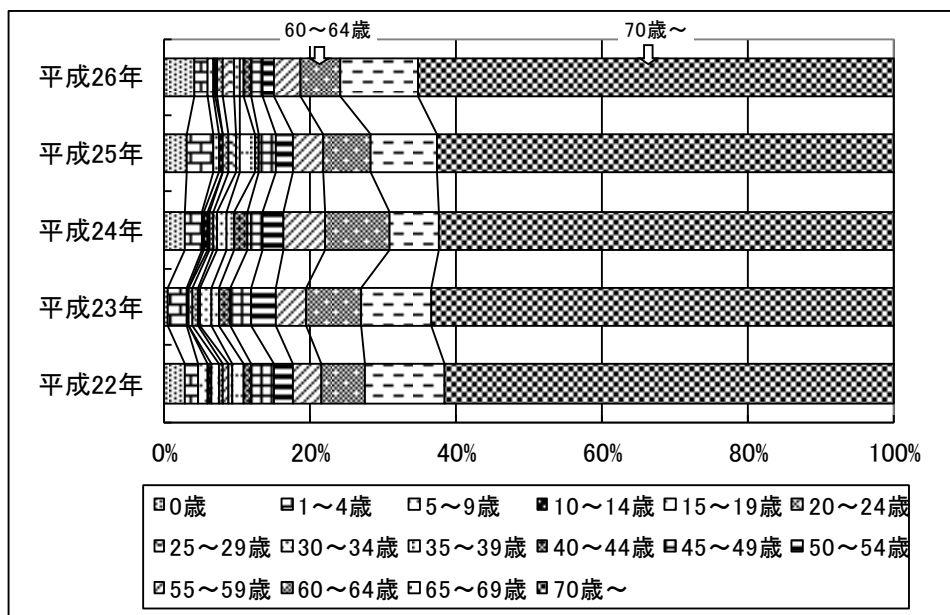


図 27-2 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(26) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間患者数は75人（定点あたり5.36人）で、昨年の136人（10.46人）より減少した。
 年齢階級別患者発生割合は、70歳以上の患者が全体の47%、60歳以上が全体の64%を占めていた。

図 28-1 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

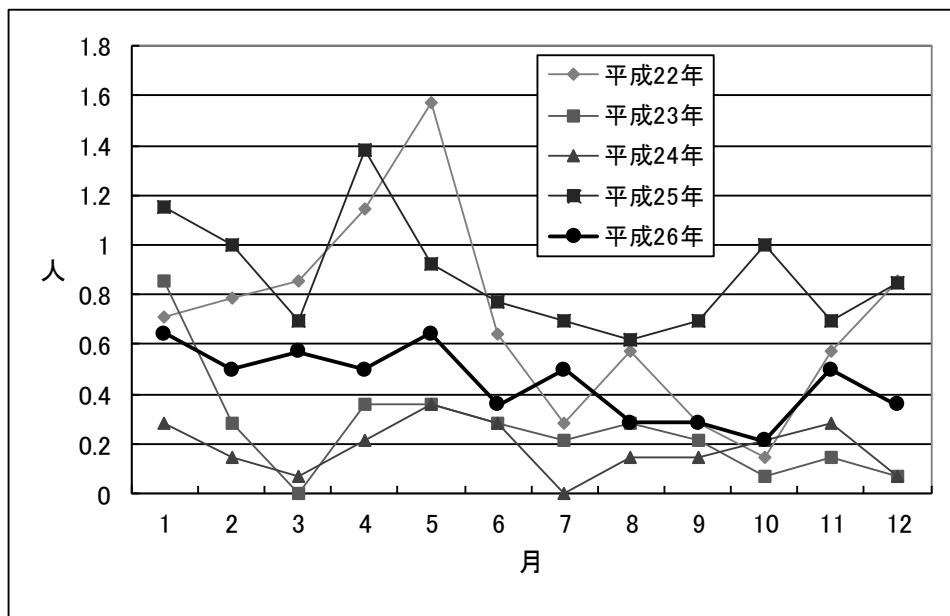
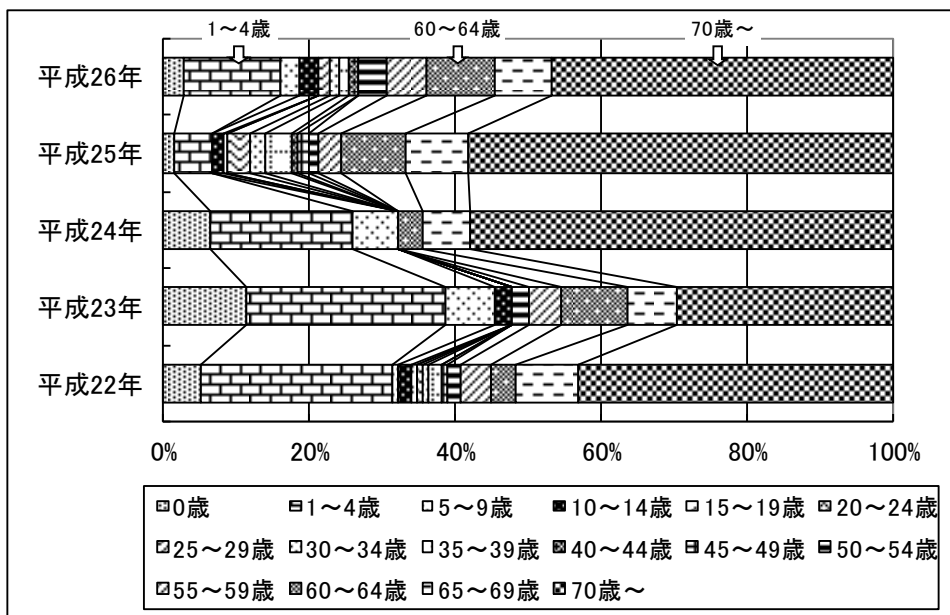


図 28-2 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(27) 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間患者数は10人（定点あたり0.71人）で、昨年の4人（0.31人）より増加した。

年齢階級別患者数は70歳以上が5人、55～59歳と65～69歳が各2人、60～64歳が1人であった。

図 29-1 薬剤耐性緑膿菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

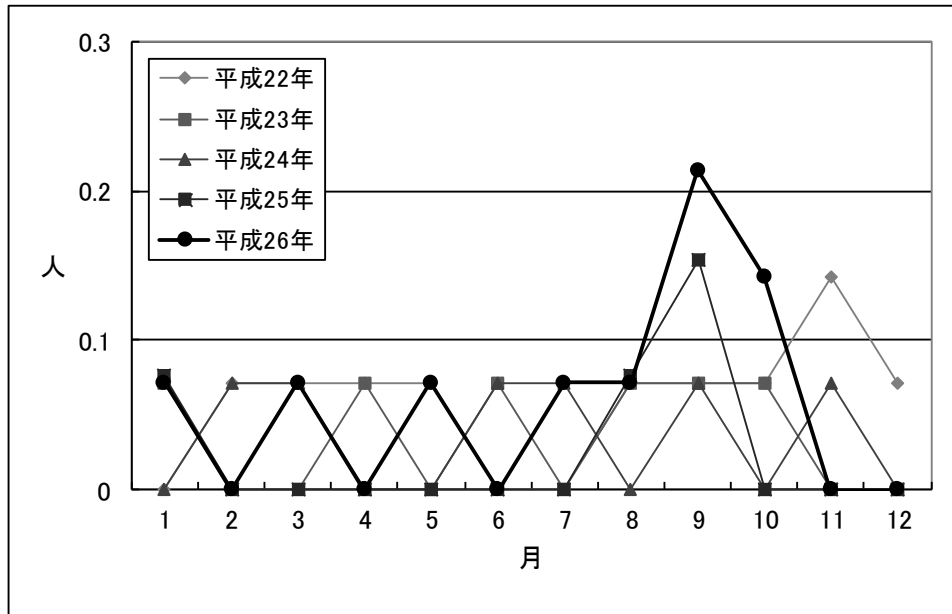
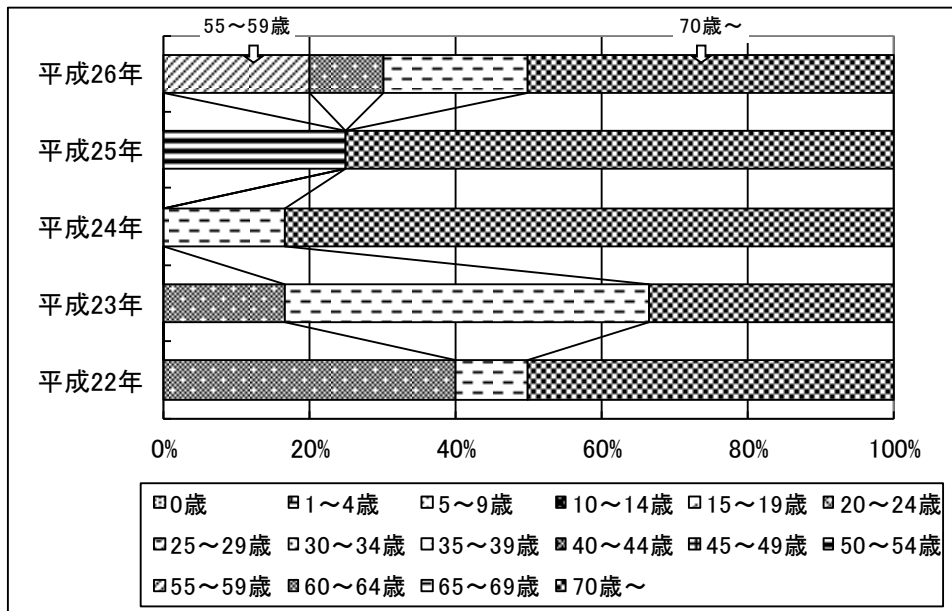


図 29-2 薬剤耐性緑膿菌感染症の年齢階級別患者発生割合



3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例（平成26年）

年月日	保健所	血清型	毒素型 (VT)	感染者数 (株数)	感染者間の 関係等	PFGE 型	MLVA 型*
2014. 5. 2	洲本	O26:H11	1	1		14026001	13m2155 (13C079)
2014. 5. 12	加古川	O121:H19	2	5	高校生と 飼育牛	140121001, 1', 1''	—————
2014. 5. 30	龍野	O157:H7	1&2	1		140157001	13m0816
2014. 6. 3	加古川	O26:H11	1	5	保育所	12026002, 2'	14m2011, 2012 (14c005)
2014. 6. 11	赤穂	O157:H7	2	1		140157002	14m0045 (14c086)
2014. 6. 17	加東	O26:H11	1	2	家族	14026003	13m2134
2014. 6. 26	伊丹	O157:H7	2	1		140157003	14m0046
2014. 6. 26	伊丹	O26:H11	1	1		14026004	14m2019
2014. 6. 30	赤穂	O157:H7	1&2	1		140157001	13m0816
2014. 7. 3	加東	O157:H-	1&2	1		140157004	14m0061 (14c016)
2014. 7. 16	伊丹	O157:H7	1&2	1		140157005	13m0194
2014. 7. 16	龍野	O157:H7	1&2	1		140157001	13m0816
2014. 7. 16	龍野	O26:H11	1	1		14026005	14m2028
2014. 7. 16	龍野	O146:H-	2	1		140146001	—————
2014. 7. 23	洲本	O26:H11	1	1		14026006	14m2045
2014. 8. 1	伊丹	O157:H7	1&2	1		140157005'	14m0134
2014. 8. 1	伊丹	O157:H7	2	1		140157018	14m0157
2014. 8. 1	伊丹	O26:H11	1	1		14026007	14m2043
2014. 8. 6	洲本	O157:H7	2	1		140157006	14m0151
2014. 8. 7	加東	O157:H7	1&2	1		140157007	13m0157
2014. 8. 11	洲本	O157:H7	2	1		140157008	14m0156
2014. 8. 12	明石	O157:H7	2	1		140157009	14m0159
2014. 8. 27	龍野	O157:H7	2	1	保育所	140157010	13m0335
2014. 8. 27	龍野	O146:H-	2	1	7. 16 (0146) の家族	140146001'	—————
2014. 9. 1	伊丹	O157:H-	1&2	1		140157011	14m0195
2014. 9. 1	伊丹	O157:H7	1&2	1		140157012	13m0387
2014. 9. 12	明石	O157:H7	1&2	1		140157013	14m0308
2014. 9. 19	龍野	O146:H-	2	1	7. 16 (0146) と同じ人	140146001	—————
2014. 9. 19	加古川	O157:H7	1&2	1		140157014	14m0253
2014. 9. 25	明石	O157:H7	1&2	1		140157015	14m0317
2014. 10. 8	加古川	O157:H7	1&2	2	家族	140157015	14m0317
2014. 10. 9	伊丹	O26:H-	1	2	家族	14026008	14m2095
2014. 10. 16	洲本	O26:H11	1	1		14026009	13m2102
2014. 10. 20	宝塚	O176:H-	1&2	1		140176001	—————
2014. 11. 25	加古川	O26:H11	1	2	家族	14026010, 10'	14m2130
2014. 12. 11	洲本	O157:H7	2	1		140157016	14m0463
2014. 12. 24	加東	O157:H7	2	1		140157017	14m0480

*国立感染症研究所で実施

(2) 細菌による食中毒（疑）事例（平成26年）

年月日	保健所	病原菌	件数	当所での検査等
2014.3.3	芦屋	カンピロバクター・コリ	1	病原遺伝子検出
2014.6.30	福崎	大腸菌	1	性状試験、血清型、病原遺伝子検出
2014.8.8	豊岡	腸炎ビブリオ	8	血清型、PFGE型、毒素遺伝子検出
2014.10.7	伊丹	サルモネラ	5	性状試験、血清型、PFGE型、ファージ型※
2014.12.24	赤穂	赤痢菌	1	性状試験、血清型、病原遺伝子検出、MLVA型※

※国立感染症研究所で実施

(3) その他の細菌検査（平成26年）

年月日	保健所	病原菌	件数	当所での検査等
2014.7.23	洲本	サルモネラ	2	性状試験、血清型
2014.9.10	豊岡	肺炎球菌	1	肺炎球菌遺伝子検査、血清型遺伝子検査
2014.10.20	加古川	リステリア	2	血清型別

(4) クドア（ヒラメ寄生虫）の検査（平成26年）

年月日	保健所	病原体	検査件数	陽性検体		陰性検体	
2014.9.3	明石	クドア	1	0		1	ヒラメ
2014.10.17	龍野	クドア	2	0		2	患者便

(5) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査（平成26年）

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子 JATA(12)-VNTR型		薬剤感受性試験* ² (耐性を示した薬剤)
2014.1.20	赤穂	MY13052	4333337457B4		
2014.1.27	加古川	MY13053	434353645A83	I	
2014.1.27	加古川	MY13054	413273745755		TH
2014.1.27	加古川	MY13055	434363745763	K	
2014.1.28	洲本	MY13056	049381244772		耐性なし
2014.1.31	龍野	MY13057	413364746785		耐性なし
2014.2.4	伊丹	MY13058	433373745785	G	
2014.2.10	加古川	MY13059	4253617457d6/83		
2014.2.10	加古川	MY13060	433423C45785		
2014.2.10	加古川	MY13061	434353645A83	I	
2014.2.24	洲本	MY13062	434363745763	K	
2014.3.10	加古川	MY13063	434363745763	K	
2014.3.10	加古川	MY13064	463283744862		
2014.3.10	中播磨	MY13065	413274744785		耐性なし
2014.3.10	中播磨	MY13066	333473755723		耐性なし
2014.3.10	赤穂	MY13067	433373745785	G	
2014.3.19	伊丹	MY13068	434363445783	J	
2014.4.11	福崎	MY14001	149341243772		INH、TH、PAS
2014.5.9	洲本	MY14002	149381244772		
2014.5.9	洲本	MY14003	222382543B73		
2014.5.9	洲本	MY14004	413274745785	D	
2014.5.9	洲本	MY14005	433333545884		

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子 JATA(12)-VNTR 型	* ¹	薬剤感受性試験* ² (耐性を示した薬剤)
2014.5.9	伊丹	MY14006	433463745745	H	
2014.5.9	伊丹	MY14007	433463745745	H	
2014.5.9	伊丹	MY14008	330252543C73		
2014.5.9	伊丹	MY14009	434363445783	J	
2014.5.16	龍野	MY14010	412274745785		TH、CS、LVFX
2014.5.19	赤穂	MY14011	413294745785		
2014.5.20	赤穂	MY14012	231342443C23		
2014.6.6	加東	MY14013	333373755725	B	
2014.6.3	洲本	MY14014	333373755725	B	
2014.6.3	加古川	MY14015	233373745785		耐性なし
2014.6.3	加古川	MY14016	131342543H53	A	
2014.6.3	加古川	MY14017	d2/352123123D44		
2014.6.13	洲本	MY14018	433371745785		
2014.6.13	洲本	MY14019	333473755725	C	
2014.6.13	洲本	MY14020	413264945785		
2014.6.13	洲本	MY14021	231342543B53		
2014.6.13	洲本	MY14022	433333742484	E	
2014.6.13	洲本	MY14023	433333742484	E	
2014.6.13	赤穂	MY14024	413265745785		
2014.6.13	赤穂	MY14025	433363745785		
2014.6.26	加古川	MY14026	131342543H53	A	
2014.6.26	加古川	MY14027	434353645A83	I	
2014.7.25	加古川	MY14028	333473755725	C	
2014.7.25	加古川	MY14029	333473755725	C	
2014.7.25	加古川	MY14030	433363745885	F	
2014.8.1	加東	MY14031	433332535784		
2014.8.7	宝塚	MY14032	414274745A27		
2014.8.22	赤穂	MY14033	334354725E94		
2014.9.19	加古川	MY14034	4332737457A5		耐性なし
2014.10.10	明石	MY14035	433363745885	F	耐性なし
2014.10.20	洲本	MY14036	433333745484		
2014.11.14	洲本	MY14037	333473855A25		
2014.11.14	洲本	MY14038	333383345765		
2014.11.14	洲本	MY14039	433323746794		
2014.11.14	洲本	MY14040	413274745785	D	耐性なし
2014.11.14	洲本	MY14041	333473755725	C	
2014.11.14	洲本	MY14042	133453755725		
2014.11.14	洲本	MY14043	231342543553		
2014.11.14	洲本	MY14044	413264745485		
2014.11.14	伊丹	MY14045	413291745775		
2014.11.14	伊丹	MY14046	433373745785	G	
2014.11.25	赤穂	MY14047	333473755722		
2014.11.25	赤穂	MY14048	433332736754		
2014.11.25	赤穂	MY14049	213272745765		
2014.12.26	洲本	MY14050	333473755725	C	
2014.12.26	加東	MY14051	333473755725	C	

*¹: JATA(12)-VNTR 型が一致する菌株を同じアルファベットで表示した。

*²: 検査対象薬剤:INH(イソニアジド)、RFP(リファンピシン)、SM(硫酸ストレプトマイシン)、EB(塩酸エタンプトール)、KM(硫酸カナマイシン)TH(エチオナミド)、EVM(硫酸エンビオマイシン)、PAS(パラアミノサリチル酸ナトリウム)、CS(サイクロセリン)、LVFX(レボフロキサシン)

(6) 結核 QFT 検査 (平成 26 年)

年月日	保健所	件数	陽性	判定保留	陰性	判定不可
2014. 1. 6	福崎	3	0	0	3	0
2014. 1. 10	丹波	13	1	0	12	0
2014. 1. 15	豊岡	27	0	2	25	0
2014. 1. 20	赤穂	2	0	0	2	0
2014. 1. 20	明石	2	0	0	2	0
2014. 1. 20	芦屋	1	0	0	1	0
2014. 1. 20	伊丹	17	1	1	15	0
2014. 1. 20	宝塚	1	0	1	0	0
2014. 1. 21	加東	13	0	0	13	0
2014. 1. 27	加古川	5	0	1	4	0
2014. 1. 27	伊丹	5	1	1	3	0
2014. 1. 27	芦屋	2	0	0	2	0
2014. 1. 28	洲本	2	0	0	2	0
2014. 1. 29	豊岡	2	0	0	2	0
2014. 2. 3	赤穂	3	0	0	3	0
2014. 2. 3	宝塚	5	0	0	5	0
2014. 2. 3	明石	1	0	0	1	0
2014. 2. 10	加古川	6	0	0	6	0
2014. 2. 10	伊丹	1	0	0	1	0
2014. 2. 10	宝塚	1	0	0	1	0
2014. 2. 14	丹波	13	2	1	10	0
2014. 2. 17	伊丹	7	0	0	5	2
2014. 2. 24	龍野	4	0	0	4	0
2014. 2. 24	加古川	6	0	2	4	0
2014. 2. 24	洲本	32	1	2	29	0
2014. 2. 24	芦屋	8	1	1	6	0
2014. 2. 24	宝塚	4	0	0	4	0
2014. 2. 24	宝塚	1	0	0	1	0
2014. 2. 26	豊岡	3	0	0	3	0
2014. 2. 27	明石	6	0	0	6	0
2014. 2. 28	丹波	3	0	1	2	0
2014. 3. 3	伊丹	16	1	0	15	0
2014. 3. 3	芦屋	5	1	0	4	0
2014. 3. 3	宝塚	1	0	0	1	0
2014. 3. 4	加東	6	0	0	6	0
2014. 3. 10	明石	4	0	0	4	0
2014. 3. 10	加古川	3	0	1	2	0
2014. 3. 10	宝塚	2	0	0	2	0
2014. 3. 10	芦屋	1	0	0	1	0
2014. 3. 10	龍野	10	1	0	9	0
2014. 3. 10	赤穂	2	0	1	1	0
2014. 3. 10	福崎	12	5	0	7	0
2014. 3. 14	洲本	40	3	1	36	0
2014. 3. 14	丹波	11	0	1	10	0
2014. 3. 17	伊丹	5	0	0	5	0
2014. 3. 17	宝塚	4	0	1	3	0
2014. 3. 18	加東	7	0	0	7	0
2014. 3. 24	加古川	9	0	1	8	0
2014. 3. 24	宝塚	1	0	0	1	0
2014. 3. 24	伊丹	1	1	0	0	0
2014. 3. 24	芦屋	4	0	0	4	0
2014. 3. 26	豊岡	3	0	0	3	0
2014. 3. 28	丹波	1	0	1	0	0
2014. 7. 28	豊岡	33	0	1	32	0
2014. 7. 30	伊丹	5	1	0	4	0
2014. 10. 9	伊丹	6	0	0	6	0

(7) インフルエンザ流行予測調査検査成績 (平成 26 年)

検体搬入年月	検体数	ウイルス検出数				合計
		A (H1N1) pdm09	A (H3N2) 型	B 型		
				Victoria 系統	Yamagata 系統	
2014. 1	70	42	15	1	9	67
2014. 2	53	23	12	6	11	52
2014. 3	90	35	6	17	31	89
2014. 4	30	7	1	5	15	28
2014. 5	10	0	0	3	7	10
2014. 6	8	0	0	5	1	6
2014. 7	0	0	0	0	0	0
2014. 8	0	0	0	0	0	0
2014. 9	0	0	0	0	0	0
2014. 10	3	0	1	0	0	1
2014. 11	8	0	6	0	0	6
2014. 12	36	0	31	0	1	32
合計	308	107	72	37	75	291

(8) 日本脳炎流行予測調査結果：ブタ血清中の HI 抗体価 (平成 26 年)

採血年月日	検査頭数	HI 抗体価								陽性率 (%)	2ME 感受性 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
2014. 7. 2	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2014. 7. 14	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2014. 7. 22	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2014. 8. 6	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2014. 8. 13	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2014. 8. 27	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2014. 9. 3	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2014. 9. 10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(9) リケッチア等の検査 (平成 26 年)

疾患名	検体数	患者数 (陽性数)	備考
日本紅斑熱	29	19 名 (3 名)	遺伝子及び抗体検査
つつが虫病	26	9 名 (3 名)	遺伝子及び抗体検査
重症熱性血小板減少症候群	11	7 名 (0 名)	遺伝子検査
ライム病	3	1 名 (0 名)	国立感染症研究所に検査依頼

(10) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等検出結果 (平成26年)

事例No.	月	日	保健所	原因施設	感染経路	原因食	対象者	患者数	検体	検体数	陽性数	検出ウイルス
1		29	豊岡	飲食店	食品疑い	不明	46	21	有症	5	4	NoVG II
			豊岡						調理従事者	15	2	NoVG II
			豊岡						拭き取り	5		
			朝来						有症	4	4	NoVG I & G II
2	1	30	洲本	飲食店	食品疑い	不明	59	19	有症	11	9	NoVG II
			洲本						吐物	1		
			洲本						調理従事者	10	3	
			明石						有症	1	1	NoVG II
			加古川						有症	1	1	NoVG II
3		31	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	5	5	有症	4	3	NoVG II
									調理従事者	2		
4	2	5	赤穂	飲食店	食品疑い	不明	11	7	有症	1		
5		25	芦屋	飲食店	食品疑い	不明	8	5	有症	1		
6		28	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	21	9	有症	1	1	NoVG I
7	3	12	伊丹	保育所	ヒトヒト		210	59	有症	4	4	NoVG II
8		14	加古川	旅館	食品疑い	不明	14	12	有症	4	3	SaV
9		27	明石	飲食店	食品疑い	不明	16	8	有症	2		
10		27	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	71	17	有症	1	1	SaV
11		27	伊丹	ホテル	食品疑い	不明	20	9	有症	2	2	NoVG II
12		27	洲本	飲食店	食品疑い	不明	20	6	有症	10	6	NoVG I & G II
									従事者	4		
13	31	加東	仕出し	食品疑い	不明			有症	9	7	NoVG II	
								福崎	有症	2	1	NoVG II
14	4	3	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	73	40	有症	1		
15		25	芦屋	飲食店	食品疑い	不明	33	16	有症	1	1	NoVG II
									宝塚	有症	1	1
16		30	龍野	仕出し	食品疑い	不明	51	25	有症	6	5	NoVG II
								調理従事者	4			
17	5	2	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	196	48	有症	1	1	NoVG II
18		9	伊丹	小学校	ヒトヒト		356	26	有症	1	1	NoVG II
19		23	伊丹	保育所	ヒトヒト		187	32	有症	1	1	NoVG II
20	6	2	伊丹	小学校	ヒトヒト		884	21	有症	1	1	NoVG II
21		16	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	135	27	有症	2		
22	8	19	加古川	旅館	食品疑い	不明	104	49	有症	1	1	NoVG II
23		20	加古川	合宿	ヒトヒト		34	10	有症	6		
			龍野						有症	2		
24	10	9	宝塚	料理教室	食品疑い	不明	25	8	有症	6	5	NoVG II
									調理従事者	1		
25	11	26	赤穂	仕出し	食品疑い	不明	45	12	有症	7	7	NoVG II
			赤穂						調理従事者	3	2	NoVG II
			赤穂						食品	4		
			龍野						有症	2	1	NoVG II
26	12	9	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	16	4	有症	1	1	NoVG II
27		22	芦屋	ケータリ ング	食品疑い	不明	18		有症	1	1	NoVG II
28		25	赤穂	飲食店	食品疑い	不明	142	18	有症	1	1	NoVG II
29		26	宝塚	保養所	食品疑い	不明	34	26	有症	10	9	NoVG II
	伊丹								有症	2	2	NoVG II

NoVG I : ノロウイルス G I, NoVG II : ノロウイルス G II, SaV : サポウイルス

(11) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数 (平成26年)

(インフルエンザの検体を除く)

(検体数)

	平成26年												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
患者数	31	42	32	66	68	53	46	61	46	47	48	43	583	
検体数	37	47	46	83	76	61	63	71	49	53	52	55	693	
検査材料	咽頭ぬぐい液	9	11	16	20	24	33	31	33	37	15	18	14	261
	鼻腔ぬぐい液	9	20	14	29	17	9	11	9	5	22	18	18	181
	髄液	1	3	1	9	5	2	8	9	1	7	2	6	54
	便	12	7	9	17	21	11	8	15	4	6	8	9	127
	尿	2	4	5	7	7	4	3	4	1	2	1	3	43
	血液	2	1	0	0	0	1	2	1	1	1	2	4	15
	気管吸引液	1	1	1	1	2	1	0	0	0	0	2	1	10
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2

(検出件数)

疾患名	検出病原体	平成26年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
咽頭結膜熱	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	2	1	1	0	0	3	0	1	8
	アデノウイルス 2型	0	0	1	1	2	4	0	0	0	0	0	0	8
	アデノウイルス 3型	0	2	0	0	0	4	0	1	3	1	0	0	11
	アデノウイルス 4型	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 5型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	エコーウイルス 11型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	ライノウイルス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	A群溶血性レンサ球菌	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
手足口病	コクサッキーウイルス A16型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3
	パレコウイルス	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A2型	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	5
	コクサッキーウイルス A4型	0	0	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0	6
	コクサッキーウイルス A5型	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
	パレコウイルス	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス B3型	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	エコーウイルス 11型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	エコーウイルス 30型	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
感染性胃腸炎	ノロウイルス GⅡ	6	0	2	1	3	0	0	0	0	1	0	3	16
	ロタウイルス A群	0	0	0	4	4	0	0	1	0	0	1	0	10
	サポウイルス	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0	7
	アストロウイルス	2	1	0	2	4	1	0	0	0	0	0	0	10
	アデノウイルス 1型	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
	アデノウイルス 2型	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	アデノウイルス 5型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 31型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	アデノウイルス 41型	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	4
	コクサッキーウイルス A4型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	コクサッキーウイルス A16型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	エコーウイルス 25型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	パレコウイルス	0	0	0	0	0	3	0	1	1	2	0	0	7
ライノウイルス	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3	6	
RSウイルス感染症	RSウイルス	4	12	1	3	3	0	0	0	3	4	16	14	60
	ライノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	6
	アデノウイルス 2型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2

疾患名	検出病原体	平成26年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
発疹症	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3
	コクサッキーウイルス A16型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクサッキーウイルス B4型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	エコーウイルス 18型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	パレコウイルス	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	1	0	1	1	0	1	0	0	2	0	2	0	8
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	アデノウイルス 2型	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	ライノウイルス	0	0	2	0	1	1	2	1	2	0	1	0	10
	RSウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	ロタウイルス A群	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
呼吸器疾患 (上気道炎・下気道炎)	ライノウイルス	1	0	2	7	5	2	4	4	2	1	2	2	32
	ヒトメタニューモウイルス	1	1	4	19	3	1	0	0	0	0	1	30	
	RSウイルス	1	0	2	0	1	0	1	0	2	2	0	1	10
	パラインフルエンザウイルス 1型	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	4
	パラインフルエンザウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A2型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	コクサッキーウイルス A16型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス B1型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	コクサッキーウイルス B3型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	コクサッキーウイルス B4型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	コクサッキーウイルス B5型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	エコーウイルス 18型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	パレコウイルス	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 2型	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
	アデノウイルス 3型	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	アデノウイルス 5型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	A群溶血性レンサ球菌	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
急性脳炎・脳症	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	パルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクサッキーウイルス A2型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	パレコウイルス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロタウイルス A群	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	サポウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 (不明熱・けいれん等)	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 2型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 3型	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 41型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス A2型	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	4
	コクサッキーウイルス A4型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス B1型	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	コクサッキーウイルス B4型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	エコーウイルス 11型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3
	エコーウイルス 25型	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
	ライノウイルス	2	1	0	2	2	0	1	0	2	2	2	1	15
	RSウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	水痘帯状疱疹ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	パレコウイルス	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
	ノロウイルス GII	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	サポウイルス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	アストロウイルス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	風しんウイルス	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4
	EBウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	A群溶血性レンサ球菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
検出数(合計)		20	26	19	49	44	37	42	40	34	27	41	33	412

4. 資 料

(1) 全数把握対象疾病の患者数

付表1-1：全数把握対象疾病の年間患者数（平成26年）	49
付表1-2：全数把握対象疾病の週別患者数（届出のあった疾病）（平成26年）	50
付表1-3：全数把握対象疾病の保健所別患者数（届出のあった疾病）（平成26年）	51
付表1-4：全数把握対象疾病の年齢階級別患者数（届出のあった疾病）（平成26年）	52

(2) 定点把握対象疾病の週（月）別患者数

付表2-1：週報対象疾病の週別患者数（平成26年）	53
付表2-2：週報対象疾病の週別定点あたり患者数（平成26年）	54
付表2-3：月報対象疾病の月別患者数（平成26年）	55
付表2-4：月報対象疾病の月別定点あたり患者数（平成26年）	55

(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数

付表3-1：週報対象疾病の保健所別患者数（平成26年）	56
付表3-2：週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数（平成26年）	57
付表3-3：月報対象疾病の保健所別患者数（平成26年）	58
付表3-4：月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数（平成26年）	58

(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数

付表4-1：週報対象疾病の年齢階級別患者数（平成26年）	59
付表4-2：週報対象疾病の年齢階級別患者割合（平成26年）	60
付表4-3：月報対象疾病の年齢階級別患者数（平成26年）	61
付表4-4：月報対象疾病の年齢階級別患者割合（平成26年）	61

(5) 定点把握対象疾病（月報）の性別患者数

付表5：月報対象疾病の性別患者数と割合（平成26年）	61
----------------------------	----

付表1-1 全数把握対象疾病の年間患者数(平成26年)

疾 病 名		計	疾 病 名		計	
一類 感染症	エボラ出血熱	0	四類 感染症 (2)	ハンタウイルス肺症候群	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0		Bウイルス病	0	
	痘そう	0		鼻疽	0	
	南米出血熱	0		ブルセラ症	0	
	ペスト	0		ベネズエラウマ脳炎	0	
	マールブルグ病	0		ヘンドラウイルス感染症	0	
	ラッサ熱	0		発しんチフス	0	
	二類 感染症	急性灰白髄炎		0	ボツリヌス症	0
結核		1312		マラリア	2	
ジフテリア		0		野兔病	1	
重症急性呼吸器症候群* ^A		0		ライム病	0	
鳥インフルエンザ(H5N1)		0		リッサウイルス感染症	0	
三類 感染症	コレラ	0		リフトバレー熱	0	
	細菌性赤痢	4		類鼻疽	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	114		レジオネラ症	50	
	腸チフス	1		レプトスピラ症	0	
	パラチフス	0		ロッキー山紅斑熱	0	
四類 感染症 (1)	E型肝炎	3		五類 感染症	アメーバ赤痢	44
	ウエストナイル熱* ^B	0			ウイルス性肝炎* ^E	11
	A型肝炎	25			カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ²	12
	エキノкокクス症	0			急性脳炎* ^F	12
	黄熱	0			クリプトスポリジウム症	0
	オウム病	0			クロイツフェルト・ヤコブ病	5
	オムスク出血熱	0			劇症型溶血性レンサ球菌感染症	16
	回帰熱	0			後天性免疫不全症候群	35
	キャサヌル森林病	0			ジアルジア症	3
	Q熱	0			侵襲性インフルエンザ菌感染症	13
	狂犬病	0			侵襲性髄膜炎菌感染症	2
	コクシジオイデス症	0	侵襲性肺炎球菌感染症		98	
	サル痘	0	水痘(入院例)* ²		7	
	重症熱性血小板減少症候群* ^C	0	先天性風しん症候群		1	
	腎症候性出血熱	0	梅毒		42	
	西部ウマ脳炎	0	播種性クリプトкокクス症* ²		1	
	ダニ媒介脳炎	0	破傷風		1	
	炭疽	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		0	
	チクングニア熱	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		3	
	つつが虫病	3	風しん		7	
	デング熱	7	麻しん		19	
	東部ウマ脳炎	0	薬剤耐性アシネトバクター感染症* ²		0	
	鳥インフルエンザ* ^D	0	指定 感染症		中東呼吸器症候群* ^{G*1}	0
ニパウイルス感染症	0	鳥インフルエンザ(H7N9)		0		
日本紅斑熱	11					
日本脳炎	1					

^A病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^Bウエストナイル脳炎を含む。*^C病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。*^DH5N1及びH7N9を除く。*^EE型肝炎及びA型肝炎を除く。*^Fウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。*^G病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*¹平成26年7月26日より追加。 *²平成26年9月19日より追加。

付表1-2 全数把握対象疾病の週別患者数(届出のあった疾病)(平成26年)

疾病名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
二類感染症 結核	4	36	21	17	16	21	21	17	15	25	24	14	25	41	37	28	39	36	15	26	30	31	28	30	22	25	32
三類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四類感染症 E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 日本脳炎 マラリア 野兔病 レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ¹ 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例)* ¹ 先天性風しん症候群 播種性クリプトコックス症 梅毒 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	0	1	0	1	0	1	2	0	0	2	1	2	1	2	2	0	0	2	1	0	1	2	0	0	1	0
六類感染症 結核	31	31	22	35	28	19	27	13	27	30	29	31	15	17	14	29	29	24	30	28	16	27	27	28	29	1312	
七類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
八類感染症 E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 日本脳炎 マラリア 野兔病 レジオネラ症	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
九類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ¹ 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例)* ¹ 先天性風しん症候群 播種性クリプトコックス症 梅毒 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	
十類感染症 結核	31	31	22	35	28	19	27	13	27	30	29	31	15	17	14	29	29	24	30	28	16	27	27	28	29	1312	
十一類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
十二類感染症 E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 日本脳炎 マラリア 野兔病 レジオネラ症	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
十三類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ¹ 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例)* ¹ 先天性風しん症候群 播種性クリプトコックス症 梅毒 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	
十四類感染症 結核	31	31	22	35	28	19	27	13	27	30	29	31	15	17	14	29	29	24	30	28	16	27	27	28	29	1312	
十五類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
十六類感染症 E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 日本脳炎 マラリア 野兔病 レジオネラ症	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
十七類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ¹ 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例)* ¹ 先天性風しん症候群 播種性クリプトコックス症 梅毒 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	

疾病名	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計
二類感染症 結核	31	31	22	35	28	19	27	13	27	30	29	31	15	17	14	29	29	24	30	28	16	27	27	28	29	1312
三類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
四類感染症 E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 日本脳炎 マラリア 野兔病 レジオネラ症	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
五類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ¹ 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例)* ¹ 先天性風しん症候群 播種性クリプトコックス症 梅毒 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
六類感染症 結核	31	31	22	35	28	19	27	13	27	30	29	31	15	17	14	29	29	24	30	28	16	27	27	28	29	1312
七類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
八類感染症 E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 日本脳炎 マラリア 野兔病 レジオネラ症	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
九類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ¹ 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例)* ¹ 先天性風しん症候群 播種性クリプトコックス症 梅毒 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25

^AE型肝炎及びA型肝炎を除く。^Bウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*¹平成26年9月19日より追加。

付表1-3 全数把握対象疾病の保健所別患者数(届出のあった疾病)(平成26年)

疾 病 名		神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
二 類 感 染 症	結核	421	144	117	90	20	79	59	63	107	53
三 類 感 染 症	細菌性赤痢	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	19	12	29	7	0	9	1	4	13	5
	腸チフス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四 類 感 染 症	E型肝炎	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	A型肝炎	11	4	0	2	1	0	3	4	0	0
	つつが虫病	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	デング熱	5	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	マラリア	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	レジオネラ症	16	2	2	2	4	9	2	0	5	1
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	11	5	4	4	3	3	3	2	2	0
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	3	1	1	2	0	0	0	2	1	0
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*1}	4	0	2	1	0	0	0	0	0	1
	急性脳炎 ^{*B}	1	6	1	1	0	1	0	0	5	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	2	0	1	0	1	2	0	0	1
	後天性免疫不全症候群	15	2	3	7	1	2	0	1	2	2
	ジアルジア症	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5	3	0	0	0	2	0	0	0	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	28	25	12	5	0	3	8	2	5	4
	水痘(入院例) ^{*1}	2	1	2	1	0	1	0	0	0	0
	先天性風しん症候群	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	播種性クリプトコックス症	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	14	4	6	3	0	3	5	2	2	1
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0
	風しん	4	0	0	2	0	1	0	0	0	0
	麻しん	6	8	0	2	1	0	0	2	0	0

疾 病 名		龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
二 類 感 染 症	結核	16	31	19	20	3	36	34	1312
三 類 感 染 症	細菌性赤痢	0	1	0	0	0	0	0	4
	腸管出血性大腸菌感染症	7	2	0	0	0	0	6	114
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	1
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	3
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	25
	つつが虫病	0	0	0	0	1	1	0	3
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	7
	日本紅斑熱	0	0	0	2	0	0	6	11
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	2
	野兔病	0	0	0	0	0	0	1	1
	レジオネラ症	1	3	0	0	1	2	0	50
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	3	0	1	1	0	2	44
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	0	1	0	0	0	0	0	11
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*1}	0	3	0	0	0	1	0	12
	急性脳炎 ^{*B}	0	0	0	0	0	0	0	16
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	0	0	0	0	0	5
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	12
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	35
	ジアルジア症	0	1	0	0	0	0	0	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	1	0	0	0	0	1	13
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	1	0	4	0	98
	水痘(入院例) ^{*1}	0	0	0	0	0	0	0	7
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	1
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	梅毒	0	0	0	1	0	0	1	42
	破傷風	0	0	0	1	0	0	0	1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	3
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	7
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	19

^{*A}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*B}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

^{*1}平成26年9月19日より追加。

付表1-4 全数把握対象疾病の年齢階級別患者数(届出のあった疾病)(平成26年)

疾病名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	
二類感染症 結核	17	9	7	3	6	27	48	41	48	54	51	
三類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0 1 0	0 30 0	0 12 0	0 7 0	0 9 0	0 7 1	0 10 0	0 6 0	2 3 0	0 1 0	1 1 0	0 2 0
四類感染症 E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 日本脳炎 マラリア 野兔病 レジオネラ症	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 2 1 0 0 0	0 2 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 1 0 0 0 0 0	0 2 0 2 0 0 0 0 0	0 3 0 1 0 0 0 0 1	0 1 0 1 0 0 0 0 0	0 2 0 1 0 0 0 0 1	0 1 0 1 0 0 0 0 1	0 1 0 0 0 0 0 0 2	0 6 1 0 0 0 0 0 3
五類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ¹ 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例)* ¹ 先天性風しん症候群 播種性クリプトコックス症 梅毒 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	0 0 0 2 0 0 0 0 1 0 7 0 1 0 1 0 0 0	0 0 0 8 0 0 0 0 0 22 2 0 0 0 0 0 0 0 0	1 0 0 3 0 0 0 1 0 1 1 1 1 0 0 0 0	0 0 0 2 0 0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 3 0 0 0 0 0 0 0	0 3 0 0 0 0 0 4 0 0 0 0 0 0 5 0 0 0	1 1 0 1 0 4 1 0 1 2 3 0 0 3 0 1 0 1 2	3 1 0 0 0 6 3 0 2 2 1 0 0 1 0 0 0 0 0 1	3 1 0 0 0 3 9 0 1 2 2 0 0 4 0 5 0 1 0 0	6 3 1 0 0 0 0 0 0 9 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0	3 1 0 0 0 0 0 2 0 0 5 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
疾病名	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上	計		
二類感染症 結核	50	73	87	104	111	140	177	152	107	1312		
三類感染症 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0 8 0	0 6 0	0 3 0	0 2 0	1 5 0	0 1 0	0 1 0	0 0 0	0 0 0	4 114 1		
四類感染症 E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 日本脳炎 マラリア 野兔病 レジオネラ症	2 5 0 1 0 0 0 0 2	0 1 0 0 0 0 0 0 1	0 1 0 0 0 0 0 0 5	1 0 0 0 5 0 0 0 8	0 1 0 0 2 0 1 0 8	0 0 0 0 1 0 0 0 8	0 0 2 0 1 0 0 0 2	0 0 0 0 1 0 0 0 5	0 0 0 0 0 0 0 0 8	3 25 3 7 11 1 2 1 50		
五類感染症 アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症* ¹ 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例)* ¹ 先天性風しん症候群 播種性クリプトコックス症 梅毒 破傷風 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 風しん 麻しん	6 2 0 1 0 0 0 0 2	3 0 0 0 0 0 0 0 1	4 0 0 0 2 0 0 0 4	8 0 1 0 0 0 0 0 8	3 0 1 0 0 0 0 0 8	2 0 3 0 1 0 0 0 2	1 0 0 0 1 0 0 0 5	0 0 3 0 0 0 0 0 8	0 0 3 0 0 0 0 0 4	44 11 12 16 5 12 35 3 13 2 98 7 1 1 42 1 3 7 19		

^AE型肝炎及びA型肝炎を除く。^Bウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。*¹平成26年9月19日より追加。

付表2-3 月報対象疾病の月別患者数(平成26年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
性器クラミジア感染症	76	84	70	76	77	72	59	73	80	95	52	59	873
性器ヘルペスウイルス感染症	22	12	20	19	28	29	28	37	39	34	31	18	317
尖圭コンジローマ	10	9	13	9	8	15	9	12	11	23	14	11	144
淋菌感染症	35	30	30	32	28	32	24	31	35	45	30	22	374
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	38	34	35	43	41	52	52	52	50	54	35	39	525
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	7	8	7	9	5	7	4	4	3	7	5	75
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	1	0	1	0	1	1	3	2	0	0	10
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0	0	0	0	0	0	0	2	0	—	—	—	2

^{*1}平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

付表2-4 月報対象疾病の月別定点あたり患者数(平成26年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月平均
性器クラミジア感染症	1.65	1.83	1.52	1.65	1.67	1.57	1.28	1.59	1.74	2.07	1.13	1.28	1.58
性器ヘルペスウイルス感染症	0.48	0.26	0.43	0.41	0.61	0.63	0.61	0.80	0.85	0.74	0.67	0.39	0.57
尖圭コンジローマ	0.22	0.20	0.28	0.20	0.17	0.33	0.20	0.26	0.24	0.50	0.30	0.24	0.26
淋菌感染症	0.76	0.65	0.65	0.70	0.61	0.70	0.52	0.67	0.76	0.98	0.65	0.48	0.68
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2.71	2.43	2.50	3.07	2.93	3.71	3.71	3.71	3.57	3.86	2.50	2.79	3.13
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.64	0.50	0.57	0.50	0.64	0.36	0.50	0.29	0.29	0.21	0.50	0.36	0.45
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.07	0.00	0.07	0.00	0.07	0.00	0.07	0.07	0.21	0.14	0.00	0.00	0.06
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	—	—	—	0.02

^{*1}平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

付表3-1 週報対象疾病の保健所別患者数(平成26年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
インフルエンザ**A	13608	4785	8517	3478	696	4828	2555	3210	5036	4425
RSウイルス感染症	640	440	611	226	24	129	85	240	435	559
咽頭結膜熱	840	208	304	196	22	283	126	101	86	391
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1471	558	2180	526	108	786	155	259	427	595
感染性胃腸炎	10969	2912	7408	3465	402	2971	1402	2258	1864	4466
水痘	1495	355	845	331	85	611	254	544	295	705
手足口病	284	82	419	116	6	172	57	30	115	79
伝染性紅斑	244	66	38	61	27	42	29	24	27	32
突発性発しん	723	173	481	222	36	211	158	181	271	306
百日咳	9	1	19	4	0	6	1	1	8	7
ヘルパンギーナ	1387	292	900	393	37	346	383	176	332	467
流行性耳下腺炎	421	89	110	62	16	52	24	120	52	40
急性出血性結膜炎	4	1	3	0	0	1	0	0	1	0
流行性角結膜炎	174	99	97	16	2	115	64	44	408	180
細菌性髄膜炎*B	14	2	2	0	—	—	—	—	10	0
無菌性髄膜炎	15	0	0	0	—	—	—	—	4	0
マイコプラズマ肺炎	1	0	1	0	—	—	—	—	26	32
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	—	—	—	—	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	3	0	1	0	—	—	—	—	32	1

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
インフルエンザ**A	2211	2323	1003	2415	1577	593	1897	63157
RSウイルス感染症	36	87	3	63	4	213	283	4078
咽頭結膜熱	27	34	3	55	11	143	145	2975
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	99	201	24	299	16	196	420	8320
感染性胃腸炎	2430	2151	439	2781	578	1171	1664	49331
水痘	199	169	48	335	79	129	234	6713
手足口病	68	80	9	13	21	15	57	1623
伝染性紅斑	2	2	1	3	8	3	56	665
突発性発しん	99	84	21	129	44	52	159	3350
百日咳	3	2	0	10	0	1	0	72
ヘルパンギーナ	274	51	65	159	82	192	363	5899
流行性耳下腺炎	39	84	1	24	11	10	24	1179
急性出血性結膜炎	0	—	1	0	—	—	0	11
流行性角結膜炎	44	—	11	17	—	—	12	1283
細菌性髄膜炎*B	0	3	—	0	0	1	0	32
無菌性髄膜炎	0	9	—	0	0	0	1	29
マイコプラズマ肺炎	0	7	—	2	7	10	0	86
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	—	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	30	—	0	0	14	0	81

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-2 週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(平成26年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
インフルエンザ**A	289.53	319.00	448.26	248.43	232.00	402.33	283.89	291.82	359.71	340.38
RSウイルス感染症	21.33	44.00	47.00	25.11	12.00	16.13	14.17	34.29	48.33	69.88
咽頭結膜熱	28.00	20.80	23.38	21.78	11.00	35.38	21.00	14.43	9.56	48.88
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49.03	55.80	167.69	58.44	54.00	98.25	25.83	37.00	47.44	74.38
感染性胃腸炎	365.63	291.20	569.85	385.00	201.00	371.38	233.67	322.57	207.11	558.25
水痘	49.83	35.50	65.00	36.78	42.50	76.38	42.33	77.71	32.78	88.13
手足口病	9.47	8.20	32.23	12.89	3.00	21.50	9.50	4.29	12.78	9.88
伝染性紅斑	8.13	6.60	2.92	6.78	13.50	5.25	4.83	3.43	3.00	4.00
突発性発しん	24.10	17.30	37.00	24.67	18.00	26.38	26.33	25.86	30.11	38.25
百日咳	0.30	0.10	1.46	0.44	0.00	0.75	0.17	0.14	0.89	0.88
ヘルパンギーナ	46.23	29.20	69.23	43.67	18.50	43.25	63.83	25.14	36.89	58.38
流行性耳下腺炎	14.03	8.90	8.46	6.89	8.00	6.50	4.00	17.14	5.78	5.00
急性出血性結膜炎	0.40	0.33	1.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.33	0.00
流行性角結膜炎	17.40	33.00	32.33	5.33	2.00	57.50	32.00	22.00	136.00	90.00
細菌性髄膜炎*B	7.00	2.00	2.00	0.00	—	—	—	—	10.00	0.00
無菌性髄膜炎	7.50	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	4.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.00	1.00	0.00	—	—	—	—	26.00	32.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	1.50	0.00	1.00	0.00	—	—	—	—	32.00	1.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
インフルエンザ**A	276.38	387.17	501.50	301.88	525.67	98.83	237.13	318.97
RSウイルス感染症	7.20	21.75	3.00	12.60	2.00	53.25	56.60	31.86
咽頭結膜熱	5.40	8.50	3.00	11.00	5.50	35.75	29.00	23.24
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	19.80	50.25	24.00	59.80	8.00	49.00	84.00	65.00
感染性胃腸炎	486.00	537.75	439.00	556.20	289.00	292.75	332.80	385.40
水痘	39.80	42.25	48.00	67.00	39.50	32.25	46.80	52.45
手足口病	13.60	20.00	9.00	2.60	10.50	3.75	11.40	12.68
伝染性紅斑	0.40	0.50	1.00	0.60	4.00	0.75	11.20	5.20
突発性発しん	19.80	21.00	21.00	25.80	22.00	13.00	31.80	26.17
百日咳	0.60	0.50	0.00	2.00	0.00	0.25	0.00	0.56
ヘルパンギーナ	54.80	12.75	65.00	31.80	41.00	48.00	72.60	46.09
流行性耳下腺炎	7.80	21.00	1.00	4.80	5.50	2.50	4.80	9.21
急性出血性結膜炎	0.00	—	1.00	0.00	—	—	0.00	0.31
流行性角結膜炎	44.00	—	11.00	17.00	—	—	12.00	36.66
細菌性髄膜炎*B	0.00	3.00	—	0.00	0.00	1.00	0.00	2.46
無菌性髄膜炎	0.00	9.00	—	0.00	0.00	0.00	1.00	2.23
マイコプラズマ肺炎	0.00	7.00	—	2.00	7.00	10.00	0.00	6.62
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	30.00	—	0.00	0.00	14.00	0.00	6.23

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-3 月報対象疾病の保健所別患者数(平成26年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
性器クラミジア感染症	245	114	179	59	13	4	38	35	69	36
性器ヘルペスウイルス感染症	86	25	15	2	2	3	81	21	5	8
尖圭コンジローマ	48	19	31	23	1	0	3	10	1	3
淋菌感染症	93	60	82	31	8	1	9	4	60	4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	128	40	71	12	—	—	—	—	22	43
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	48	1	1	1	—	—	—	—	1	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	2	2	1	0	—	—	—	—	0	0
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	2	0	0	0	—	—	—	—	0	0

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
性器クラミジア感染症	20	6	11	12	6	17	9	873
性器ヘルペスウイルス感染症	2	1	43	7	1	5	10	317
尖圭コンジローマ	0	0	0	4	0	1	0	144
淋菌感染症	8	0	2	2	5	0	5	374
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	51	30	—	33	7	39	49	525
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	2	—	0	0	13	8	75
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	2	—	0	0	0	3	10
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0	0	—	0	0	0	0	2

^{*1}平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

付表3-4 月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(平成26年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
性器クラミジア感染症	20.42	28.50	44.75	19.67	13.00	2.00	12.67	17.50	17.25	12.00
性器ヘルペスウイルス感染症	7.17	6.25	3.75	0.67	2.00	1.50	27.00	10.50	1.25	2.67
尖圭コンジローマ	4.00	4.75	7.75	7.67	1.00	0.00	1.00	5.00	0.25	1.00
淋菌感染症	7.75	15.00	20.50	10.33	8.00	0.50	3.00	2.00	15.00	1.33
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	42.67	40.00	71.00	12.00	—	—	—	—	22.00	43.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	16.00	1.00	1.00	1.00	—	—	—	—	1.00	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.67	2.00	1.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0.67	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
性器クラミジア感染症	20.00	6.00	11.00	12.00	6.00	17.00	4.50	18.98
性器ヘルペスウイルス感染症	2.00	1.00	43.00	7.00	1.00	5.00	5.00	6.89
尖圭コンジローマ	0.00	0.00	0.00	4.00	0.00	1.00	0.00	3.13
淋菌感染症	8.00	0.00	2.00	2.00	5.00	0.00	2.50	8.13
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	51.00	30.00	—	33.00	7.00	39.00	49.00	37.50
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	2.00	—	0.00	0.00	13.00	8.00	5.36
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	2.00	—	0.00	0.00	0.00	3.00	0.71
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0.00	0.00	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14

^{*1}平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

付表4-1 週報対象疾病の年齢階級別患者数(平成26年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	
インフルエンザ ^{*A}	170	733	2461	2865	3278	3553	4440	4729	4508	4137	3666	
RSウイルス感染症	679	810	1318	639	317	161	68	27	18	8	8	
咽頭結膜熱	11	162	620	421	397	400	324	196	97	85	77	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	67	353	431	724	1135	1279	1134	837	629	502	
感染性胃腸炎	544	2978	6808	5410	5021	4874	4226	3236	2587	2071	1798	
水痘	94	285	847	988	1136	1075	922	585	268	183	116	
手足口病	8	86	419	380	255	185	127	65	39	22	9	
伝染性紅斑	3	24	44	56	84	113	111	70	57	45	21	
突発性発しん	87	1355	1583	256	42	17	4	3	2	0	1	
百日咳	11	5	8	8	1	1	3	1	1	3	2	
ヘルパンギーナ	29	418	1442	1248	937	740	457	255	139	81	47	
流行性耳下腺炎	2	1	40	82	130	164	206	161	119	86	52	
急性出血性結膜炎	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	5	10	70	63	55	51	54	46	28	16	17	
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	
細菌性髄膜炎 ^{*B}	9	5	5	0	0	0	0	0	2	1	2	
無菌性髄膜炎	1	1	2	1	2	2	3	3	1	3	3	
マイコプラズマ肺炎	1	22	15	10	2	4	2	6	2	5	5	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	14	54	5	3	1	1	1	0	1	0	0	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計		
インフルエンザ ^{*A}	12905	2233	2426	3872	3310	1730	1202	610	329	63157		
	10-14歳	15-19歳	20歳以上									
RSウイルス感染症	17	1	7									4078
咽頭結膜熱	115	14	56									2975
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	825	48	349									8320
感染性胃腸炎	4397	1105	4276									49331
水痘	172	17	25									6713
手足口病	21	2	5									1623
伝染性紅斑	29	1	7									665
突発性発しん	0	0	0									3350
百日咳	20	2	6									72
ヘルパンギーナ	74	6	26									5899
流行性耳下腺炎	118	6	12									1179
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上				
急性出血性結膜炎	0	0	2	1	1	5	0	0				11
流行性角結膜炎	46	22	151	266	157	78	84	64				1283
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上							
細菌性髄膜炎 ^{*B}	2	0	1	0	5							32
無菌性髄膜炎	2	1	0	2	2							29
マイコプラズマ肺炎	0	1	3	3	5							86
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0							0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	0	0	1							81

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 ^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-2 週報対象疾病の年齢階級別患者割合(%) (平成26年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
インフルエンザ ^{*A}	0.27	1.16	3.90	4.54	5.19	5.63	7.03	7.49	7.14	6.55	5.80
RSウイルス感染症	16.65	19.86	32.32	15.67	7.77	3.95	1.67	0.66	0.44	0.20	0.20
咽頭結膜熱	0.37	5.45	20.84	14.15	13.34	13.45	10.89	6.59	3.26	2.86	2.59
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.08	0.81	4.24	5.18	8.70	13.64	15.37	13.63	10.06	7.56	6.03
感染性胃腸炎	1.10	6.04	13.80	10.97	10.18	9.88	8.57	6.56	5.24	4.20	3.64
水痘	1.40	4.25	12.62	14.72	16.92	16.01	13.73	8.71	3.99	2.73	1.73
手足口病	0.49	5.30	25.82	23.41	15.71	11.40	7.83	4.00	2.40	1.36	0.55
伝染性紅斑	0.45	3.61	6.62	8.42	12.63	16.99	16.69	10.53	8.57	6.77	3.16
突発性発しん	2.60	40.45	47.25	7.64	1.25	0.51	0.12	0.09	0.06	0.00	0.03
百日咳	15.28	6.94	11.11	11.11	1.39	1.39	4.17	1.39	1.39	4.17	2.78
ヘルパンギーナ	0.49	7.09	24.44	21.16	15.88	12.54	7.75	4.32	2.36	1.37	0.80
流行性耳下腺炎	0.17	0.08	3.39	6.96	11.03	13.91	17.47	13.66	10.09	7.29	4.41
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	9.09	0.00	9.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.39	0.78	5.46	4.91	4.29	3.98	4.21	3.59	2.18	1.25	1.33
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
細菌性髄膜炎 ^{*B}	28.13	15.63	15.63	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.25	3.13	6.25
無菌性髄膜炎	3.45	3.45	6.90	3.45	6.90	6.90	10.34	10.34	3.45	10.34	10.34
マイコプラズマ肺炎	1.16	25.58	17.44	11.63	2.33	4.65	2.33	6.98	2.33	5.81	5.81
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	17.28	66.67	6.17	3.70	1.23	1.23	1.23	0.00	1.23	0.00	0.00
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計	
インフルエンザ ^{*A}	20.43	3.54	3.84	6.13	5.24	2.74	1.90	0.97	0.52	100.00	
	10-14歳	15-19歳	20歳以上								
RSウイルス感染症	0.42	0.02	0.17							100.00	
咽頭結膜熱	3.87	0.47	1.88							100.00	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9.92	0.58	4.19							100.00	
感染性胃腸炎	8.91	2.24	8.67							100.00	
水痘	2.56	0.25	0.37							100.00	
手足口病	1.29	0.12	0.31							100.00	
伝染性紅斑	4.36	0.15	1.05							100.00	
突発性発しん	0.00	0.00	0.00							100.00	
百日咳	27.78	2.78	8.33							100.00	
ヘルパンギーナ	1.25	0.10	0.44							100.00	
流行性耳下腺炎	10.01	0.51	1.02							100.00	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上			
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	18.18	9.09	9.09	45.45	0.00	0.00		100.00	
流行性角結膜炎	3.59	1.71	11.77	20.73	12.24	6.08	6.55	4.99		100.00	
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上						
細菌性髄膜炎 ^{*B}	6.25	0.00	3.13	0.00	15.63					100.00	
無菌性髄膜炎	6.90	3.45	0.00	6.90	6.90					100.00	
マイコプラズマ肺炎	0.00	1.16	3.49	3.49	5.81					100.00	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	—	—	—	—	—					—	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	0.00	0.00	0.00	1.23					100.00	

*A鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *Bインフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-3 月報対象疾病の年齢階級別患者数(平成26年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0	0	0	0	107	228	185	118	85
性器ヘルペスウイルス感染症	0	1	0	0	11	37	21	35	27
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	8	31	16	20	24
淋菌感染症	0	0	1	1	39	99	71	51	42
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	21	10	4	1	2	4	8	4	3
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	10	2	2	0	0	1	1	1
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	62	35	21	8	9	9	6	873
性器ヘルペスウイルス感染症	29	29	27	24	7	22	47	317
尖圭コンジローマ	11	9	9	6	2	8	0	144
淋菌感染症	33	15	11	2	6	3	0	374
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	8	8	19	29	56	342	525
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	3	4	7	6	35	75
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	2	1	2	5	10
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0	0	0	0	0	1	1	2

*1平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

付表4-4 月報対象疾病の年齢階級別患者割合(%) (平成26年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	12.26	26.12	21.19	13.52	9.74
性器ヘルペスウイルス感染症	0.00	0.32	0.00	0.00	3.47	11.67	6.62	11.04	8.52
尖圭コンジローマ	0.00	0.00	0.00	0.00	5.56	21.53	11.11	13.89	16.67
淋菌感染症	0.00	0.00	0.27	0.27	10.43	26.47	18.98	13.64	11.23
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4.00	1.90	0.76	0.19	0.38	0.76	1.52	0.76	0.57
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2.67	13.33	2.67	2.67	0.00	0.00	1.33	1.33	1.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	7.10	4.01	2.41	0.92	1.03	1.03	0.69	100.00
性器ヘルペスウイルス感染症	9.15	9.15	8.52	7.57	2.21	6.94	14.83	100.00
尖圭コンジローマ	7.64	6.25	6.25	4.17	1.39	5.56	0.00	100.00
淋菌感染症	8.82	4.01	2.94	0.53	1.60	0.80	0.00	100.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.14	1.52	1.52	3.62	5.52	10.67	65.14	100.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.33	0.00	4.00	5.33	9.33	8.00	46.67	100.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	20.00	10.00	20.00	50.00	100.00
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	50.00	50.00	100.00

*1平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

付表5 月報対象疾病の性別患者数と割合(%) (平成26年)

疾 病 名	男 (%)	女 (%)	計 (%)
性器クラミジア感染症	480 (54.98)	393 (45.02)	873 (100.00)
性器ヘルペスウイルス感染症	76 (23.97)	241 (76.03)	317 (100.00)
尖圭コンジローマ	112 (77.78)	32 (22.22)	144 (100.00)
淋菌感染症	327 (87.43)	47 (12.57)	374 (100.00)
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	341 (64.95)	184 (35.05)	525 (100.00)
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	55 (73.33)	20 (26.67)	75 (100.00)
薬剤耐性緑膿菌感染症	7 (70.00)	3 (30.00)	10 (100.00)
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	0 (0.00)	2 (100.00)	2 (100.00)

*1平成26年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

第1 目的

感染症対策については、近年の新たな感染症の出現とともに、これまで制圧されてきた感染症の再興など感染症の脅威と感染症を取り巻く状況の変化に対応するため、健康危機管理の観点から、迅速かつ的確な対応、感染症の発生、拡大に備えた事前対応型の行政の構築などを柱として、平成11年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が施行された。

感染症発生動向調査事業は、感染症に関する情報を収集及び分析し、地域住民や医師等医療関係者に対して感染症に関する情報を公表していくという、感染症の予防のための施策の最も基本的な事業である。

本事業は、兵庫県内の感染症の発生情報の正確な把握と分析、その情報を速やかに地域に公表することにより、地域住民の感染症に対する理解と協力を促すとともに、医療機関における適切な初期診療を推進し、予防接種、衛生教育など適切な予防措置などを講じることにより、感染症の発生及びまん延を防止することを目的として実施する。

第2 法令等の遵守

本事業の実施にあたっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱（以下、「国要綱」という。）を遵守する。

第3 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施主体

実施主体は、兵庫県、姫路市、尼崎市及び西宮市とする。

第5 実施体制

1 兵庫県感染症情報センター及び兵庫県基幹地方感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターを兵庫県立健康生活科学研究所（以下、「県立研究所」という。）内に設置し、兵庫県における基幹感染症情報センターとしての役割を併せ持ち、神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市と連携のうえ兵庫県における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、兵庫県健康福祉部健康局疾病対策課（以下、「県疾病対策課」という。）に報告するとともに、全国情報と併せて、これらをインターネット等により速やかに情報公開する。

なお、兵庫県感染症情報センターは公表する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、必要に応じて兵庫県健康づくり審議会感染症対策専門委員会の助言を求める。

2 指定届出機関（定点）

兵庫県（神戸市内を除く）は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、

疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第6 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症及び四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 保健所

(ア) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「感染症法」という。）第12条に基づく医師からの届出、または法第13条に基づく獣医師からの届出を受けた兵庫県健康福祉事務所、姫路市保健所、尼崎市保健所及び西宮市保健所（以下、「健康福祉事務所・保健所」という。）は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、健康福祉事務所・保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の確保について、協力依頼するものとする。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町、指定医療機関その他の関係医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

イ 地方衛生研究所

(ア) 県立研究所、姫路市環境衛生研究所、尼崎市立衛生研究所又は西宮市保健所（以下、「地方衛生研究所」という。）は、検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を健康福祉事務所・保健所及び県疾病対策課に送付するとともに、健康福祉事務所・保健所を經由して診断した医師に通知する。

(イ) 検査のうち、姫路市環境衛生研究所、尼崎市立衛生研究所又は西宮市保健所において実施することが困難なものについては、必要に応じて県立研究所に検査を依頼する。

なお、県立研究所においても実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所において検査を依頼する。

ウ 兵庫県感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターは、兵庫県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、関係機関に情報提供する。

エ 県疾病対策課

県疾病対策課は、健康福祉事務所・保健所から患者情報の入力があり次第、登録情報を確認し、報告処理を行う。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 保健所

(ア) 1 (1) アの (ア) の届出を受けた健康福祉事務所・保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、健康福祉事務所・保健所は、別表 1 の(61)、(63)、(64)、(66)、(67)、(68)、(71)、(74)または(76)から(82)までの患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の確保等について協力依頼するものとする。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町、指定医療機関その他の関係医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

イ 地方衛生研究所

(ア) 地方衛生研究所は、検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を健康福祉事務所・保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、健康福祉事務所・保健所及び県疾病対策課に送付する。

(イ) 検査のうち、姫路市環境衛生研究所、尼崎市立衛生研究所又は西宮市保健所において実施することが困難なものについては、必要に応じて県立研究所に検査を依頼する。

なお、県立研究所においても実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所において検査を依頼する。

ウ 兵庫県感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターは、兵庫県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、関係機関に情報提供する。

エ 県疾病対策課

県疾病対策課は、健康福祉事務所・保健所から患者情報の入力があり次第、登録情報を確認し、報告処理を行う。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

感染症法第 14 条に定める定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、兵庫県（神戸市を除く）は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ兵庫県全体（神戸市を除く）の感染症の発生状況を把握できるよう考慮すること。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の(83)から(93)までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定すること。小児科定点の数は国要綱に基づき算定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の(94)に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とすること。内科定点の数は国要綱に基づき算定する。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の(95)及び(96)に掲げるものについては、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定すること。眼科定点の数は国要綱に基づき算定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の(97)から(100)に掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。性感染症定点の数は国要綱に基づき算定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の(86)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(101)から(107)までに掲げるものについては、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を2次医療圏域ごとに1カ所以上、基幹定点として指定する。

なお、基幹定点においては、別表1の(94)に掲げるインフルエンザのうち、入院患者も届出対象とする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、兵庫県は患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。なお、病原体定点の数等については、次の基準の範囲内で、県立研究所と協議して決定する。

(ア) アの（ア）により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

(イ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とする。

(ウ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(エ) アの(エ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(オ) アの(オ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別途定める「病原体検査指針」により、微生物学的検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、「病原体検査指針」に基づき、検体等を梱包のうえ県立研究所へ送付する。

ウ 健康福祉事務所・保健所

(ア) 健康福祉事務所・保健所は、原則として、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課に報告する。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況を把握し、市町、指定医療機関その他の関係医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況を提供し連携を図る。

エ 県立研究所

(ア) 県立研究所は、別記様式の検査票及び検体が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として病原体定点に通知するとともに、定点を管轄する健康福祉事務所・保健所及び県疾病対策課に送付する。

(イ) 県立研究所において実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(ウ) 県立研究所は、兵庫県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

オ 兵庫県感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターは、兵庫県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等とし

て公表される全国情報と併せて、インターネット等による公表のほか、県疾病対策課等関係機関に情報提供する。

カ 県疾病対策課

健康福祉事務所・保健所からの週報又は月報の入力状況を確認し、国への報告処理を行う。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 疑似症定点の選定

(ア) 第一号疑似症定点

対象感染症のうち、別表1の(112)に掲げるものについては、内科又は小児科を標榜する医療機関（主として内科又は小児科医療を提供しているもの）を第一号疑似症定点とする。なお、小児科定点又はインフルエンザ定点を兼ねることができる。

(イ) 第二号疑似症定点

対象感染症のうち、別表1の(113)に掲げるものについては、内科、小児科又は皮膚科を標榜する医療機関（主として内科又は小児科医療を提供しているもの）を第二号疑似症定点とする。ただし、当面の間は第一号疑似症定点を第二号疑似症定点として選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、直ちに別記様式7-7に記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。

(ウ) (イ) の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 保健所

(ア) 健康福祉事務所・保健所は、疑似症定点における症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課に報告する。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町、指定医療機関その他の関係医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に

発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 兵庫県感染症情報センター

兵庫県感染症情報センターは、兵庫県内の全ての疑似症情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、関係機関に情報公開する。

エ 県疾病対策課

健康福祉事務所・保健所からの入力状況を確認する。

5 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、兵庫県の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査を構築していくこととする。
- (2) 本実施要領に定める事項以外の内容については、姫路市、尼崎市及び西宮市の意見を聞きながら、必要に応じて県健康福祉部健康局長が定めることとする。

6 神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市との関係

兵庫県は、本事業を実施するため神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市と協議し、連携を図る。

附 則

- 1 この実施要領は、平成 22 年 9 月 1 日から施行する。
- 2 兵庫県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱（昭和 62 年 1 月 1 日施行）は廃止する。
- 3 この実施要領の一部改正は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。
- 4 この実施要領の一部改正は、平成 23 年 9 月 5 日から施行する。
- 5 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 3 月 4 日から施行する。
- 6 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 7 この実施要領の一部改正は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。
- 8 この実施要領の一部改正は、平成 26 年 7 月 26 日から施行する。
- 9 この実施要領の一部改正は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

別表1 兵庫県感染症発生動向調査事業の対象感染症

類型	疾患名	届出
一類	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱	全数
二類	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）、(12)鳥インフルエンザ（H5N1）	全数
三類	(13)コレラ、(14)細菌性赤痢、(15)腸管出血性大腸菌感染症、(16)腸チフス、(17)パラチフス	全数
四類	(18)E型肝炎、(19)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(20)A型肝炎、(21)エキノкокクス症、(22)黄熱、(23)オウム病、(24)オムスク出血熱、(25)回帰熱、(26)キャサナル森林病、(27)Q熱、(28)狂犬病、(29)コクシジオイデス症、(30)サル痘、(31)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。）、(32)腎症候性出血熱、(33)西部ウマ脳炎、(34)ダニ媒介脳炎、(35)炭疽、(36)チクングニア熱、(37)つつが虫病、(38)デング熱、(39)東部ウマ脳炎、(40)鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）、(41)ニパウイルス感染症、(42)日本紅斑熱、(43)日本脳炎、(44)ハンタウイルス肺症候群、(45)Bウイルス病、(46)鼻疽、(47)ブルセラ症、(48)ベネズエラウマ脳炎、(49)ヘンドラウイルス感染症、(50)発しんチフス、(51)ボツリヌス症、(52)マラリア、(53)野兔病、(54)ライム病、(55)リッサウイルス感染症、(56)リフトバレー熱、(57)類鼻疽、(58)レジオネラ症、(59)レプトスピラ症、(60)ロッキー山紅斑熱	全数
五類	(61)アメーバ赤痢、(62)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(63)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(64)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(65)クリプトスポリジウム症、(66)クロイツフェルト・ヤコブ病、(67)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(68)後天性免疫不全症候群、(69)ジアルジア症、(70)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(71)侵襲性髄膜炎菌感染症、(72)侵襲性肺炎球菌感染症、(73)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(74)先天性風しん症候群、(75)梅毒、(76)播種性クリプトコックス症、(77)破傷風、(78)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(79)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(80)風しん、(81)麻しん、(82)薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数
	(83)RSウイルス感染症、(84)咽頭結膜熱、(85)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(86)感染性胃腸炎、(87)水痘、(88)手足口病、(89)伝染性紅斑、(90)突発性発しん、(91)百日咳、(92)ヘルパンギーナ、(93)流行性耳下腺炎、(94)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(95)急性出血性結膜炎、(96)流行性角結膜炎、(97)性器クラミジア感染症、(98)性器ヘルペスウイルス感染症、(99)尖圭コンジローマ、(100)淋菌感染症、(101)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(102)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(103)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(104)マイコプラズマ肺炎、(105)無菌性髄膜炎、(106)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(107)薬剤耐性緑膿菌感染症	定点
疑似症	法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (112)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）、(113)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該感染症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。）	定点
新型インフルエンザ等感染症	(108)新型インフルエンザ、(109)再興型インフルエンザ	全数
指定感染症	(110)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）、(111)鳥インフルエンザ（H7N9）	全数

別表2 定点把握対象の五類感染症の調査単位

定点種類	対象疾患	調査単位
小児科定点	(83)RSウイルス感染症、(84)咽頭結膜熱、(85)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(86)感染性胃腸炎、(87)水痘、(88)手足口病、(89)伝染性紅斑、(90)突発性発しん、(91)百日咳、(92)ヘルパンギーナ、(93)流行性耳下腺炎	1週間（月曜日から日曜日）
インフルエンザ定点	(94)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）	1週間（月曜日から日曜日）
眼科定点	(95)急性出血性結膜炎、(96)流行性角結膜炎	1週間（月曜日から日曜日）
性感染症定点	(97)性器クラミジア感染症、(98)性器ヘルペスウイルス感染症、(99)尖圭コンジローマ、(100)淋菌感染症	各月
基幹定点	(94)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）※ただし、入院患者に限定する。	1週間（月曜日から日曜日）
	(86)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(101)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(102)細菌性髄膜炎、(104)マイコプラズマ肺炎、(105)無菌性髄膜炎	
	(103)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(106)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(107)薬剤耐性緑膿菌感染症	各月